

2025 年度 相愛高等学校 2 年 普通科 特進コース シラバス

教科	理科	科目	生物	単位数	3	選択等	理系選択
教科書	「新編 生物」(数研出版)						
副教材等	リードα 生物基礎＋生物 (数研出版)						

1 学習の到達目標

- ・生物学が日常生活や社会と深く結びついていること実感し、理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につける。
- ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- ・生徒同士がコミュニケーションを図り、対話的に学習する力を養う。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

生物は、細胞のようなミクロな視点から生態系のようなマクロな視点で物事をとらえる科目です。生物基礎で学んだ事柄を地球上の他の生物に応用し、なぜ生命は誕生し、どう進化してきたのかを至近要因と究極要因から探求していきます。日頃から様々な生き物に触れ、彼らの持つ生態や進化の不思議さを、一緒に考えて、解明していきましょう

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	基本的な概念や原理・法則などを理解し、身につける。観察、実験の基本操作を習得し、計画的な実施、結果の記録や整理、資料の活用の仕方を身につける。	自然の事物・現象の中に問題を見出し、見通しを持って観察、実験などを行い、その結果を解釈し、表現する。	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しを持って振り返ったりするなど、科学的に探究する態度を養う。
評 価 方 法	定期考査 小テスト・課題 観察や実験活動 表の作成・グラフ作成	定期考査 パフォーマンス課題 観察や実験活動 授業中の発言やノートやレポートなどの記述 小テスト ・課題	授業中の発言や態度、ノートやレポートなどの内容 授業や単元の振り返りシート の内容

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにあわせて評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	生物の進化	第1節 生命の起源と生物の進化 ・生命の起源を化学進化仮説を通して理解する。 ・地球環境の変化に適応していく過程で進化が生じていることを理解する。	○	○	○	I：生命の起源について、化学進化を経て生命が誕生したことを理解する。 細胞の進化によって地球環境が変化したり、地球環境の変化が進化に影響したりしてきたことを理解する。 II：学習したことをもとに、最初の生物が地上ではなく海洋中で誕生した理由について考え、説明することができる。 III：授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度
		第2節 遺伝子の変化と多様性 ・遺伝子の変化が進化の駆動要因となることを理解する。 ・遺伝子の変化が突然変異によって生じることを理解する。 ・突然変異によって遺伝的な多様性が生じ、個体による形質の違いが生まれ、適応度に差が生じることを理解する。	○	○	○	I：生物の形質の変化が、突然変異によって生じることを理解する。 突然変異が遺伝的な多様性をもたらすことを理解する。 II：遺伝子の変化と形質の変化を示した資料を比較し、遺伝子が変わると、遺伝子をもとにつくられるタンパク質が変化し、その結果形質が変化することを見いだすことができる。 III：授業中の態度、提出物	
		第3節 遺伝子の組み合わせの	○	○	○	I：有性生殖では、減数分裂・受精を経て遺伝子の組み合わせが変化すること	

1 学 期 末	生 物 の 進 化	変化 ・有性生殖で多様性が生まれる仕組みを減数分裂を通して理解する。 ・遺伝の法則、連鎖と組み換えの仕組みを理解する。 ・性染色体について理解し、それらの働きを理解する。				を理解する。 減数分裂の過程で、染色体の乗換えにより遺伝子の組換えが起こることを理解する。 Ⅱ：無性生殖の場合、親と子で遺伝子の組み合わせがどうなるのかを考え、説明することができる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	
		第4節 進化のしくみ ・進化の駆動要因としての遺伝子頻度の変化を自然選択を通して理解する。 ・地理的な隔離によって生じる種分化のパターンを理解する。 ・雑種や自家不和合性などの遺伝子の観点から進化の仕組みを理解する。 ・性選択の仕組みを理解する。	○	○	○	Ⅰ：自然選択と遺伝的浮動によって遺伝子頻度が変わることを理解する。 隔離を経て種分化が生じることを理解する。 Ⅱ：異なる種の親から子が生まれることはあるが、その子からは子が生まれない理由を考え、説明することができる。 鎌状赤血球貧血症とマラリアの発生に関連がある理由について考え、説明することができる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度
		第5節 生物の系統と進化 ・生物の系統の推定方法を理解する。 ・生物の分類群について、遺伝情報と形態学を通じて理解する。 ・分子時計について理	○	○	○	Ⅰ：塩基配列やアミノ酸配列によって、生物の系統を推定できることを理解する。 ドメイン、界、門などの分類群について理解する。 Ⅱ：あるタンパク質のアミノ酸配列を複数種の生物で比較した資料に基づいて、アミノ酸配列の差異をもとに生物の系	

		解する。 第 6 節 人類の系統と進化 ・ 人類の系統を理解する。 ・ 人類と他の生物との違いを理解する。 ・ 霊長類と類人猿と人類の違いを DNA データをもとに理解する。	○	○	○	統が推定できることを見いだすことができる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物 Ⅰ：人類の系統を理解する。 人類は直立二足歩行を行うという点で他の生物とは異なることを理解する。 Ⅱ：7 種類の霊長類について、雑種 DNA の熱安定性に関するデータをもとに系統を推定し、さらに分岐年代を推定することができる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	
2 学期 中間	細胞と分子	第 1 節 生体物質と細胞 ・ 細胞を構成する物質とそれらの特徴を理解する。 ・ 細胞と細胞小器官の構造と機能について理解する。 ・ 細胞内共生説について理解している。 ・ 生体膜の構造と働きについて理解する。 第 2 節 タンパク質の構造と性質 ・ 細胞内のタンパク質の構造について理解する。 ・ 生体のタンパク質の	○	○	○	Ⅰ：細胞を構成する代表的な物質とその特徴について理解する。 生物の基本単位である細胞の構造とその機能について理解する。 Ⅱ：ミトコンドリアや葉緑体が、核とは別の独自の DNA をもっている理由を考え、説明することができる。 生体膜において、リン脂質分子がどのように配置されているかを、リン脂質分子の構造をもとに考えることができる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物 Ⅰ：細胞の生命活動を担うタンパク質の構造について理解する。 タンパク質の構造と機能との関係について理解する。 Ⅱ：タンパク質の立体構造が、タンパク質の機能と密接に関係していることを理解し、説明することができる。	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度

		構造と機能について理解する。 第3節 化学反応にかかわるタンパク質 ・酵素の基本的な性質と反応条件について理解する。 ・酵素の活性と阻害について反応のグラフなどを通して理解する。 第4節 膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質 ・物質輸送に関するタンパク質について、その働きと種類を理解する。 ・尿崩症とアクアポリンの関係を理解する。	○	○	○	Ⅲ：授業中の態度、提出物 Ⅰ：酵素の基本的な性質と、酵素がはたらく反応条件について理解する。 酵素反応を調節するしくみについて理解する。 Ⅱ：酵素の活性を阻害する薬について、文献やインターネットを用いて調べることができる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物 Ⅰ：生体膜を介した物質輸送と、それにかかわるタンパク質のはたらきについて理解する。 情報伝達にかかわる受容体タンパク質のはたらきについて理解する。 Ⅱ：尿崩症の原因を、腎臓の細胞におけるアクアポリンの存在と関連づけて考えることができる。また、尿崩症の治療法について考え、説明することができる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	
	代謝	第1節 代謝とエネルギー ・生体内で起こる化学反応を理解する。 ・生体内で生じる酸化還元反応について、その種類と機能について理解する。	○	○	○	Ⅰ：生体内で起こる化学反応の一部は酸化還元反応であり、反応に際して大きなエネルギーの出入りを伴うことを理解する。 Ⅱ：生体内の化学反応のうち、酸化還元反応を伴う反応では、大きなエネルギーの出入りが起こることを理解し、説明することができる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度

2 学 期 期 末		第2節 呼吸と発酵 ・ATPを産生する上で の細胞呼吸の働きを理 解する。 ・有機物を消費して生 物が生存していること を理解する。 ・呼吸と発酵の違いを 理解する。	○	○	○	I：呼吸では有機物が酸化され、その際 に取り出されたエネルギーを用いて ATPが合成されることを理解する。 発酵では酸素を用いずに有機物が分解 され、ATPが合成されることを理解す る。 II：呼吸と発酵では、グルコース1分子 から得られるATP量に大きな違いがあ る理由を説明することができる。 III：授業中の態度、提出物	
		第3節 光合成 ・光合成によって有機 物とATPが生じる過程 を理解する。 ・ミトコンドリアと葉 緑体によるATP産生の 違いを理解する。 ・生物が代謝を獲得す ることで環境に適応し てきたことを理解す る。	○	○	○	I：光合成では、光エネルギーを用いて ATPとNADPHが合成され、これら を用いて二酸化炭素が還元されて有機物 が生じることを理解する。 II：光リン酸化と酸化的リン酸化の共通 点を説明することができる。 光合成において、葉緑体のチラコイド内 外のH⁺の濃度差と、ATP合成速度の関 係を調べるのに必要な実験を考え、説明 することができる。 III：授業中の態度、提出物	
	遺 伝 情 報 の 発 現 と 発 生	第1節 DNAの構造と複製 ・DNAの半保存的複製 のしくみを理解する。 ・DNAの複製の至近要 因を理解する。 ・生体の複製時に生じ る様々なイベントにい て理解する。	○	○	○	I：DNAの複製のしくみを理解する。 II：DNAの複製に関する資料に基づい て、DNAの複製のしくみを見いだすこ とができる。 岡崎フラグメントの存在を示唆する実 験データに基づいて、岡崎フラグメント が存在することを論理的に説明するこ とができる。 III：授業中の態度、提出物	
		第2節 遺伝情報の発現	○	○	○	I：遺伝情報の発現のしくみを理解す	定期考査 小テスト

3 学 期	遺 伝 情 報 の 発 現 と 発 生	・ 遺伝情報の発現のしくみを理解する。 ・ 真核生物と原核生物の発現の違いを理解する。 ・ セントラルドグマについて、核酸の種類と機能に着目しながら理解する。				る。 Ⅱ：真核生物と原核生物の遺伝情報の発現の過程を表した資料を比較し、遺伝子発現の過程の違いを見いだすことができる。 DNA の塩基では、ウラシルではなくチミンが用いられている理由を考え、説明することができる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	課題 実験活動 授業態度
		第 3 節 遺伝子の発現調節 ・ 遺伝子の発現が調整されることで、個体の適応に影響を与えることを理解する。 ・ 原核生物と真核生物の遺伝子発現調節のしくみの違いを理解する。 ・ オペロン説とそれらの突然変異体について理解する。	○	○	○	Ⅰ：遺伝子の発現が調節されていることを理解する。 原核生物と真核生物において、遺伝子の発現が調節されるしくみを理解する。 Ⅱ：遺伝子の発現調節に関する資料に基づいて、遺伝子の発現が調節されていることを見いだすことができる。 ラクトースオペロンに突然変異が生じた 2 種類の突然変異株に野生株の DNA を導入する実験の結果に基づいて、それぞれの突然変異株について DNA のどの領域に異常があったのかを推定することができる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	
		第 4 節 発生と遺伝子発現 ・ 発生と遺伝子の関係性について理解する。 ・ 同じ遺伝情報をもつ細胞が異なる細胞に分化する要因として、細胞質に含まれる物質が分裂の際に不均等に分配されることや、周囲の細胞からの誘導があ	○	○	○	Ⅰ：発生の過程で、遺伝子の発現調節によって細胞が分化するしくみを理解する。 Ⅱ：同じ遺伝情報をもつ細胞が異なる細胞に分化する要因として、細胞質に含まれる物質が分裂の際に不均等に分配されることや、周囲の細胞からの誘導があ Ⅲ：授業中の態度、提出物	

		ることを理解する。 第 5 節 遺伝子を扱う技術 ・ 遺伝子を扱う技術について、その原理と有用性を理解する。 ・ バイオテクノロジーについて、その恩恵と課題を理解する。	○	○	○	I : 遺伝子を扱う技術について、その原理と有用性を理解する。 II : 遺伝子組換え技術によって、ある生物の遺伝子を別の生物に発現させることができる理由を考え、説明することができる。 III : 授業中の態度、提出物	
--	--	--	---	---	---	--	--

2025 年度 相愛高等学校 2 年 普通科 特進コース シラバス

教科	理科	科目	化学	単位数	2	選択等	理系必修
教科書	「化学 Vol.1 理論編」「化学 Vol.2 物質編」(東京書籍)						
副教材等	「セミナー 化学基礎+化学」(第一学習社)						

1 学習の到達目標

- ・化学的な事物・現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- ・化学的な事物・現象を観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。
- ・日常生活や社会の化学的な事物・現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

基本を覚えて、コツをつかむとわかりやすくなる科目です。原子や化学反応などの基礎知識の理解から計算能力まで学び、身近な物質や身の回りの事象を化学的に捉えられるようにしていきましょう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	基本的な概念や原理・法則などを理解し、身につける。観察、実験の基本操作を習得し、計画的な実施、結果の記録や整理、資料の活用の仕方を身につける。	自然の事物・現象の中に問題を見出し、見通しを持って観察、実験などを行い、その結果を解釈し、表現する。	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しを持って振り返ったりするなど、科学的に探究する態度を養う。
評 価 方 法	定期考査 小テスト・課題 観察や実験活動 表の作成・グラフ作成	定期考査 パフォーマンス課題 観察や実験活動 式の利用やグラフ作成 授業中の発言やノートやレポートなどの記述 小テスト・課題	授業中の発言や態度、ノートやレポートなどの内容 授業や単元の振り返りシート の内容
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	理 論 編 ・ 人 間 生 活 の 中 の 化 学 ・ 物 質 の 状 態	0 編 人間生活の中の化学 ・身の回りの中化学を探す		○	○	II：教科書などを用いて、身の回りの物質について調べ、思考・判断し、レポートで表現する III：グループで答えを導き出す。	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度 自己評価シート
		1 編 物質の状態					
		1 章 物質の状態					
		1 節 物質の三態 ・状態変化とエネルギー ・状態変化と分子間力	○	○	○	I：物質の三態や粒子のふるまいを理解している。状態変化に伴うエネルギーの出入りについて理解している。分子間力を理解し、液体の沸点のちがいについて理解している。 II：熱運動をもとに物質の三態や絶対温度について考察している。物質の融点、沸点について、化学結合や分子間力の種類と関係を見出している。 III：実験や授業中の態度、提出物	
		2 節 気体・液体間の状態変化 ・気体の圧力 ・気液平衡と蒸気圧 ・沸騰 ・状態図	○	○	○	I：気液平衡、状態図、沸騰を理解している。 II：状態図と蒸気圧曲線の関係について科学的に説明できる。 III：実験や授業中の態度、提出物	
		2 章 気体の性質	○	○	○	I：気体について、熱運動のようすや圧力・体積・温度の関係を理解している。 II：気体について、温度と圧力の関係性や、ボイル・シャルルの法則と物質の三態を結び付けて考察している。 III：授業中の態度、提出物	
		1 節 気体 ・ボイルの法則 ・シャルルの法則 ・ボイル・シャルルの法則					
		2 節 気体の状態変化 ・気体の状態方程式 ・気体の分子量	○	○	○	I：気体の状態方程式、混合気体、ドルトンの分圧の法則、理想気体を理解している。 II：ボイル・シャルルの法則を一般化して表現	

		・混合気体 ・理想気体と実在気体			することができる、気体の状態方程式を導くことができる。理想気体と実在気体のちがいについて考察をしている。 Ⅲ：授業中の態度、提出物		
1 学 期 末	物 質 の 状 態	3 章 溶液の性質 1 節 溶解 ・溶解のしくみ ・固体の溶解度 ・溶液の濃度 ・固体の溶解度 2 節 希薄溶液の性質 ・蒸気圧降下と沸点上昇 ・凝固点降下 ・沸点上昇・凝固点降下と分子量 ・浸透圧 ・浸透圧と分子量 3 節 コロイド ・コロイド粒子 ・コロイド溶液の性質 ・コロイド溶液の種類 4 章 固体の構造 1 節 結晶 ・結晶の種類 2 節 金属結晶の構造 3 節 イオン結晶の構造 4 節 分子結晶と共有結合の結晶 ・分子結晶	○	○	○	Ⅰ：溶解度と溶解度曲線の関係、ヘンリーの法則を理解している。 Ⅱ：イオン結晶と極性分子，無極性分子の溶解について溶媒の種類と関連付けて考えることができる。固体と気体の水に対する溶解の特徴について説明できる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物 Ⅰ：蒸気圧降下、沸点上昇、凝固点降下、浸透圧、ファントホッフの法則について理解している。 Ⅱ：降下度と溶質の関係を見いだして表現している。溶液の冷却曲線について溶液の濃度変化とあわせ説明できる。 Ⅲ：実験や授業中の態度、提出物 Ⅰ：コロイド溶液の様々な性質を理解している。 Ⅱ：疎水コロイドと親水コロイド関係性を見いだし表現できる。また、それらが身のまわりでどこに使われているという視点で考えようとしている。 Ⅲ：授業中の態度、提出物 Ⅰ：単位格子と配位数について理解している。 Ⅱ：イオン半径と結晶の安定性について、電気的な引力・斥力の視点から考察をしている。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度 自己評価シート

		・共有結合の結晶					
2 学 期 中 間	化 学 反 応 と エ ネ ル ギ ー	2 編 化学反応とエネルギー 1 章 化学反応と熱・光 1 節 反応熱とエンタルピー変化 ・化学反応と熱の出入り ・エンタルピーの変化 ・反応エンタルピー ・化学反応が自然に進む方向 2 節 ヘスの法則 ・ヘスの法則 ・結合エンタルピー 3 節 光とエネルギー ・光とエネルギー ・物質と光 2 章 電池と電気分解 1 節 電池 ・電池の原理 ・実用電池 2 節 電池分解 ・電気分解 ・電気分解における反応 ・電気分解の法則	○	○	○	I：化学変化や状態変化にともなう熱の出入りを理解している。温度と熱の違いを理解している。 II：反応熱とエンタルピーの関係性を見いだし説明できる。 III：授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度 自己評価シート
			○	○	○	I：ヘスの法則(総熱量保存の法則)を理解している。 II：様々な反応経路や中間物質を挙げ、ヘスの法則が成立するか考えようとしている。また、反応経路とエンタルピーの関係性を表現している。 III：授業中の態度、提出物	
			○	○	○	I：光の正体・性質を理解している。 II：化学反応、エネルギー準位や電子軌道と関連付けて、光の放出や吸収を考察している。 III：実験や授業中の態度、提出物	
			○	○	○	I：酸化還元反応と電子の関係を理解している。電池の原理や各実用電池の仕組みについて理解している。 II：電池の効率をより良くするという視点で電池の構造や特徴を捉え、考えている。 III：実験や授業中の態度、提出物	
			○	○	○	I：電気分解の基本的な用語を確認し、水溶液の電気分解の酸化還元反応について理解している。水酸化ナトリウムの製造、銅の電解精錬、電気メッキ、アルミニウムの溶融塩電解を通して電気分解の工業的な利用について理解を深める活動を行っている。	

					Ⅱ：金属のイオン化傾向を用いて、陽極・陰極で発生する反応を考察している。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	
2 学 期 末	化学反応とエネルギー・化学反応の速さと平衡	3 編 化学反応の速さと平衡 1 章 化学反応の速さ 1 節 化学反応の速さ ・速い反応と遅い反応 ・反応の速さの表し方 2 節 反応速度を変える条件 ・反応速度と濃度 ・反応速度と温度 ・反応速度と触媒 ・反応速度を変えるほかの要因 3 節 反応のしくみ ・粒子の衝突 ・活性化エネルギー 3 編 化学反応の速さと平衡 2 章 化学平衡 1 節 可逆反応と不可逆反応 ・可逆反応と不可逆反応 ・化学平衡 ・平衡定数と化学平衡の法則	○ 			

	の速さと平衡	・濃度変化と平衡の移動 ・圧力変化と平衡の移動 ・温度変化と平衡の移動 ・触媒と平衡の移動 ・ルシャトリエの原理の化学工業への応用				Ⅱ：可逆反応において，できるだけ生成物の収量を増やしたいとき，どのような条件で反応させると良いだろうかという視点で推察できる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	授業態度 自己評価シート
		3 章 水溶液中の化学平衡 1 節 電離平衡 ・電離平衡 ・水の電離平衡	○	○	○	Ⅰ：酸の電離定数・塩基の電離定数について理解している。 Ⅱ：同じ濃度の塩酸と酢酸の電気伝導性をもとに、弱酸や弱塩基の水溶液の pH を計算で求めるにはどうしたらよいか考察することができる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	
		2 節 塩の水への溶解 ・塩の水溶液の性質 ・緩衝液と pH ・溶けにくい塩の溶解平衡 ・溶解平衡と金属イオンの分離	○	○	○	Ⅰ：加水分解、緩衝作用、緩衝液の性質について理解している。 Ⅱ：中和と中性の言葉について確認し，塩の水溶液の化学平衡について意見を交換する活動ができている。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	

2025 年度 相愛高等学校 2 年 普通科特進コース理系 シラバス

教科	数学	科目	数学Ⅲ	単位数	2	選択等	必修
教科書	高等学校 数学Ⅱ、数学Ⅲ（数研出版）						
副教材等	4 プロセス 数学Ⅱ+B、数学Ⅲ（数研出版） チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B、数学Ⅲ（数研出版） スタディサプリ						

1 学習の到達目標

図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考え、さらには数学Ⅲにおける極限、微分法について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

授業は数学Ⅱ（理系）の進度に合わせて行い、数学Ⅱ（理系）の授業内で学んだことを深化させていくことを目標とします。数学Ⅱの内容がしっかり固められての数学Ⅲです。すべての教科に優先して取り組みましょう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	Ⅰ：知識・技能（技術）	Ⅱ：思考・判断・表現	Ⅲ：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	数学Ⅲにおける極限、微分法についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数学Ⅲについて、数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
評 価 方 法	朝テスト 授業中の小テスト 定期考査	授業中の小テスト 定期考査 レポート課題	提出物 レポート課題

上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学 期	単 元 名	学習内容	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学 期 期 末	関 数	数学Ⅲ 第1章 関数	○	○	○	分数関数や無理関数の性質を理解し、それを方程式や不等式の考察に活用できる。また、関数の一般的な性質として逆関数や合成関数などについて理解し、事象の考察に活用できる。	小テスト 定期考査 提出物 レポート課題
2 学 期 期 末	極 限	第2章 極限 第1節 数列の極限 第2節 関数の極限	○	○	○	数列の極限の概念を理解し、様々な数列の極限が求められる。無限級数については、その極限と各項の極限との関係を理解し、正しく考察できる。 数列の極限と関連させて関数の極限について理解し、関連して関数の連続性についても理解するとともに、それらを様々な関数の考察に活用できる。	小テスト 定期考査 提出物 レポート課題
3 学 期	微 分 法	第3章 微分法 第1節 導関数 第2節 いろいろな関数の導関数	○	○	○	微分係数や導関数の定義を理解し、導関数についての様々な性質や公式を導き、それらを導関数の計算に活用できる。 導関数の定義や公式を適用して、いろいろな関数の導関数を導き、それを用いて関数が微分できる。また、陰関数や媒介変数で表された関数の微分もできるようにし、それらを事象の考察に活用できる。	小テスト 定期考査 提出物 レポート課題

2025 年度 相愛高等学校 2 年 普通科特進コース理系 シラバス

教科	数学	科目	数学Ⅱ(文系)	単位数	4	選択等	必修
教科書	高等学校 数学Ⅱ (数研出版)						
副教材等	4プロセス 数学Ⅱ+B (数研出版) チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B (数研出版) スタディサプリ						

1 学習の到達目標

図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えを理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

授業に集中して、授業中にわかる、できるようになりましょう。復習も大切に。
自分で考えてもわからないところ、答えが合わないところはすぐに質問しましょう。
宿題は必ずしましょう。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数値化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
評 価 方 法	朝テスト 授業中の小テスト 定期考査	授業中の小テスト 定期考査 レポート課題	提出物 レポート課題

法			
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評価にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学 期	単 元 名	学習内容	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学 期 中 間	図 形 と 方 程 式	第3章 図形と方程式 第2節 円 第3節 軌跡と領域	○	○	○	座標や式を用いて、円の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できる。 図形を、与えられた条件を満たす点の集合として認識するとともに、不等式を満たす点の集合が座標平面上の領域を表すことを理解し、それらを事象の考察に活用できる。	小テスト 定期考査 提出物 レポート課題
1 学 期 期 末	三 角 関 数	第4章 三角関数 第1節 三角関数	○	○	○	角の概念を一般角まで拡張して、三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について多面的に考察できる。	小テスト 定期考査 提出物 レポート課題
2 学 期 中 間		第4章 三角関数 第2節 加法定理 第5章 指数関数 と対数関数 第1節 指数関数 第2節 対数関数	○	○	○	加法定理を理解し、それらを事象の考察に活用できる。 指数関数・対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できる。	小テスト 定期考査 提出物 レポート課題
2 学 期 期 末		第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数 と導関数 第2節 関数の値の変化	○	○	○	微分係数や導関数の意味について理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できる。 導関数の理解を深めるとともに、導関数の有用性を認識できる。	小テスト 定期考査 提出物 レポート課題
3 学 期		第6章 微分法と積分法 第3節 積分法	○	○	○	積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できる。	小テスト 定期考査 提出物 レポート課題

2025 年度 相愛高等学校 2 年 普通科 特進コース シラバス

教科	理科	科目	生物基礎	単位数	2	選択等	必修
教科書	「新編 生物基礎」(数研出版)						
副教材等	「新編 生物基礎 サポートノート」(数研出版) 「リード Light 生物基礎」(数研出版)						

1 学習の到達目標

・生物学が日常生活や社会と深く結びついていること実感し、理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につける。 ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ・生徒同士がコミュニケーションを図り、対話的に学習する力を養う。
--

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

生物基礎は、細胞のようなミクロな視点から生態系のようなマクロな視点で物事をとらえる科目です。生物の不思議を、一緒に考えて、解明していきましょう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	基本的な概念や原理・法則などを理解し、身につける。観察、実験の基本操作を習得し、計画的な実施、結果の記録や整理、資料の活用の仕方を身につける。	自然の事物・現象の中に問題を見出し、見通しを持って観察、実験などを行い、その結果を解釈し、表現する。	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しを持って振り返ったりするなど、科学的に探究する態度を養う。
評 価 方 法	定期考査 小テスト・課題 観察や実験活動 表の作成・グラフ作成	定期考査 パフォーマンス課題 観察や実験活動 式の利用やグラフ作成 授業中の発言やノートやレポートなどの記述 小テスト・課題	授業中の発言や態度、ノートやレポートなどの内容 授業や単元の振り返りシート の内容

上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	生物の多様性と生態系	第1節 植生と遷移 ・いろいろな植生とその特徴を理解する。 ・植生の遷移の過程と、遷移が進行する要因について理解する。 ・身近な植生にはどのような特徴をもつものがあるかを調べる。 ・遷移の過程を示した資料をもとに、遷移の過程で裸地から低木林に移り変わる要因、植生の樹種が交代する要因について理解する。	○	○	○	I：いろいろな植生とその特徴を理解している。 植生の遷移の過程と、遷移が進行する要因について理解している。 II：遷移の過程を示した資料をもとに、遷移の過程で裸地から低木林に移り変わる要因、植生の樹種が交代する要因について考察し、説明できる。 長い年月をかけて進行する植生の遷移を調べるには、どのような方法が考えられるか、自分の考えをまとめることができる。 III：授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度
		第2節 植生の分布とバイオーム ・世界および日本に見られるさまざまなバイオームが、気温と降水量の違いに起因して成立していることを理解する。 ・日本の各地域でどのようなバイオームが成立する可能性があるかを推測する。 ・気温・降水量と陸上のおもなバイオームの関	○	○	○	I：世界および日本に見られるさまざまなバイオームが、気温と降水量の違いに起因して成立していることを理解している。 II：日本の各地域でどのようなバイオームが成立する可能性があるかを推測し、表現できる。 気温・降水量と陸上のおもなバイオームの関係を示した資料をもとに、森林・草原・荒原のいずれになるかを決める要因に気づき、説明できる。 日本の気候の特徴をもとに、日本に分布するバイオームについて考察し、説明できる。	

		係を示した資料をもとに、森林・草原・荒原のいずれになるかを定める要因を理解する。 ・日本の気候の特徴をもとに、日本に分布するバイオームについて理解する。 ・標高の高い場所で森林が見られない理由を理解する。				標高の高い場所で森林が見られない理由を考察し、説明できる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	
1 学 期 末	生 物 の 多 様 性 と 生 態 系	第3節 生態系と生物の多様性 ・生態系がどのように構成されているのかを理解する。 ・生態系において種多様性が維持されるしくみを理解する。 ・身近な土壤に生息している生物の種類を確かめる。 ・生態系における個体数の変化を調べた実験結果に基づき、ある生物が種多様性に対して果たす役割を考察し、理解する。 第4節 生態系のバランスと保全 ・生態系のバランスが保たれているとはどのような状態かを理解する。 ・生態系の保全のために、どのような活動が行われているかを理解	○	○	○	Ⅰ：生態系がどのように構成されているのかを理解している。 ・生態系において種多様性が維持されるしくみを理解している。 Ⅱ：身近な土壤に生息している生物の種類を確かめ、表現できる。 生態系における個体数の変化を調べた実験結果に基づき、ある生物が種多様性に対して果たす役割を考察し、説明できる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度
			○	○	○	Ⅰ：生態系のバランスが保たれているとはどのような状態かを理解している。 生態系の保全のために、どのような活動が行われているかを理解している。 Ⅱ：水質と生息する生物の関係について考察し、表現できる。 生活排水の流入による生物の個体数と	

		する。 ・水質と生息する生物の関係について考察する。 ・生活排水の流入による生物の個体数と水質の変化のグラフをもとに、自然浄化のしくみを考察し、理解する。 ・外来生物の移入前後の在来魚の漁獲量の変化を示した資料をもとに、外来生物が在来魚に与えた影響を考察し、理解する。				水質の変化のグラフをもとに、自然浄化のしくみを考察し、説明できる。 外来生物の移入前後の在来魚の漁獲量の変化を示した資料をもとに、外来生物が在来魚に与えた影響を考察し、説明できる。 生態系への影響が予想される開発行為について、さまざまな観点・立場で考え、話し合い、解決策を模索することができる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	
2 学 期 中 間	生 物 の 特 徴	第2節 エネルギーと代謝 ・生命活動にはエネルギーが必要であり、そのエネルギーはATPから供給されていることを理解する。 ・ATPが生命活動にエネルギーを供給するしくみについて理解する。 ・「1日の消費エネルギーの算出」を行い、自分自身が1日で消費するエネルギーの量を知る。 第3節 呼吸と光合成 ・呼吸・光合成の過程でATPが合成されることを理解する。 ・酵素の触媒作用と基質特異性について理解	○	○	○	Ⅰ：生命活動にはエネルギーが必要であり、そのエネルギーはATPから供給されていることを理解している。 ATPが生命活動にエネルギーを供給するしくみについて理解している。 Ⅱ：ヒトがエネルギーを取り入れる方法について説明できる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度
		呼吸と光合成 ・呼吸・光合成の過程でATPが合成されることを理解する。 ・酵素の触媒作用と基質特異性について理解	○	○	○	Ⅰ：呼吸・光合成の過程でATPが合成されることを理解している。 酵素の触媒作用と基質特異性について理解している。 生体内の化学反応が、酵素のはたらきによって進行していることを理解してい	

		する。 ・生体内の化学反応が、 酵素のはたらきによっ て進行していることを 理解する。				る。 Ⅱ：カタラーゼの触媒作用によって過酸 化水素の分解が促進されることについ て、対照実験との比較に基づいて考察で きる。 植物が有機物を得る方法について説明 できる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	
2 学 期 期 末	遺 伝 子 と そ の は た ら き	第 1 節 遺伝情報と DNA ・DNA の構造および塩 基の相補性を理解す る。 ・DNA の塩基配列が遺 伝情報となっているこ とを理解する。 ・DNA の構造の模式図 をもとに、DNA が 4 種 類の塩基からなるこ と、塩基の結合は A と T、G と C の間で起こ るという規則性を理解 する。 第 2 節 遺伝情報の複製と分配 ・DNA が半保存的複製 という方法によって正 確に複製されることを 理解する。 ・体細胞分裂の過程で DNA が複製され、分配 されることを理解す る。 ・複製前後の DNA の 模式図を比較し、DNA の正確な複製には塩基 の相補性が利用されて いることを理解する。	○	○	○	I：DNA の構造および塩基の相補性を 理解している。 DNA の塩基配列が遺伝情報となってい ることを理解している。 DNA の塩基配列にはさまざまなパター ンが生じることを理解している。 Ⅱ：生物の細胞内に含まれる DNA を抽 出できる。 DNA の構造の模式図をもとに、DNA が 4 種類の塩基からなること、塩基の結合 は A と T、G と C の間で起こるという 規則性に気づき、説明できる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度

		・各時期の細胞数の割合から細胞周期における各時期の時間を推定できることを理解する。 第3節 遺伝情報の発現 ・DNAの遺伝情報をもとにタンパク質が合成される、転写・翻訳の過程を理解する。 ・分化した細胞では、細胞ごとに異なる遺伝子が発現していることを理解する。 ・アミノ酸配列と、それを指定するDNAの塩基配列を示した資料をもとに、塩基3個がアミノ酸1個に対応していること、塩基3個の配列が同じであれば同じアミノ酸が指定されることを理解する。 ・同じ遺伝情報をもつ受精卵から、異なる形やはたらきをもつ細胞が分化することを理解する。	○	○	○	I：DNAの遺伝情報をもとにタンパク質が合成される、転写・翻訳の過程を理解している。 分化した細胞では、細胞ごとに異なる遺伝子が発現していることを理解している。 II：アミノ酸配列と、それを指定するDNAの塩基配列を示した資料をもとに、塩基3個がアミノ酸1個に対応していること、塩基3個の配列が同じであれば同じアミノ酸が指定されることに気づき、説明できる。 同じ遺伝情報をもつ受精卵から、異なる形やはたらきをもつ細胞が分化することに気づき、説明できる。 III：授業中の態度、提出物	
3 学 期	ヒ ト の 体 内 環 境 の 維	第1節 体内での情報伝達と調節 ・体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解する。 ・自律神経系と内分泌系が、からだを調節す	○	○	○	I：体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解している。 自律神経系と内分泌系が、からだを調節するしくみを理解している。 II：運動によって心拍数が増加するしくみを考察し、説明できる。 運動によってからだに変化が起こった	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度

持	るしくみを理解する。 ・運動によって心拍数が増加するしくみを理解する。 ・運動によってからだに変化が起こった理由を考察する。 第2節 体内環境の維持のしくみ ・自律神経系と内分泌系のはたらきによって血糖濃度が調節されるしくみを理解する。 ・糖尿病の原因を理解する。 ・健康な人の食事の前後における血糖濃度・インスリン濃度のグラフをもとに、血糖濃度とインスリン分泌の関係を理解する。 ・健康な人と糖尿病患者の食後の血糖濃度・インスリン濃度のグラフの比較に基づいて、糖尿病患者の血糖濃度が低下しない理由を理解する。 第3節 免疫のはたらき ・自然免疫・適応免疫のしくみと、それにはたらく細胞の役割を理解する。 ・免疫記憶のしくみを理解する。 ・免疫のはたらきが低	○	○	○	理由を考察できる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物 Ⅰ：自律神経系と内分泌系のはたらきによって血糖濃度が調節されるしくみを理解している。 糖尿病の原因を理解している。 Ⅱ：健康な人の食事の前後における血糖濃度・インスリン濃度のグラフをもとに、血糖濃度とインスリン分泌の関係に気づき、説明できる。 健康な人と糖尿病患者の食後の血糖濃度・インスリン濃度のグラフの比較に基づいて、糖尿病患者の血糖濃度が低下しない理由を考察し、説明できる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物 Ⅰ：自然免疫・適応免疫のしくみと、それにはたらく細胞の役割を理解している。 免疫記憶のしくみを理解している。 免疫のはたらきが低下したり過敏になったりすることで起こる病気や、免疫のしくみを利用した医療について理解している。	
---	--	---	---	---	--	--

		下したり過敏になったりすることで起こる病気や、免疫のしくみを利用した医療について理解する。 ・細菌に感染した部位の顕微鏡写真をもとに、免疫のはたらきを考察する。 ・同じ抗原が2回体内に侵入したときの抗体産生量のグラフから、抗体産生の速さや抗体量の違いを読み取り、理解する。	○	○	○	Ⅱ：細菌に感染した部位の顕微鏡写真をもとに、免疫のはたらきを考察できる。 同じ抗原が2回体内に侵入したときの抗体産生量のグラフから、抗体産生の速さや抗体量の違いを読み取り、説明できる。 免疫の学習内容をもとに、未知の病原体に対する免疫のはたらきを考察し、自分の考えを述べることができる。 Ⅲ：授業中の態度、提出物	
--	--	--	---	---	---	--	--

2025 年度 相愛高等学校 2 年 普通科特進コース文系 シラバス

教科	数学	科目	数学Ⅱ(文系)	単位数	4	選択等	必修
教科書	高等学校 数学Ⅱ (数研出版)						
副教材等	4プロセス 数学Ⅱ+B (数研出版) チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B (数研出版) スタディサプリ						

1 学習の到達目標

図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えを理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

授業に集中して、授業中にわかる、できるようになりましょう。復習も大切に。
自分で考えてもわからないところ、答えが合わないところはすぐに質問しましょう。
宿題は必ずしましょう。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数値化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
評 価 方 法	朝テスト 授業中の小テスト 定期考査	授業中の小テスト 定期考査 レポート課題	提出物 レポート課題

法			
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評価にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学 期	単 元 名	学習内容	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学 期 中 間	図 形 と 方 程 式	第3章 図形と方程式 第2節 円 第3節 軌跡と領域	○	○	○	座標や式を用いて、円の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できる。 図形を、与えられた条件を満たす点の集合として認識するとともに、不等式を満たす点の集合が座標平面上の領域を表すことを理解し、それらを事象の考察に活用できる。	小テスト 定期考査 提出物 レポート課題
1 学 期 期 末	三 角 関 数	第4章 三角関数 第1節 三角関数	○	○	○	角の概念を一般角まで拡張して、三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について多面的に考察できる。	小テスト 定期考査 提出物 レポート課題
2 学 期 中 間		第4章 三角関数 第2節 加法定理 第5章 指数関数 と対数関数 第1節 指数関数 第2節 対数関数	○	○	○	加法定理を理解し、それらを事象の考察に活用できる。 指数関数・対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できる。	小テスト 定期考査 提出物 レポート課題
2 学 期 期 末		第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数 と導関数 第2節 関数の値の変化	○	○	○	微分係数や導関数の意味について理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できる。 導関数の理解を深めるとともに、導関数の有用性を認識できる。	小テスト 定期考査 提出物 レポート課題
3 学 期		第6章 微分法と積分法 第3節 積分法	○	○	○	積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できる。	小テスト 定期考査 提出物 レポート課題

2025 年度 相愛高等学校 2 年 普通科 特進コース シラバス

教科	地理歴史	科目	日本史探究	単位数	3	選択等	文系選択
教科書	詳説日本史（山川出版社）						
副教材等	新詳日本史（浜島書店）、プリント						

1 学習の到達目標

我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連づけて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に生きる人としての自覚と資質を養う。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

歴史は暗記科目ではありません。理解しようという姿勢で授業にのぞめば、日本史がどんどん好きになって自然に知識は定着します。毎週一回の復習テストに合格することで全国模試の成績も上がり、難関大学に挑戦できるようになります。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
評 価 方 法	定期考査 宿題テスト・小テスト 提出物 授業態度	定期考査 授業中の発問に対する回答 授業態度 提出物	定期考査 授業中の発問に対する姿勢 授業態度 提出物

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評価にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	原始・古代	日本文化のあけぼの 古墳とヤマト政権	○	○	○	文化のはじまり 農耕社会の成立 古墳文化の展開 飛鳥の朝廷	定期考査 宿題テスト・ 小テスト 授業中の発問に対する姿勢 授業態度 提出物
1 学期 期末	原始・古代	律令国家の形成 貴族政治の展開	○	○	○	律令国家への道 平城京の時代 律令国家の文化 律令国家の変容 摂関政治 国風文化 地方政治の展開と武士	定期考査 宿題テスト・ 小テスト 授業中の発問に対する姿勢 授業態度 提出物
2 学期 中間	中世	院政と武士の文化 武家政権の成立	○	○	○	院政のはじまり 院政と平氏政権 鎌倉幕府の成立 武士の社会 蒙古襲来と幕府の衰退 鎌倉文化	定期考査 宿題テスト・ 小テスト 授業中の発問に対する姿勢 授業態度 提出物
2 学期 期末	中世	武家社会の成長	○	○	○	室町幕府の成立 幕府の衰退と庶民の台頭 室町文化 戦国大名の台頭	定期考査 宿題テスト・ 小テスト 授業中の発問に対する姿勢 授業態度 提出物
	近	近世の幕開け	○	○	○	織豊政権	定期考査

3 学 期	世	幕藩体制の成立と展開 幕藩体制の動揺			桃山文化 幕藩体制の成立 幕藩社会の構造 幕政の安定 経済の発展 元禄文化 寛政の改革 宝暦・天明期の文化 幕府の衰退と近代への道 化政文化	宿題テスト・ 小テスト 授業中の発 問に対する 姿勢 授業態度 提出物
-------------	---	---	--	--	---	---

2025 年度 相愛高等学校 2 年 普通科 特進コース シラバス

教科	地理歴史	科目	世界史探究	単位数	3	選択等	文系選択
教科書	詳説世界史（山川出版社）						
副教材等	授業用詳説世界史整理ノート（山川出版社） ニューステージ世界史詳覧（浜島書店）						

1 学習の到達目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

まずは、授業をしっかりと聞いて理解をして下さい。
授業用ノートに、授業で板書する事項をしっかりと写して下さい。
わからない所は、必ず質問して下さい。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
評 価 方 法	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度

上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	第 I 部 諸地域の歴史的性質の形成	古代オリエント文明とその周辺	○	○	○	①オリエントの風土と、その文明の歴史的特質の関係を多面的・多角的に考察し表現する。 ②都市国家に富や権力が集まった理由を多面的・多角的に考察し表現する。 ③メソポタミア文明が今日に残した文化的遺産を理解する。 ④エジプト王国が長期にわたって安定した支配を続けられた理由を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤シリア・パレスチナ地方で多くの民族が興亡を繰り返した背景を理解する。 ⑥クレタ文明とミケーネ文明を比較し、そのあいだの性格の違いを理解する。 ⑦アッシリアがオリエントをはじめて統一することができた背景を多面的・多角的に考察し表現する。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度
		南アジアの古代文明	○	○	○	①南アジアの多様性を生み出した地理的環境について理解する。 ②南アジア最古の文明であるインダス文明が栄えた場所の特徴を理解する。 ③アーリヤ人の進出が南アジアにもたらした変化について多面的・多角的に考察し表現する。	
		中国の古代文明	○	○	○	①東アジアでは、気候の異なる地域が混在していたことを理解し、それぞれの気候が各地の生業などに与えた影響を考察し表現する。 ②殷と周の支配形態を比較し、共通点と相違点を理解する。 ③春秋時代と戦国時代を比較し、とくにそれぞれの秩序について違いを見出す。	

		南北アメリカ文明	○	○	○	④戦国時代の社会において、鉄器の普及がおよぼした影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ①北米と中南米の先住民社会を比較し、共通点と相違点を理解する。 ②中南米にさまざまな先住民文明が栄えたことを理解し、そこでの支配の在り方を多面的・多角的に考察し表現する。	
1 学 期 期 末	第 I 部 諸 地 域 の 歴 史 的 特 質 の 形 成	秦・漢帝国 中国の動乱と変容 東アジア文化圏の形成 仏教の成立と南アジアの統一国家	○	○	○	①新たに現れた「皇帝」の特質について、それまでの「王」と比較しながら理解する。 ②漢の支配体制の変遷を理解する。 ③統一国家の出現が社会や文化に与えた影響を、多面的・多角的に考察し表現する。 ①遊牧民族の動きと魏晉南北朝の動乱との関係について理解する。 ②魏晉南北朝時代に仏教や道教が力を持つようになった要因や背景を、多面的・多角的に考察し表現する。 ③魏晉南北朝時代の中国の情勢が、朝鮮や日本に与えた影響について理解する。 ①唐の勢力圏の広がりを理解する。 ②唐代初期の社会の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。 ③唐の制度や文化が近隣諸国に与えた影響について理解する。 ④安史の乱前後の唐の制度や社会の変化を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤突厥・ウイグルと隋・唐の関係を理解する。 ⑥ソグド人の中央ユーラシアや東アジアにおける役割について理解する。 ①仏教やジャイナ教などの新たな宗教に共通する点について理解する。 ②南アジア最初の統一王朝であるマウリヤ朝のもとでの仏教の発展について理解する。 ③クシャーナ朝と周辺諸地域との関係を多面的・多角的に考察し表現する。	定期考查 提出課題 発問評価 授業態度

		インド古典文化とヒンドゥー教の定着	○	○	○	④「海の道」の交易における南インドの役割を多面的・多角的に考察し表現する。 ①グプタ朝における宗教や文化の展開を理解する。 ②8～10世紀の諸勢力が割拠した時代における各地の政権の政策を理解する。 ③ヒンドゥー教が南アジアの社会に根づいていった背景を多面的・多角的に考察し表現する。	
		東南アジア世界の形成と展開	○	○	○	①東南アジアの風土について他のアジアや日本と比較したうえで理解する。 ②東南アジアと南アジア・中国との関係を多面的・多角的に考察し表現する。 ③東南アジアにおける国家形成の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。	
		イラン諸国家の興亡とイラン文明	○	○	○	①アケメネス朝が広大な領域に中央集権的支配を築ことができた背景や要因を理解している。 ②パルティアとササン朝の繁栄の背景や要因を理解する。 ③パルティアとササン朝が東西の文明の間で担った役割を多面的・多角的に考察し表現する。	
		ギリシア人の都市国家	○	○	○	①ポリスの特徴およびそこでの人々の生活について、オリエントの都市国家と比較したうえで理解する。 ②スパルタが軍国主義をしいた理由を多面的・多角的に考察し表現する。 ③民主政発達の経緯および現代の民主主義との相違点について理解する。 ④ギリシアの諸ポリスがマケドニアに敗れた要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤ヘレニズム時代の歴史的意義を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑥ギリシア文明が近代ヨーロッパにもたらした影響を多面的・多角的に考察し表現する。	

	ローマと地中海支配	○	○	○	①ローマ共和政の特徴について、ギリシア民主政と比較したうえで多面的・多角的に考察し表現する。 ②地中海における領土拡大がローマ共和政に与えた影響を理解する。 ③ローマの内乱の発生から終息までの経緯を理解する。 ④「ローマの平和」が地中海世界に与えた影響を理解する。 ⑤ローマ帝国が危機を迎えた要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑥ローマ帝国の文化的意義を多面的・多角的に考察し表現する。
	キリスト教の成立と発展	○	○	○	①キリスト教の成立の経緯を理解している。 ②ローマ帝国によるキリスト教への対応を多面的・多角的に考察し表現する。
	アラブの大征服とイスラーム政権の成立	○	○	○	①アラブ＝ムスリム軍による大征服の展開を理解する。 ②ウマイヤ朝の領域的な広がりとその支配の特徴を理解する。 ③アッバース朝成立の背景とその統治の特徴を理解する。 ④イスラーム文化の成立の経緯を理解し、またその特徴を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤イスラーム政権の多極化が社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。
	ヨーロッパ世界の形成	○	○	○	①ヨーロッパの自然条件と大規模な人の移動との関係について理解する。 ②ビザンツ帝国の繁栄について、同時期の西ヨーロッパと比較したうえで理解する。 ③ローマ教会とフランク王国の関係を多面的・多角的に考察し表現する。 ④カールの戴冠が世界の歴史において持つ意義について理解する。 ⑤ノルマン人が西ヨーロッパ世界において果たした歴史的役割について理解

						する。 ⑥西ヨーロッパに特有の封建社会の仕組みについて理解する。	
2 学 期 中 間	第Ⅱ部 諸地域の交流・再編	西ヨーロッパの封建社会とその展開	○	○	○	①中世の西ヨーロッパにおいてローマ＝カトリック教会が普遍的な権威を持つにいたった背景を理解する。 ②十字軍の遠征の経緯を理解し、それが社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ③西ヨーロッパで商業が盛んになった理由を多面的・多角的に考察し表現する。 ④中世の都市が獲得した政治的地位や、そこでの人々の暮らしについて理解する。	定期 考 査 提 出 課 題 発 問 評 価 授 業 態 度
		東ヨーロッパ世界の展開	○	○	○	①ビザンツ帝国の衰退の要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ②ビザンツ文化が果たした世界史的な意義について理解する。 ③スラヴ人が各地域で自立していった経緯を理解する。	
		西ヨーロッパ世界の変容	○	○	○	①封建社会が解体に向かった背景を多面的・多角的に考察し表現する。 ②教皇権の衰退と王権の伸張の関係について理解する。 ③各国における、身分制議会の成立と王権の伸張の関係を理解する。 ④百年戦争によるイギリスとフランスの変容を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤スペインで国王による中央集権化が早く進んだのはなぜか理解する。 ⑥神聖ローマ帝国で中央集権が進まなかった要因を多面的・多角的に考察し表現する。	
		西ヨーロッパの中世文化	○	○	○	①中世の西ヨーロッパにおいてキリスト教が果たした文化的役割を理解する。	

					②西ヨーロッパにおける大学の成立過程を理解する。 ③中世の西ヨーロッパの美術や文学と、その時代の社会との関係を多面的・多角的に考察し表現する。
アジア諸地域の自立化と宋	○	○	○	①10 世紀前半に東アジアで政権の交替があいついだ背景や、そこで成立した諸国の共通点を理解する。 ②宋の対外関係の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。 ③宋における社会や経済の発展の様子を理解する。 ④宋代の文化の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。	
モンゴルの大帝国	○	○	○	①モンゴル帝国が成立した背景を多面的・多角的に考察し表現する。 ②モンゴル帝国による支配が東アジアにおよぼした影響について理解する。 ③モンゴル帝国時代の東西交流の新しさを多面的・多角的に考察し表現する。 ④モンゴル帝国解体の要因を理解する。 ⑤ティムール朝がモンゴル帝国から受け継いだものを多面的・多角的に考察し表現する。	
アジア交易世界の興隆	○	○	○	①モンゴル帝国解体後のアジア各地の状況について理解する。 ②明朝初期の国内統治の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。 ③明との朝貢関係が諸地域にもたらした影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ④世界的な商業の発展が明の朝貢体制におよぼした影響を理解する。 ⑤明代後期の中国の社会・経済・文化と世界の商業の活発化との関係を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑥16 世紀の東南アジアで台頭した新興	

						勢力の共通点を理解する。	
2 学 期 期 末	第 Ⅱ 部 諸 地 域 の 交 流 ・ 再 編	ヨーロッパの海洋進出 とアメリカ大陸の変容	○	○	○	①ヨーロッパの人々が遠洋に乗り出していった動機や背景を多面的・多角的に考察し表現する。 ②ヨーロッパの人々の進出がアジアにもたらした影響や変化を理解する。 ③中南米の先住民が短期間でスペイン人に征服された要因を理解する。 ④16世紀に一体化が始まった「世界」の性格を多面的・多角的に考察し表現する。	定期考查 提出課題 発問評価 授業態度
		オスマン帝国とサファ ヴィー朝	○	○	○	①オスマン帝国の基礎が築かれた経緯を理解する。 ②オスマン帝国の勢力拡大の経緯を理解する。 ③オスマン帝国の統治が当時の人々に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ④サファヴィー朝の支配がイラン社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。	
		ムガル帝国の興隆	○	○	○	①ムガル帝国の基礎が築かれた経緯を理解する。 ②ムガル帝国におけるヒンドゥー教徒とイスラーム教徒の関係を多面的・多角的に考察し表現する。 ③ムガル帝国の衰退の背景や要因を多面的・多角的に考察し表現する。	
		清代の中国と隣接諸地 域	○	○	○	①清朝の領土に組み込まれた民族と、彼らがどのように統治されていたかを理解する。 ②清代における周辺諸国と中国との関係について、明代と比較したうえで多面的・多角的に考察し表現する。 ③漢人の社会や文化に対して清朝がどのような態度をとったのかを理解する。	

	ルネサンス	○	○	○	①ルネサンスの担い手や彼らの動機について理解する。 ②ルネサンスを支えた精神の特徴を理解し、それが後世に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ③多方面におよぶルネサンスの成果が後世に与えた影響を理解する。
	宗教改革	○	○	○	①それまでの教会改革の試みと 16 世紀の宗教改革の違いを多面的・多角的に考察し表現する。 ②カルヴァンの教えの特徴やイギリス国教会の成立の意義を理解する。 ③カトリック改革が持つ世界史的な意義を多面的・多角的に考察し表現する。
	主権国家体制の成立	○	○	○	①主権国家体制の成立の経緯を多面的・多角的に考察し表現する。 ②16 世紀後半のスペイン・イギリス・フランスの関係を理解する。 ③アウクスブルクの和議とウェストファリア条約の異なる点を理解する。
	オランダ・イギリス・フランスの台頭	○	○	○	①17 世紀におけるオランダの経済的な覇権獲得および衰退の要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ②17 世紀における 2 つのイギリスの革命について、国際的な状況もふまえて理解する。 ③近世フランスの強みと課題を多面的・多角的に考察し表現する。 ④イギリスとフランスの覇権争いがグローバルな戦いになった背景を理解する。
	北欧・東欧の動向	○	○	○	①主権国家体制においてポーランドとスウェーデンが占めた位置を理解する。 ②ロシアが主権国家体制に参入していった経緯を理解する。 ③プロイセンとオーストリアの関係の

		科学革命と啓蒙思想	○	○	○	推移を多面的・多角的に考察し表現する。 ④啓蒙専制主義の特徴を理解する。 ①科学革命の成果について、自然法則の発見以外にも着目して理解する。 ②科学革命がヨーロッパ人に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ③従来の学知の展開と比較したうえで、「実用の学」としての啓蒙思想の意義を理解する。	
3 学 期	第 Ⅲ 部 諸 地 域 の 結 合 ・ 変 容	産業革命	○	○	○	①海外貿易が近世ヨーロッパ経済の動向に与えた影響を理解する。 ②イギリス産業革命が世界経済や社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ③16世紀に始まった「世界の一体化」とイギリス産業革命との関係について理解する。	定期 考 査 提 出 課 題 発 問 評 価 授 業 態 度
		アメリカ合衆国の独立と発展	○	○	○	①北米大陸に建設されたヨーロッパ諸国の植民地の地理的分布とその推移を理解する。 ②独立直後と今日のアメリカ合衆国を比較し、共通点と相違点を理解する。 ③アメリカ合衆国の独立がヨーロッパ諸国に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。	
		フランス革命とナポレオンの支配	○	○	○	①革命中のフランス国家体制の変遷や革命が諸外国に与えた影響を理解する。 ②人権宣言とアメリカ独立宣言を比較し、共通点と相違点を理解する。 ②ナポレオンの支配に対する人々の反応を多面的・多角的に考察し表現する。	
		中南米諸国の独立	○	○	○	①ハイチ革命の特殊性について、環大西洋革命の他の事例と比較したうえで理解する。 ②中南米諸国の独立運動に共通する点	

					を理解する。 ③中南米諸国の独立運動とヨーロッパ情勢との関係を多面的・多角的に考察し表現する。	
	ウィーン体制とヨーロッパの政治・社会の変動	○	○	○	①ウィーン会議の参加者たちがどのような国際秩序をめざしていたかを理解する。 ②ウィーン体制を動揺させた要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ③19 世紀イギリスの政治変革の特徴について、大陸諸国と比較したうえで理解する。 ④イギリス・フランス・ドイツにおける社会主義思想をそれぞれ比較したうえで理解する。 ⑤1848 年革命の展開と影響について、ヨーロッパ内の地域差に着目して多面的・多角的に考察し表現する。	
	列強体制の動揺とヨーロッパの再編成	○	○	○	①クリミア戦争におけるロシア・イギリス・フランスのそれぞれの思惑を理解する。 ②19 世紀後半におけるロシア・イギリス・フランスの諸改革の相違点を理解する。 ③ドイツとイタリアの国民国家成立を比較し、共通点と相違点を理解する。 ④ドイツ帝国におけるビスマルクの諸政策の動機を多面的・多角的に考察し表現している。 ⑤北欧諸国の安定性について、周辺諸国と比較したうえで多面的・多角的に考察し表現する。 ⑥19 世紀後半にさまざまな国際運動が進展した背景を理解する。	
	アメリカ合衆国の発展	○	○	○	①領土拡大がアメリカ社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ②南北戦争において北部が勝利した要	

		19 世紀欧米文化の展開 と市民文化の繁栄	○	○	○	因を理解する。 ③アメリカ合衆国の歴史において移民が持つ意味を多面的・多角的に考察し表現する。 ①19 世紀欧米文化における担い手や展開された場（空間）の推移を理解する。 ②国民文化と国民国家形成との関係を多面的・多角的に考察し表現する。 ③近代諸科学の発展の要因とその成果が広まった背景を理解する。 ④大都市文化が都市の景観に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。	
--	--	--------------------------	---	---	---	--	--

2025 年度 相愛高等学校 2 年 普通科 特進コース シラバス

教科	外国語（英語）	科目	論理・表現Ⅱ	単位数	3	選択等	必修
教科書	EARTHRISE English Logic and Expression II Standard（数研出版）						
副教材等	CLOVER 英文法・語法ランダム演習（数研出版）						
	Listening Laboratory Basic α（数研出版）						
	Listening Laboratory Basic β（数研出版）						

1 学習の到達目標

(1) 話すこと〔やり取り〕

- ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを伝え合ったり、やり取りを通して必要な情報を得たりすることができるようにする。
- イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、多くの支援を活用すれば、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して伝え合うことができるようにする。

(2) 話すこと〔発表〕

- ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。
- イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝えることができるようにする。

(3) 書くこと

- ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。
- イ 日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、多くの支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して文章を書いて伝えることができるようにする。

(4) 聞くこと

毎時間にリスニング用副教材を用いて、基礎的なリスニング力を修得する。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

積極的にスピーチ、プレゼンテーションディベート、ディスカッションを英語でするためには、まずは文法力や語彙力の修得により、正しい英文を発信できるかが大切です。文法事項や語彙を確認しながら、教科書を勉強していきましょう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	習得すべき知識や重要な概念等を理解している。それらを既 有の知識及び技能と関連付け たり活用したりする中で、概念 等として理解したり、技能を習 得したりしている。	知識及び技能を活用して課題 を解決する等のために必要な 思考力、判断力、表現力等を身 に付けている。	知識及び技能を獲得したり、思 考力、判断力、表現力等を身に 付けたりすることに向けた粘 り強い取組の中で、自らの学習 を調整しようとしている。
評 価 方 法	・提出課題 ・学習状況 ・確認テスト ・定期考査	・ディスカッション、発表 ・提出課題 ・確認テスト ・定期考査	・ディスカッション、発表 ・発問への対応 ・課題への取り組み、積極性
上記に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の 評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点　Ⅰ：知識・技能　Ⅱ：思考・判断・表現　Ⅲ：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間		Part 1 : Basic Expressions Lesson 1 How interesting Japanese Culture is! Lesson 2 Wonderful places to visit in Japan Lesson 3 Precious water for all	○ ○	○ ○	○ ○	[題材・内容] ・さまざまな時を表す ・可能・義務・必要などを表す ・「～される」を表す ・「～すること」などを表す (to do / doing) [文型・文法事項] 現在 / 過去 / 現在・過去における完了・ 継続・経験 / 未来 can / should / would / have to / must / should have+過去分詞 「S は～される」を表す文の基本的な形 / 「～される」を表す文のいろいろな形 / It is said that... to do(不定詞)の名詞的な用法, 副詞的な	学習態度 MetaMoji 学習 単語テスト 単元テスト 中間考査

		Lesson 4 What has happened recently?	○	○	○	用法 / 主語になる doing(動名詞), 前置詞の目的語になる doing / 「～することを (...する)」 という場合の doing と to do / 疑問詞+to do	
1 学 期 期 末		Lesson 5 I'm into music and movies!	○	○	○	[題材・内容] ・ doing / done を使って説明する ・ 人・物・時や場所などについて説明する ・ 比較を表す ・ 仮定を表す [文型・文法事項] 〈名詞+doing / done(分詞)〜〉 / 〈doing / done+名詞〉 / Doing... / Having done... / S+V+O+doing who / which / why / 〈人〉 や 〈物〉 について説明を付け足す / wherever SV / whenever SV / 〈however+形容詞/副詞〉 「A は B より...」, 「A が最も...」を表す / A...比較級+than any other B / like ~ better than... / more and more... 「もし(今)〜なら...」, 「もし(あのとき)〜だったなら...」を表す / I wish+S+過去形 / If it were not for...	学習態度 MetaMoji 学習 単語テスト 単元テスト 期末考査
		Lesson 6 Where do you usually buy clothes?	○	○	○		
		Lesson 7 What kind of books do you like best?	○	○	○		
		Lesson 8 Inventions that changed the way we live	○	○	○		
2 学 期 中 間		Part 2 : Functional Expressions				[題材・内容] ・ 感謝する／謝罪する ・ 心配を述べる／励ます／感想を述べる ・ 提案する／勧誘する／好みを述べる ・ 助言する／忠告する [文型・文法事項] Thank you for... / It's very kind of you to... / I'm sorry (that).../My apologies for... I'm worried about... / (I'm sure) you can make it! / I'll keep my fingers crossed (for you). / You did a great job! / I felt	学習態度 MetaMoji 学習 単語テスト 単元テスト 中間考査
		Lesson 1 Can you come to our party?	○	○	○		
		Lesson 2 I'm sure you can make it!	○	○	○		
		Lesson 3	○	○	○		

		How about trying this food?				[thought]... / I'm sure you... How about doing...? / Why don't we...? / prefer ... to ~ / Why don't you...? / I suggest... I think you should... / It would be a good idea to... / You ought to do... / I recommend...	
		Lesson 4 Tips for staying healthy	○	○	○		
2 学 期 期 末		Lesson 5 I'm taking part in some volunteer activities tomorrow.	○	○	○	[題材・内容] ・ 依頼する ・ 賛成する／反対する ・ 意見を求める／意見を述べる [文型・文法事項] Would you mind...? / Can I ask you a favor? / Can you...? / I was wondering if I could... / I would appreciate it if you could... I agree with... / I'm afraid I don't agree with you. / No doubt about that. / I'm against... / It is true ~, but... / I'm opposed to... What do you think of...? / as far as I am concerned / in my opinion / I have no doubt that... / I would like to... / I strongly believe that...	学習態度 MetaMoji 学習 単語テスト 単元テスト 期末考査
		Lesson 6 Where would you like to live in the future?	○	○	○		
		Lesson 7 Which candidate is the right person?	○	○	○		
3 学 期		Further Activity				[題材・内容] ・ 例示・列挙 ・ 比較・対照 ・ 原因・結果 ・ 時間的順序・手順 [文型・文法事項] for example / such as / like in addition / also / moreover / as well as / not only ~ but also... / first / second just as A / like A / have ~ in common / similarly	学習態度 MetaMoji 学習 単語テスト 単元テスト 学年末考査
		Further Activity パラグラフの構成 1	○	○	○		
		Further Activity パラグラフの構成 2	○	○	○		
		Further Activity パラグラフの構成 3	○	○	○		

		Further Activity パラグラフの構成 4	○	○	○	compared to / although / Some (people) say ~, however [but]... / on the other hand / while / in contrast because of / because / as / since / that's why / so / the [another] reason is... / therefore first of all / first / second / third / next / then / after that / finally / last / lastly	
--	--	--------------------------------	---	---	---	---	--

※上記以外にも副教材としてのリスニング演習と、特進コースとして大学入試に対応するための基礎学力強化を、補充教材を用いて行う。

2025 年度 相愛高等学校 2 年 普通科 特進コース シラバス

教科	外国語（英語）	科目	英語コミュニケーションⅡ	単位数	5	選択等	必修
教科書	New Edition Grove English CommunicationⅡ（文英堂）						
副教材等	英単語ターゲット 1900（旺文社）						
	チャート式 基礎からの新総合英語（数研出版）						
	Next Stage 英文法・語法問題 4th edition（桐原書店）						

1 学習の到達目標

継続的に小テストを実施することにより短期的な目標をもち、それを積み重ねていくことで英語学習をさらに習慣化していきます。また、既習事項を確認しながら基本事項をしっかりとおさえ、長文読解・英文法などを総合的に学習します。説明、評論、物語、随筆などあらゆる形態の文章を読みすすめることで、英文に慣れ大意を理解できること、また速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方ができるようになることを目指します。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

小さな学習を 1 つ 1 つ積み重ねていくと、1 年後には想像を超える結果となって皆さんに訪れます。単語・熟語・構文などコツコツと学習していきましょう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	外国語の 4 技能（話す、書く、聞く、読む）を実践すべく、その土台となる知識・技能を身に付けている。外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解している。	日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語での確に理解したり適切に伝え合ったりしている。聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現している。	言語やその背景にある文化に対する関心を持って、自律的、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評 価 方 法	・提出課題 ・学習状況 ・確認テスト ・定期考査	・プレゼン、発表 ・提出課題 ・確認テスト ・定期考査	・プレゼン、発表 ・発問への対応 ・課題への取り組み、積極性

上記に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間		1) Breakfast Around the World 2) What Makes You a Good Street Dancer? 模試対策 英語検定対策	○	○	○	[題材・内容] 「世界の朝食」 「ストリートダンスがうまくなるには」 ・本文の大意を理解し設問に答える。 ・与えられたテーマに関する内容を発表・共有する。 ・文法事項を理解し発展問題にも対応できるようにする。 ・相手の意見を理解し、自分の意見を英語で積極的に相手に伝える。 [文型・文法事項] ・文型「S+V」「S+V+C」「S+V+O」「S+V+O1+O2」「S+V+O+C」 ・動名詞 ・完了形、進行形、完了進行形	学習態度 MetaMoji 学習 単語テスト 単元テスト 中間考査
1 学期 期末		3) Volunteering and Music Bring Us Together 4) Zoos – Roles and Challenges 5) Paper Can Change the Future 模試対策	○	○	○	[題材・内容] 「ボランティアと音楽でつながる」 「動物園の役割」 「紙の可能性」 ・本文の大意を理解し設問に答える。 ・与えられたテーマに関する内容を発表・共有する。 ・文法事項を理解し発展問題にも対応できるようにする。 ・相手の意見を理解し、自分の意見を英語で積極的に相手に伝える。 [文型・文法事項] ・助動詞、助動詞+完了形、不定詞の用法 ・受け身、助動詞を含む受け身、進行形	学習態度 MetaMoji 学習 単語テスト 単元テスト 期末考査

						の受け身 ・ 分詞の形容詞的用法	
2 学 期 中 間		6) Our Advanced Network Society 7) Connecting with People 英検対策	○ ○	○ ○	○ ○	[題材・内容] 「高度なネットワーク社会へ」 「人とのつながり」 ・ 本文の大意を理解し設問に答える。 ・ 与えられたテーマに関する内容を発表・共有する。 ・ 文法事項を理解し発展問題にも対応できるようにする。 ・ 相手の意見を理解し、自分の意見を英語で積極的に相手に伝える。 [文型・文法事項] ・ S+V+O+ to 不定詞、S+V+O+C ・ 比較 ・ 関係代名詞、関係代名詞の非制限的用法、前置詞+関係代名詞	学習態度 MetaMoji 学習 単語テスト 単元テスト 中間考査
2 学 期 期 末		8) Practice Makes Perfect: A Japanese Baker's World Victory 9) The World Without Honeybees 模試対策	○ ○	○ ○	○ ○	[題材・内容] 「あきらめずに挑戦し続ける」 「ミツバチのいない世界」 ・ 本文の大意を理解し設問に答える。 ・ 与えられたテーマに関する内容を発表・共有する。 ・ 文法事項を理解し発展問題にも対応できるようにする。 ・ 相手の意見を理解し、自分の意見を英語で積極的に相手に伝える。 [文型・文法事項] ・ 関係副詞 ・ 分詞構文 ・ 仮定法過去、仮定法過去完了、仮定法を含む表現	学習態度 MetaMoji 学習 単語テスト 単元テスト 期末考査
3						[題材・内容] 「スコットランドのシンボル：フォース	

学 期		10) The Forth Bridge: An Iconic Landmark in Scotland 模試対策 英語検定対策	○ ○	○ ○	○ ○	橋」 ・本文の大意を理解し設問に答える。 ・与えられたテーマに関する内容を発表・共有する。 ・文法事項を理解し発展問題にも対応できるようにする。 ・相手の意見を理解し、自分の意見を英語で積極的に相手に伝える。 [文型・文法事項] ・倒置 ・省略 ・同格の that ・付帯状況の with	学習態度 MetaMoji 学習 単語テスト 単元テスト 学年末考查
--------	--	--	------------	------------	------------	---	--

2025 年度 相愛高等学校 2 年 普通科 特進コース シラバス

教科	保健体育	科目	保健	単位数	1	選択等	必修
教科書	現代高等保健体育（大修館書店）						
副教材等	なし						

1 学習の到達目標

心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

自分の生涯を安全に・健康に暮らすための科目です。興味を持って授業に取り組むと、将来の自分に対して必ず財産になります。健康や、運動・スポーツに対する考え方は、社会の変化の中で徐々に変わってきています。保健の授業の中で、私たちの健康に関わる大切な知識を積極的に得てください。そして、日々の生活に、さらには今後の人生においても、学んだことを役立ててほしいと思います。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	健康・安全の意義を理解するとともに、現代社会と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。	個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関する課題の解決を目指して、科学的に思考し、総合的に捉えることにより、適切な意思決定を行い、選択すべき行動を適切に判断している。	個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践するため、意欲的に学習に取り組もうとしている。
評 価 方 法	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への対応	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への対応	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への対応

上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学 期	単 元 名	学習内容	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学 期	生 涯 を 通 じ る 健 康	1.ライフステージと健康	○	○	○	I. ライフステージと健康の関連について理解している。 II. 人間の一生において節目となる出来事、出生、就学、卒業、就職、退職、結婚、出産、育児などのライフイベントで活用できる社会からの支援について、例をあげることができる。 III. 各ライフステージにおける健康課題とその支援について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	
		2.思春期と健康	○	○	○	I. 思春期における体の変化、思春期における心と健康課題について、基礎的な事項を理解している。 II. 思春期における体の変化、思春期における心と健康課題について、資料等で調べたことをもとに、課題を見つけたり、整理したりするなどして、それらを説明することができる。 III. 思春期における体の変化、思春期における心と健康課題について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	
		3.性意識と性行動の選択	○	○	○	I. 性意識の男女差、性に関する情報が性行動の選択に影響を及ぼすことについて、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。 II. 性意識の男女差、性に関する情報が性行動の選択に影響を及ぼすことについて学習したことを、個人および社会生	

					活や事例などと比較したり、分類したり、分析したりするなどして、筋道を立ててそれすることができる。 Ⅲ. 性意識の男女差、性に関する情報が性行動の選択に影響を及ぼすことについて、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。
	4.妊娠・出産と健康	○	○	○	Ⅰ. 受精・妊娠・出産の過程における健康課題、妊娠・出産期における生活上の注意や周囲の支援、出産期に活用できる母子保健サービスについて理解し、説明することができる。 Ⅱ. 妊娠・出産の過程における健康課題、妊娠・出産期に活用できる母子保健サービスについて学習したことを、個人および社会生活や事例などと比較したり、分類したり、分析したりするなどして、筋道を立ててそれらを説明することができる。 Ⅲ. 妊娠・出産の過程における健康課題、妊娠・出産期に活用できる母子保健サービスについて関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。
	5.避妊法と人工妊娠中絶	○	○	○	Ⅰ. 家族計画の意義、コンドームやピルを使用した適切な避妊法、人工妊娠中絶が女性の心身に及ぼす影響について、基礎的な事項を理解している。 Ⅱ. 家族計画の意義と適切な避妊法、人工妊娠中絶が女性の心身に及ぼす影響について学習したことを、個人および社会生活や事例などと比較したり、分類したり、分析したりするなどしている。また、筋道を立ててそれらを説明することができる。 Ⅲ. 家族計画の意義と適切な避妊法、人工妊娠中絶が女性の心身に及ぼす影響について、話し合いや意見交換などの学

						習活動に意欲的に取り組もうとしている。	
2 学 期	生 涯 を 通 じ る 健 康	6.結婚生活と健康	○	○	○	I. 心身の発達と結婚生活の関係、結婚生活を健康的に送るために必要な考え方や行動について、基礎的な事項を理解している。 II. 心身の発達と結婚生活の、結婚生活を健康的に送るために必要な考え方や行動について総合的に考え、判断し、それらを表すことができる。 III. 心身の発達と結婚生活の関係、結婚生活を健康的に送るために必要な考え方や行動について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	
		7.中高年期と健康	○	○	○	I. 加齢にともなう心身の変化、中高年期を健やかに過ごすための社会的な取り組みについて、基礎的な事項を理解している。 II. 加齢にともなう心身の変化、中高年期を健やかに過ごすための社会的な取り組みについて、資料等で調べたことをもとに課題を見つけたり、整理したりするなどして、それらを説明している。 III. 加齢にともなう心身の変化、中高年期を健やかに過ごすための社会的な取り組みについて、話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	
		8.働くことと健康	○	○	○	I. 働くことの意義と健康とのかかわりについて、基礎的な事項を理解している II. 働き方や働く人の健康問題の変化について、資料等で調べたことをもとに課題を見つけたり、整理をするなどして、それらを説明することができる。 III. 働くことの意義と健康とのかかわりについて、話し合いや意見交換などの学	

					習活動に意欲的に取り組もうとしている。	
		9.労働災害と健康	○	○	○	I. 労働災害の種類とその原因についての基礎的な事項を理解している。 II. 労働災害を防止するために必要なことを、資料等で調べたことをもとに、課題を見つけたり、整理をするなどして、それらを説明することができる。 III. 労働災害の種類とその原因、防止する為に必要なことを、話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。
		10.健康的な職業生活	○	○	○	I. 職場が行う健康に関する取り組みや、余暇を積極的に取ることの意義について理解している。 II. 職場が行う健康に関する取り組みに居ついて例を挙げて説明することができる。 III. 職場が行う健康に関する取り組みや、余暇を積極的に取ることの意義について、話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。
		1.大気汚染と健康	○	○	○	I. 大気汚染の原因とその健康影響、大気にかかわる地球規模の環境問題について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。 II. 大気汚染の原因とその健康影響、大気にかかわる地球規模の環境問題について、資料等で調べたことをもとに、課題を見つけたり、整理したりするなどして、それらを説明することができる。 III. 大気汚染の原因とその健康影響、大気にかかわる地球規模の環境問題について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。
		2.水質汚濁、土壌汚染	○	○	○	I. 水質汚濁の原因とその健康、土壌汚染

		と健康			の原因とその健康影響、大気汚染・水質汚濁・土壌汚染のかかわりについて、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。 Ⅱ.水質汚濁の原因とその健康影響、土壌汚染の原因とその健康影響、大気汚染・水質汚濁・土壌汚染のかかわりについて、資料等で調べたことをもとに、課題を見つけたり、整理したりするなどして、それらを説明することができる。 Ⅲ.水質汚濁の原因とその健康影響、土壌汚染の原因とその健康影響、大気汚染・水質汚濁・土壌汚染のかかわりについて、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。
		3.環境と健康にかかわる対策	○	○	○ Ⅰ.環境汚染の防ぐための取り組み、産業廃棄物の処理と健康問題について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。 Ⅱ.環境汚染の防ぐための取り組み、産業廃棄物の処理と健康問題について、学習したことを個人及び社会生活や事例などと比較したり、分類したり、分析したりするなどして、筋道を立ててそれらを説明することができる。 Ⅲ.環境汚染の防ぐための取り組み、産業廃棄物の処理と健康問題について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。
		4.ごみの処理と上下水道の整備	○	○	○ Ⅰ.ごみの処理の現状やその課題について基礎的な事項を理解している Ⅱ.上下水道の仕組みと課題に関わる課題を具体的な例をあげるなどして、説明することができる。 Ⅲ.ごみ処理の現状や上下水道の仕組みを理解し、課題解決にむけての話し合い

		5.食品の安全性	○	○	○	や意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 I.食品の安全性と健康とのかかわりについて、基礎的な事項を理解している II.食品の安全性と健康との関わりについて、資料等で調べたことをもとに課題を見つけたり、整理するなどして、それらを説明することができる。 III.食品の安全性と健康との関わりについて理解し、課題解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	
		6.食品衛生にかかわる活動	○	○	○	I.食品の安全性、食品の安全にかかわる行政の役割、製造・加工者による HACCP などの衛生管理について、基礎的な事項を理解している。 II.食品の安全性、行政、生産・製造者による衛生管理について、学習したことを社会生活事例などと比較したり、分類したり、分析したりするなどして、筋道を立ててそれらを説明することができる。 III.食品の安全性、行政、生産・製造者による衛生管理について、話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	
3 学 期	健 康 を 支 え る 環 境 づ く り	7. 保健サービスとその活用	○	○	○	I. 地域の保健所・保健センターなどの保健行政の役割、保健サービスや保健情報の活用について、基礎的な事項を理解している。 II. 保健行政の役割、保健サービスや保健情報の活用について、資料等で調べたことをもとに、課題を見つけたり、整理したりするなどして、それらを説明することができる。 III. 保健行政の役割、保健サービスや保健情報の活用について、資料を探したり、見たり、読んだりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	

		8. 医療サービスとその活用	○	○	○	I. 医療制度と医療保険のしくみ、医療機関の役割と医療サービスの活用について、基礎的な事項を理解している。 II. 医療制度と医療保険のしくみ、医療機関の役割と医療サービスの活用について、知識を活用した学習活動などにより、総合的に考え、判断し、それらを表すことができる。 III. 医療制度と医療保険のしくみ、医療機関の役割と医療サービスの活用について、資料を探したり、見たり、読んだりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	
		9. 医薬品の制度とその活用	○	○	○	I. 医薬品の種類と正しい使用法、医薬品の副作用と対策、医薬品の安全性を守る取り組みについて、基礎的な事項を理解している。 II. 医薬品の種類と正しい使用法、医薬品の安全性を守る取り組みについて、知識を活用した学習活動などにより、総合的に考え、判断し、それらを表すことができる。 III. 医薬品の種類と正しい使用法、医薬品の安全性を守る取り組みについて、資料を探したり、見たり、読んだりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	
		10. さまざまな保健活動や社会的対策	○	○	○	I. 健康づくりのためのさまざまな活動、民間機関や国際機関などの保健活動について、基礎的な事項を理解している。 II. 健康づくりのためのさまざまな活動、民間機関や国際機関などの保健活動について総合的に考え、判断し、それらを表すことができる。 III. 健康づくりのためのさまざまな活動、民間機関や国際機関などの保健活動	

		11. 健康に関する環境 づくりと社会参加	○	○	○	について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 I. 健康の保持増進のための環境作りについて、課題解決に役立つ基礎的な事項を理解している。 II. 環境づくりへの主体的な参加が自他の健康づくりに繋がることについて、学習したことを個人及び社会生活や事例などと比較したり、分類したり、分析したりするなどして、筋道を立てて説明することができる。 III. 健康の保持増進のための環境づくりや、環境づくりへの主体的な参加が自他の健康づくりに繋がることをについて、課題解決に向けての話し合いや、意見交換などの学習活動に意欲的に取り組むことができる。	
--	--	--------------------------	---	---	---	--	--

2025 年度 相愛高等学校 2 年 普通科特進コース シラバス

教科	体育	科目	体育	単位数	2	選択等	必修
教科書	アクティブスポーツ（大修館）						
副教材等							

1 学習の到達目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。

(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。

(3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

「体育」の授業を通して、体力、運動能力の向上はもちろん、礼儀や協調性、仲間との助け合いの精神も学んでもらいたいと考えています。実際に自分が動いていない場面でも学べることはたくさんあります。そういった小さな「気づき」を大切に授業に臨んでほしいと思います。現代社会で健康を保持増進していくには、運動は必要不可欠です。苦手な分野だと感じている人もいますが様々な事に積極的にチャレンジし、良い汗を流してほしいと思います。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な知識や生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するための科学的知識及び運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。 また、個人及び社会生活における健康・安全について、課	自己や仲間の課題に応じた運動の取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の計画を工夫し、それらを表現している。 また、個人及び社会生活における健康課題を発見し、その解決を目指して、総合的に考え、判断し、それらを表現している。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。 また、健康を優先し、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりに関する学習活動に主体的に取り組もうとしている

	題解決に役立つ知識や技能を身に付けている。		
評価方法	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への対応	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への対応	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への対応
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間							
1 学期 期末		・集団行動 ・体づくり運動 ・ラジオ体操 ・縄跳び ・筋力トレーニング ・陸上競技 ・サッカー	○	○	○	「知・技」・多様な体ほぐしの運動を考えることができる。・自分の心とからだの一体感、また仲間との一体感を感じるまで、運動の内容を深めることができる。 「思・判・表」 ・手軽な運動、律動的な運動など、運動の内容や方法を自分で考え、工夫し、実践することができる。・自己や仲間の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けた取り組みを工夫し、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 「主」 ・「体ほぐし」の意義を理解し、からだを動かす楽しさや心地よさを探求しようとするすることができる。	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への対応

2 学 期 中 間							
2 学 期 期 末		・ 集団行動 ・ ラジオ体操 ・ 筋力トレーニング ・ ハンドボール ・ ダンス	○	○	○	「知・技」 ・ 多様な体ほぐしの運動を考えることができる。 ・ 自分の心とからだの一体感、また仲間との一体感を感じるまで、運動の内容を深めることができる。 ・ パス・ドリブル・シュート・ゴールキーピングなどの基礎的な技能を身につけ、オフェンス・ディフェンス・ゴールキーパーとの連携など、ゲーム中の具体的な攻防の場面を想定し、互いに協力して、有効な動きを身につけることができる。 ・ 現代的なリズムダンス、創作ダンス、フォークダンスなど様々なジャンルのダンスに触れ、表現運動について学び、自己の思想や感情を自由に身体で表現したり仲間と共に作り上げることを学ぶ。 「思・判・表」 ・ 手軽な運動、律動的な運動など、運動の内容や方法を自分で考え、工夫し、実践することができる。 ・ 自己や仲間の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けた取り組みを工夫し、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 ・ 攻防などの自己や仲間の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けた取り組みを工夫し、自己の考えたことを他者に伝えることができる。 「主」 ・ ダンスにおいて「身体を使って表現すること」の意義を理解し、からだを動かす楽しさや心地よさを探求しようとするすることができる。 ・ ハンドボールに自主的に取り組むとと	・ 学習状況 ・ 確認テスト ・ レポート ・ 発問への対応

						もに、フェアなプレーを大切にしよう とすること、作戦などについての話し 合いに貢献しようとする、一人一人の違 いに応じたプレーなどを大切にしよう とすること、互いに助け合い教えあおう とすることなどや、健康・安全を確保する。	
3 学 期		・ 集団行動 ・ ラジオ体操 ・ ダンス ・ 筋力トレーニング	○	○	○	「知・技」 ・ ゲームのルールを確実に理解し、具 体的な場面において、それをふまえた行 動ができる。 ・ ドリブル・パス・シュート など個人的技能の基本を着実に身につ け、集団的技能のなかで正しく適用する ことができる。 「思・判・表」 ・ 自己や仲間の課題を発見し、合理的・ 計画的な解決に向けた取り組みを工夫 し、自己や仲間の考えたことを他者に伝 えることができる。 ・ 攻防などの自己や仲間の課題を発見 し、合理的・計画的な解決に向けた取り 組みを工夫し、自己の考えたことを他者 に伝えることができる 「主」 ・ ダンスにおいて「身体を使って表現す ること」の意義を理解し、からだを動か す楽しさや心地よさを探求しようとし ることができる。 ・ サッカーに自主的に取り組むととも に、フェアなプレーを大切にしようとし ること、作戦などについての話し合いに 貢献しようとする、一人一人の違いに 応じたプレーなどを大切にしようとし ること、互いに助け合い教えあおうと することなどや、健康・安全を確保する	・ 学習状況 ・ 確認テスト ・ レポート ・ 発問への対応

2025 年度 相愛高等学校 2 年 普通科 特進コース シラバス

教科	理科	科目	科学と人間生活	単位数	2	選択等	全コース
教科書	高等学校 科学と人間生活 (第一学習社) 新編 化学基礎 (東京書籍)						
副教材等	ネオパルノート 化学基礎 (第一学習社) セミナー 化学基礎+化学 (第一学習社)						

1 学習の到達目標

- ・日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。
- ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- ・物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

理科は「なぜ」の学問です。「なぜそうなるの?」「本当かどうか試してみよう、確かめてみよう」、つまり、WHY から始まり、実験→考察をする姿勢、態度を身に着ける学問だといえます。これから原子やイオンなど、身近な物質や現象について理解を深めていきましょう。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観 点	I : 知識・技能 (技術)	II : 思考・判断・表現	III : 主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	基本的な概念や原理・法則などを理解し、身につける。観察、実験の基本操作を習得し、計画的な実施、結果の記録や整理、資料の活用の仕方を身につける。	自然の事物・現象の中に問題を見出し、見通しを持って観察、実験などを行い、その結果を解釈し、表現する。	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しを持って振り返ったりするなど、科学的に探究する態度を養う。
評 価 方 法	定期考査 小テスト・課題 観察や実験活動 表の作成・グラフ作成	定期考査 パフォーマンス課題 観察や実験活動 式の利用やグラフ作成 授業中の発言やノートやレポートなどの記述 小テスト・課題	パフォーマンス課題 授業中の発言や態度、ノートやレポートなどの内容 授業や単元の振り返りシート の内容
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	物質の科学	第Ⅰ章 物質の科学 第1節 材料とその利用 ・プラスチックの特徴とその分類について、実験を交えながら理解を進める。 ・鉄などの金属の特徴と資源の希少性について学ぶ。 第2節 衣料と食品 ・生活に身近であり、またとても重要な、繊維と三大栄養素について理解を深める。	○	○	○	I：いろいろなプラスチックや金属、また繊維や、炭水化物などの栄養素について知識が定着している。 II：実験活動により比較検討から考察へと考えを広げることができている。 III：クラスメイトと協力して、グループで答えを導き出している。および実験や授業中の態度、提出物。	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度
1 学期 期末	生命の科学	第Ⅱ章 生命の科学 第1節 ヒトの生命現象 ・タンパク質、血糖濃度、病原体、免疫について知識を深める。 ・ヒトの目の構造から視覚と体内時計について学ぶ。 第2節 微生物とその利用 ・意外に身近な微生物から学習を開始し、食品との関連、ワクチンなどの医薬品との関連につなげ、バイオテクノロジーへと知識を深めていく。	○	○	○	I：ヒトの生命現象、微生物についての理解が深まっている。 II：微生物などの得た知識をもとに、農業、医療に利用されているテクノロジーについて、その有効性と安全性について考えをめぐらせることができている。 III：実験や授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度

2 学 期 中 間	熱 や 光 の 科 学	第Ⅲ章 熱や光の科学 第1節 熱の性質とその利用 ・熱運動から熱容量、熱伝導、さらにエネルギーの移り変わりについて学ぶ。 第2節 光の性質とその利用 ・光の回折、干渉などの性質とその利用について理解を深める。 ・電磁波の種類とその利用について学ぶ。	○	○	○	I：熱と光についてその性質を理解できている。 II：実験活動により比較検討から考察へと考えを広げることができている。 III：クラスメイトと協力して、グループで答えを導き出している。および実験や授業中の態度、提出物。	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度
2 学 期 期 末	地 球 や 宇 宙 の 科 学	第Ⅳ章 地球や宇宙の科学 第1節 自然景観と自然災害 ・火山と地震について理解を深め、地震災害への備えについてクラスメイトと話し合う。 ・水害などの気象災害と防災について学ぶ。 第2節 太陽と地球 ・太陽系や銀河系などさまざまな天体について学ぶ。 ・太陽と人間生活について理解を深める。 ・太陽と月の動き、日食、月食のしくみを再確認する。	○	○	○	I：地震活動が活発な日本列島について知識理解を深めている。また太陽を始めとする天体の知識が定着している。 II：地震に対する備え、太陽との関わりも含めた人間生活、身近な学習から日本を含めた地球に思いを寄せ、考えることができている。 III：実験や授業中の態度、提出物	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度

3 学 期	こ れ か ら の 科 学 と 人 間 生 活	第Ⅴ章 生命の科学 ・新機能を備えたプラスチックの開発、発酵食品における微生物の利用、光通信の利用、人工衛星による地球表面の探査、などの課題から研究テーマとして 1 つ選び、パフォーマンス課題として報告書の作成と研究の発表（プレゼンテーション）を行う。 ・化学基礎の復習		○	○	Ⅱ：研究課題が発表までたどりつけるようなテーマかどうか、適切な判断ができている。またプレゼンが正確で多彩に表現されている。 Ⅲ：興味を持って、選んだ課題に主体的に取り組んでいる。	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度
-------------	--	---	--	---	---	---	---

2025 年度 相愛高等学校 2 年 普通科特進コース シラバス

教科	数学	科目	数学 B	単位数	2	選択等	必修
教科書	高等学校 数学 B、数学 C（数研出版）						
副教材等	4 プロセス 数学Ⅱ+B、数学 C（数研出版） チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B、数学 C（数研出版） スタディサプリ						

1 学習の到達目標

数列、統計的な推測について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

本年度より、指導要録が変わり「統計的な推測」が必須となった。さらに数学 C も追加され、文系理系に関わらずベクトルは共通テストの範囲として指定された。これらを踏まえ、これまで以上に数学 B の授業の重要度が増していることを念頭に、授業に向き合っていただきたい。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	数列、統計的な推測、ベクトルについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
評 価 方 法	朝テスト 授業中の小テスト 定期考査	授業中の小テスト 定期考査 レポート課題	提出物 レポート課題

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学 期	単 元 名	学習内容	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学 期 中 間	数 列	第1章 数列 第1節 等差数列と等比数列	○	○	○	数列やその一般項の表し方について理解する。また、基本的な数列として等差数列と等比数列を理解し、それらの和を求められるようにする。また、これらの数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢がある。	小テスト 定期考査 提出物 レポート課題
1 学 期 期 末	数 列	第2節 いろいろな数列 第3節 漸化式と数学的帰納法	○	○	○	和の記号 Σ の表し方や性質を理解し、活用できる。また、いろいろな数列について、その一般項や和を求めたり、和から一般項を求めたりできる。 数列の帰納的な定義について理解し、漸化式から一般項が求められるとともに、複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられる。また、数学的帰納法の仕組みを理解し、様々な命題の証明に活用できる。	小テスト 定期考査 提出物 レポート課題
2 学 期 中 間	統 計 的 な 推 測	第2章 統計的な推測 第1節 確率分布 第2節 統計的な推測 第3章 数学と社会生活	○	○	○	確率変数と確率分布について理解し、期待値や分散、標準偏差などを求めることを通じて、分布の特徴を把握できる。また、連続型確率変数についても理解し、正規分布を様々な日常の事象の考察に活用できる。 母集団と標本、標本平均について理解し、特に標本平均については、それが確率変数であることを正しく理解した上で考察できる。また、母平均や母比率の推定、正規分布を用いた仮説検定ができ、それらを日常の事象の考察や様々な判断に積極的に活用できる。 社会生活などにおける問題を、数学を活用して解決する意義について理解するとともに、日常の事象や社会の事象などを数学化し、数理的に問題を解決する方法を知り、積極的に数学を活用できる。	小テスト 定期考査 提出物 レポート課題

2 学 期 期 末	平 面 上 の ベ ク ト ル	数学 C 第 1 章 平面上のベクトル 第 1 節 ベクトルとその演算	○	○	○	向きと大きさをもつ量としてのベクトルの意味およびその演算について理解し、成分表示も含めてベクトルの演算ができる。また、ベクトルの内積について理解し、平面上のベクトルのなす角について考察できる。	小テスト 定期考査 提出物 レポート課題
3 学 期	平 面 上 の ベ ク ト ル	第 2 節 ベクトルと平面図形	○	○	○	位置ベクトルについて理解し、位置ベクトルを図形の性質を調べるのに活用できる。また、図形をベクトルを用いて表せることを理解し、基本的な図形のベクトル方程式を求めたり、ベクトル方程式が表す図形を求めたりできる。	小テスト 定期考査 提出物 レポート課題

2025 年度 相愛高等学校 2 年 普通科 特進コース シラバス

教科	国語	科目	国語演習	単位数	2	選択等	特進
教科書	指定なし						
副教材等	現代文問題 古典問題						

1 学習の到達目標

さまざまな文章・資料に触れながら、各文章・資料の書き手の意図を正確に理解する。また自身の意図を他者に正確に伝達できるようになる。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

文章の特徴をつかみ、読み解いていくために自発的に学ぶ姿勢を身につけよう。読み解いたものを、他者に分かりやすく伝えるため、語彙力や基礎知識を増やし、表現技法を学び活用していこう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	伝統的な言語文化に親しんだり、言葉の特徴や決まり、漢字などについて理解し使ったりする。目的や場面、意図に応じ、文章の形態を選択し、論理の展開に工夫して、説得力のある文章を書いている。	目的や場所に応じ相手に合わせて話したり、目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価したりしながら読み、人間社会自然などについて自分の考えを持っている。	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、読書を通して自己を向上させようとする。
評 価 方 法	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露	・学習状況 ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学 期	単 元 名	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
		I	II	III		

1 学 期 中 間		到達度テスト【春】解説	○	○	○	I 漢字や単語の知識を吸収しようとする。 II 文章を的確に読もうとする。 キーワードやキーセンテンスを見つけ出すことができる。 III 自身の誤答の原因を明らかにしようとする。 疑問の所在を明らかにし、解決しようすることができる。 II 注と関連させて本文を読むことができる。 III 分からない言葉や習慣について調べることができる。	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答
1 学 期 期 末		ベネッセ総合学力テスト7月過去問解説	○	○	○	I 漢字や単語の知識を吸収しようとする。 II 文章を的確に読もうとする。 各種文章の特性を知り、客観的に分析して読むことができる。 III 自身の誤答の原因を明らかにしようとする。 I 文語文法、古典常識を活用して読もうとする。 II 注と関連させて本文を読むことができる。 III 既習の事項を活用して、文章を読み、問題を解くことができる。	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・定期考査
2 学 期 中 間		到達度テスト【秋】解説	○	○	○	I 既知の事実と新たな知識を連動して考えることができる。 II 各文章・資料の特性を知り、読み比べができる。 III 自身の誤答の原因を明らかにしようとする。 I 文語文法、古典常識を活用して読みを深められる。 II 伝統的な文化・習慣と現代の文化・習慣との相違点と相似点を見つけることができる。 III 既習の事項を活用して、文章を読み、問題を解くことができる。	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答
		日本の伝統的な文化・習慣について学ぶ	○	○	○		

2 学 期 期 末		ベネッセ総合学力テスト11月過去問解説	○	○	○	I 漢字や単語の知識を学び、運用しようとする。 II 文章を的確に読もうとする。 文章全体構成を意識して読むことができる。 III 自身の誤答の原因を明らかにしようとする。 I 文語文法、古典常識の知識を活用して、文章を読み解こうとする。 II 伝統的な文化・習慣と現代の文化・習慣の相違点と相似点を、他者と共有することができる。 III 既習の事項を活用して、文章を読み、問題を解くことができる。	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・定期考査
3 学 期		ベネッセ総合学力テスト1月過去問解説	○	○	○	I 漢字や単語の知識を深め、運用しようとする。 II 文章を的確に読もうとする。 各文章について客観的に分析し、他者と共有することができる。 III 既習の事項を活用して、文章を読み、問題を解くことができる。	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・定期考査

2025 年度 相愛高等学校 2 年 普通科 特進コース シラバス

教科	国語	科目	古典探究	単位数	3	選択等	必修
教科書	『古典探究』（大修館書店）						
副教材等	『解釈のための必携古典文法 三訂版』（啓隆社）、『改訂版 常用国語便覧』（浜島書店） 『重点整理 新・国文学史ノート』（日栄社）、『古文単語 300』（旺文社） 『評解 新小倉百人一首』（京都書房） 〈以上高校 1 年より継続して利用〉						

1 学習の到達目標

古文や漢文を主体的に読み深めることを通して、日本の伝統的な言語文化への理解や関心を深めることを目的とする。

- (1) 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深める。
- (2) 論理的に考える力を伸ばし、先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

古文・漢文を自ら読み解ける楽しさを追究してほしい。古典を読み解くためにも、語彙力をつけ、文法、常識の習得にも積極的に取り組んでいこう。先人の「知」「生き方」「文化交流」に触れ、自らの視野を広げていってほしい。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	伝統的な言語文化に親しみ、言語の特徴や決まりなどについて理解する。本文の目的や場面、意図に応じ、論理の展開に目を見張り、説得力のある文章を書いている。	目的や場所に応じ、相手に合わせて話したり、目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価したりしながら読み、文化などについて自分の考えを持っている。	国語で理解する能力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、読書を通して自己を向上させようとする。
評 価 方 法	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露	・学習状況 ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について◎をつけている。

学 期	単 元 名	学習内容	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学 期 中 間	説 話	『宇治拾遺物語』 「検非違使忠明の事」 『十訓抄』 「大江山いくのの道」 『今昔物語集』 「安倍清明」 漢文 句形	◎	○	○	I 古典を読むために必要な文語の決まりについて理解している。 II 「読むこと」において文章の種類を踏まえ、内容を的確に捉える。 III 説話文学に興味を持ち、登場人物の言動など多様な価値観を読み取る。	・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査
1 学 期 期 末	随 筆 ・ 歌 物 語	『伊勢物語』 「月やあらぬ」 『徒然草』 「家居のつきづきしく」 助動詞復習・助詞 漢文句形	○	◎	○	I 語句の意味や用法を理解し、語句の量を増やし、語感を磨く。 ・和歌の修辞表現の特色について理解を深める。 II 「読むこと」において、古典の作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方にふれ、人間、社会、自然に対する自分の考えを深める。 III 作品の文学的位置づけを理解し、作品の特徴について考える。	・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査
2 学 期 中 間	日 記 文 学	『更級日記』 『土佐日記』 「門出」 助詞・敬語 漢文句形	○	◎	○	I 古典作品や文章の種類とその特徴について理解を深める。 ・文語の決まりや訓読の決まりについて理解を深める。 II 「読むこと」において、内容や解釈を自分の知見と結びつけ、考えを深める。 III 作品に興味を持ち、教材以外の作品についても積極的調べようとする。	・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査
2 学 期 期 末	物 語 ・ 漢 文	『源氏物語』 「若紫」 『史記』 「項王の最期」	◎	○	○	I 我が国の文化と中国など外国の文化との関係に理解を深める。 II 「読むこと」において、作品の成立した背景やほかの作品との関係を踏まえながら、内容の解釈を深める。 III 作品について、興味を持ち、登場人物の行動や心情について考えようとする。	・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査

3 学 期	随 筆 ・ 歴 史 物 語	『枕草子』 「中納言参りたまひて」 『大鏡』 「競べ弓」	◎	○	○	I 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、語彙を豊かにする。 II 「読むこと」において、書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈する。 III 作品の優れた表現を味わい、歴史的背景を踏まえて解釈する。	・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査
-------------	---------------------------------	---	---	---	---	---	--

2025 年度 相愛高等学校 2 年 普通科 特進コース シラバス

教科	宗教	科目	宗教	単位数	1	選択等	必修
教科書	『見真』（本願寺出版社）						
副教材等	『日々の糧』 『聖典聖歌』						

1 学習の到達目標

仏教を開かれた釈尊の生涯、並びに仏教の基本的な教えを学び、自分自身を内観し、より充実した生き方の探究に繋げることを目標とする。授業の冒頭では「日々の糧」の言葉について考えを深めながら、他に対するおかげさまの心（感謝）や責任感を身につけ、心豊かな宗教的情操と主体的に生きる力を育む。

2 学年の宗教では、釈尊の生涯・仏教の誕生・教え・歴史的変遷を学ぶ。インドで興った仏教がどのような経緯でアジアに伝わり、日本に伝わったのかを学ぶ。また、仏教の諸宗派についてもふれる。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

仏教の基本は「縁起観」です。すべての事象は関係性によって、今、仮に成り立ち、それは刻々と変化し続けています。「私」もまたその事象の一つ。仏教のものの見方を学び、それを基に、皆さんが主体的に考え、物事に取り組んでいくことは自身の充実した人生に繋がります。今していることは未来に繋がっています。自分を信じて努力する心を養ってみてください。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	釈尊の生涯、教えを正しく理解し、教えがどのように伝わっていくのか、その背景を正しく理解できているか。また、知識として理解を深めるだけでなく、理解を深めて人間性を養うことに繋がっているか。	釈尊の教えがインドから日本に伝わる歴史的な背景について関心を持ち、主体的に取り組む姿勢がみられるか。	仏教の学びを通じ、生活や社会、人間関係をよりよく構築するために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。
評 価 方 法	定期考査	パフォーマンス課題 発問への対応 感想文等の取り組み	パフォーマンス課題 学習状況 発問への対応

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめる。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
一学期中間	釈尊とその教え	釈尊以前のインド 釈尊の生涯について	○	○		I：仏教を開かれた釈尊の生涯とその教えについて学びます。釈尊の出家の動機や修行の過程を訪ね、悟りを開き、伝道の旅を続けられてから涅槃に至るまでの足跡を求めながら釈尊の生き方を理解している。 II：釈尊の五相について、それぞれのターニングポイントでどのようなきっかけがあったのか知り、自分の問題としてとらえて表現しようとしている。 III：釈尊の生涯から生き方について学び、それを自分の問題として多面的・多角的に受け止め、積極的に取り組もうとしている。	学期末に行う年3回の試験。授業を受けるにあたっての平常点。ノート、発表、課題提出。板書事項、説明等、きちんとノートにまとめられたか。また、内容を理解し、自己のあり方を見つめ直せたか。
		・誕生	○	○			
		・出家	○	○			
		・成道	○	○			
		・伝道	○	○			
		・涅槃	○	○			
		2節 釈尊の教え					
		縁起	○	○			
		三法印	○	○			
		まとめ	○	○			
一学期期末		期末考査	○	○			
		※「日々の糧」・「聖典」のこ とば・時事問題を交えながら 学習する。			○		
二学期中間	釈尊とその教え・ 教えの流れ	四諦八正道	○	○		I：仏教がどのような形でまとめられ、インドからどのような形で中国に伝わったのかを理解している。 II：仏教の教えがどのような形で発展していったのかを時代背景とともに学び、公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。 III：仏教の伝播について学び、その背景を多面的・多角的に受け止め、積極的に問題意識をもって取り組もうとしている。	
		1 最初の寺院	○	○			
		1節 経典の編集	○	○			
		2節 大乘仏教への道	○	○			
		大乘仏教	○	○			
		北伝仏教	○	○			
		※「日々の糧」・「聖典」のこ とば・時事問題を交えながら 学習する。			○		
二学期期末	教えの流れ	3節 仏教の日本伝来				I：仏教が中国・朝鮮半島からどのような形で中国に伝わったのかを理解している。 II：仏教の教えがどのような形で発展していったのかを時代背景とともに学	
		聖徳太子と日本仏教	○	○			
		まとめ	○	○			
		期末考査	○	○			
		※「日々の糧」・「聖典」のこ			○		

		とば・時事問題を交えながら学習する。				び、公正に選択・判断したり，思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりしている。 Ⅲ：仏教の伝播について学び、その背景を多面的・多角的に受け止め、積極的に問題意識をもって取り組もうとしている。	
三学期	教 え の 流 れ	奈良時代の仏教 平安時代の仏教 (天台宗・真言宗) 鎌倉時代の仏教 (浄土教・禅宗・日蓮宗 など) ※「日々の糧」・「聖典」の ことば・時事問題を交え ながら学習する。 まとめ 学年末考査	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○	Ⅰ：日本における仏教の変遷について学びます。仏教がそれぞれの時代でどのように受け入れられたのかを理解している。 Ⅱ：仏教がそれぞれの時代に変化し、発展してきたのかを知り、興味をもって表現しようとしている。 Ⅲ：教えをつなぐということについて、自分の問題として多面的・多角的に受け止め、積極的に取り組もうとしている。	

2025 年度 相愛高等学校 2 年 普通科専攻選択コース シラバス

教科	教養選択	科目	ヨガ	単位数	1	選択等	選択
教科書	なし						
副教材等	『きれいになるヨガがすべて載っている本』（樫出版社）『ヨガが丸ごとわかる本』（PHP 出版）等プリント						

1 学習の到達目標等

- ・芸術、文化、マナーの授業を通し、女性としての品格を育てていく。
- ・様々な芸術、文化、思想に触れることによって、視野を広げ、人間性を深めていく。
- ・ヨガの呼吸法・瞑想法・ポーズを通し、女性としての“美しさ”“しなやかさ”を育んでいく。
- ・心と身体を落ち着かせ、いつも冷静に判断できる、強く優しい精神を育んでいく。

2 担任者からのメッセージ（学習方法等）

ヨガの呼吸法・瞑想法・ポーズを通して、心身の健康と真の美しさを見いだしていきましょう。
 生きていること・生かされていることを感じ、感謝の気持ちを持ち、笑顔で楽しく行いましょう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	a：知識・技能（技術）	b：思考・判断・表現	c：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	アーサナ（ポーズ）の名前や成り立ちを理解する。 またそのポーズの効果や効能を理解し、実践する。	ポーズを行うことで、呼吸の乱れや、体の変化を感じる。そして、そのポーズを快適にリラックスして行えるように、体の使い方等を考える。	ヨガのポーズや呼吸法・瞑想法に興味を持ち、積極的に実践してってもらいたい。 授業のみならず、日々の生活に取り入れ、健やかな日々を過ごして欲しい。
評 価 方 法	実技・確認テスト	レポート・課題 （レポート内に思考・判断・表現等を記入）	授業態度 レポート（長期休み後の課題等）
上に示す観点に基づいて、学期ごとに評価し、通知表にて提示する。学年末は5段階の評価。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。			

4 年間指導計画

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期	ヨガの基本Ⅰ	・ 基本の呼吸法 ・ 基本の瞑想法 ・ 基本のアーサナ（ポーズ） ・ ヨガとは何か（ヨガの種類・流派） ・ 太陽礼拝	○	○	○	・ 腹式呼吸の練習 ・ 呼吸瞑想の練習 ・ 座位のポーズⅠ 座り方、座ったポーズの練習 ・ 立位のポーズⅠ 立ち方、立ちポーズの練習 ・ 仰臥位のポーズⅠ 仰向けのポーズの練習 ・ 太陽礼拝について ヨガの歴史・進化・発展 ポーズの効果・効能など	学習態度 実技テスト レポート （課題） 発問への反応
2 学期	ヨガの基本Ⅱ	・ 基本の呼吸法 ・ 基本の瞑想法 ・ 基本のアーサナ（ポーズ） ・ ヨガの歴史Ⅱ	○	○	○	・ 胸式呼吸の練習 ・ ヴィッパサーナ瞑想の練習 ・ 座位のポーズⅡ 座ったポーズの練習 ・ 立位のポーズⅡ 立ちポーズの練習 ・ 仰臥位のポーズⅡ 仰向けのポーズの練習 ・ ヨガの歴史を詳しく学ぶ インドで誕生したヨガが如何にてして現代まで繋がってきたのか	学習態度 実技テスト レポート （課題） 発問への反応
3 学期	ヨガの基本Ⅲ	・ 基本の呼吸法 ・ 基本の瞑想法 ・ 基本のアーサナ（ポーズ） ・ アーユルベーダーの発展	○	○	○	・ 完全呼吸の練習 ・ 慈悲瞑想の練習 ・ 座位のポーズⅢ 座ったポーズの練習 ・ 立位のポーズⅢ 立ちポーズの練習 ・ 仰臥位のポーズⅢ 仰向けのポーズの練習 ・ アーユルベーダとは 体質チェック・食事法・マッサージ法	学習態度 実技テスト レポート （課題） 発問への反応

2025 年度 相愛高等学校 2 年 普通科 専攻選択コース シラバス

教科	外国語（英語）	科目	英語コミュニケーションⅡ	単位数	5	選択等	必修
教科書	Grove English CommunicationⅡ（文英堂）						
副教材等	Grove English CommunicationⅡ FILL-IN NOTEBOOK 授業ノート（文英堂） Grove English CommunicationⅡ ワークブック（文英堂） 英単語ターゲット 1400（旺文社） 即戦ゼミ 大学入試ベストポイント英語頻出問題 740（桐原書店） オンライン英会話 Chatty						

1 学習の到達目標

様々な題材の英文を通して、既習の英文法の理解を深めるとともに英語を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。他国の文化・歴史に触れることで視野を広げる。情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

高校になると、文法用語もいろいろと学ぶことになります。新しい文法を学びつつ、そして単語や熟語の知識も使って、英文を聞いたり、読んだり、話したり、書いたりしていきましょう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用する技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概念や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりする力を身に付けている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。
評 価 方 法	・小テスト ・定期考査	・小テスト ・定期考査 ・オンライン英会話 ・提出課題	・授業中の活動、発表 ・オンライン英会話 ・提出課題

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間		Lesson 1 Breakfast Around the World	○	○	○	[題材・内容] ・様々な国や地域の典型的な朝食メニューについて読んで理解し、自分自身の経験や考えを表現する。 [文型・文法事項] 主部と述部 / 「S+V」 「S+V+C」 「 S+V+O 」 / 「 S+V+O1+O2 」 「S+V+O+C」 / 動名詞・to 不定詞・分詞 を理解して、聞いたり読んだり書いたり話したりする。	学習態度 小テスト 定期考査 提出課題 オンライン 英会話
		Lesson 2 What Makes You a Good Street Dancer?	○	○	○	[題材・内容] ・ストリートダンスの特徴について読んで理解し、自分自身の経験や考えを表現する。 [文型・文法事項] 完了形 / 進行形 / 完了進行形 を理解して、聞いたり読んだり書いたり話したりする。	
1 学期 期末		Lesson 3 Small Actions Can Be Powerful	○	○	○	[題材・内容] ・音楽をきっかけに参画するボランティア活動について読んで理解し、情報や自分自身の経験や考えをまとめる。 [文型・文法事項] 助動詞 / 助動詞+完了形 / to 不定詞 を理解して、聞いたり読んだり書いたり話したりする。	学習態度 小テスト 定期考査 提出課題 オンライン 英会話
		Lesson 4 Zoos --- Roles and Challenges	○	○	○	[題材・内容] ・動物園の役割や活動について読んで理解し、情報や自分の経験や考えをまとめる。 [文型・文法事項] 受け身 / 目的語が 2 つの文章の受け身/ 助動詞や進行形を含む受け身 を理解して、聞いたり読んだり書いたり話したり	

						する。	
2 学 期 中 間		Lesson 5 Paper Can Change the Future	○	○	○	[題材・内容] ・紙について、その歴史や環境問題との関係などを読んで理解し、自身の経験や考えを表現する。 [文型・文法事項] 分詞の形容詞的用法 / S+V+(O+) O (=that 節) / S+V+(O+) O (疑問詞節など) / S+V+C (that 節) を理解して、聞いたり読んだり書いたり話したりする。	学習態度 小テスト 定期考査 提出課題 オンライン 英会話
		Lesson 6 Our Advanced Network Society	○	○	○	[題材・内容] ・情報伝達のためのデジタル機器が活用される社会について読んで理解し、自分自身の経験や考えを表現する。 [文型・文法事項] S+V+O+ to 不定詞 / S+V+O+C(=分詞) S+V+O+C(=原形不定詞) / S+V(=seem, appear 等)+ to 不定詞 を理解して聞いたり読んだり書いたり、話したりする。	
2 学 期 期 末		Lesson 7 Connecting with People	○	○	○	[題材・内容] ・人と人をつながり合うことについての重要性について読んで理解し、自身の経験や考えをまとめて表現する。 [文型・文法事項] as～as / not as～as / 関係代名詞 / 関係代名詞の非制限用法 / 前置詞+関係代名詞 を理解して、聞いたり、読んだり、書いたり、話したりする。	学習態度 小テスト 定期考査 提出課題 オンライン 英会話
		Lesson 8 Practice Makes Perfect: A Japanese Maker's World Victory	○	○	○	[題材・内容] ・あるパン職人が成し遂げた努力と結果について読み、自分自身の経験や考えをまとめて表現する。 ・伝える内容を整理し、要点や意図を明確にしながら自分自身の経験や考えを伝えあう。	

						[文型・文法事項] 関係副詞 / 分詞構文 / 関係副詞の非制限用法 を理解して聞いたり読んだり書いたり話したりする。	
3 学 期		Lesson 9 The World Without Honeybees	○	○	○	[題材・内容] ・身近な昆虫の1つであるミツバチが人間の生活にどのように関係しているのかを読み、自分自身の経験や考えをまとめて表現する。 [文型・文法事項] 仮定法過去 / 仮定法過去完了 / if のない仮定法 / 仮定法を含む表現 を理解して、聞いたり読んだり書いたり話したりする。	学習態度 小テスト 定期考査 提出課題 オンライン英会話
		Lesson 10 The Forth Bridge: An Iconic Landmark in Scotland	○	○	○	[題材・内容] ・スコットランドのフォース橋について読んで理解し、自分自身の経験や考えをまとめて表現する。 [文型・文法事項] 強調構文 / 省略 / 同格の that / 付帯状況の with を理解して、聞いたり読んだり書いたり話したりする。	

2025 年度 相愛高等学校 2 年 普通科 専攻選択コース シラバス

教科	外国語 (英語)	科目	ブラッシュアップ English	単位数	1	選択等	必修
教科書	なし						
副教材等	My Way 総合英語 文法&ワーク (三省堂) My Way 総合英語 (三省堂)						

1 学習の到達目標

基礎となる英文法の理解を深めるとともに英語を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。英検の目標級に合格する。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

基礎的な語彙力と文法力を高めて、読む・聞く・書く・話すことでの4技能を高められるように取り組みましょう。積極的に英語検定の受験をして、より高い受験級の合格を目指しましょう。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観 点	I : 知識・技能 (技術)	II : 思考・判断・表現	III : 主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	外国語の4技能 (話す、書く、聞く、読む) について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解している。	場面、目的、状況に応じて、日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりしている。	他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。言語やその背景にある文化に対する関心を持って、自律的、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評 価 方 法	・ 学習状況 ・ 確認テスト ・ 発問への対応 ・ 英語検定の結果	・ 学習状況 ・ 確認テスト ・ 提出課題 ・ 発問への対応 ・ 英語検定の結果	・ 学習状況 ・ 確認テスト ・ 提出課題 ・ 発問への対応 ・ 英語検定の結果

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにあわせて評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	Lesson13～16	受動態 不定詞	○ ○	○ ○	○ ○	a:by を使わない受動態、進行形・完了形・句動詞の受動態を理解し、書いたり話したりできる。 b:不定詞の3つの用法を理解し、書いたり話したりできる。	・学習状況 ・確認テスト ・発問への対応 ・英語検定の結果
1 学期 期末	Lesson16～19	不定詞 動名詞	○ ○	○ ○	○ ○	a:不定詞の意味上の主語や原形不定詞の用法を理解し、書いたり話したりできる。 b:完了不定詞・不定詞の受動態、進行形を理解し、書いたり話したりできる。 c:動名詞の基本的用法を用いて書いたり話したりできる。	・学習状況 ・確認テスト ・発問への対応 ・英語検定の結果
2 学期 中間	英検対策 Lesson20～21	動名詞 分詞	○ ○	○ ○	○ ○	a:動名詞の意味上の主語、完了動名詞、動名詞の態に注意して書いたり話したりできる。 b:英検に出題される熟語や単語を理解できる。	・学習状況 ・確認テスト ・発問への対応 ・英語検定の結果
2 学期 期末	Lesson22～25	分詞 比較	○ ○	○ ○	○ ○	a:知覚動詞や使役動詞を伴う動名詞を理解し、書いたり話したりできる。 b:分詞構文を理解して書いたり話したりできる。 c:比較級・最上級について理解して書いたり話したりできる。	・学習状況 ・確認テスト ・発問への対応 ・英語検定の結果
3 学期	Lesson26～28	比較 関係詞	○ ○	○ ○	○ ○	a: 比較の様々な表現を理解して書いたり話したりできる。 b:関係代名詞について理解して書いたり話したりできる。	・学習状況 ・確認テスト ・発問への対応 ・英語検定の結果

2025 年度 相愛高等学校 2 年 普通科 専攻選択コース シラバス

教科	保健体育	科目	保健	単位数	1	選択等	必修
教科書	現代高等保健体育（大修館書店）						
副教材等	なし						

1 学習の到達目標

心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

自分の生涯を安全に・健康に暮らすための科目です。興味を持って授業に取り組むと、将来の自分に対して必ず財産になります。健康や、運動・スポーツに対する考え方は、社会の変化の中で徐々に変わってきています。保健の授業の中で、私たちの健康に関わる大切な知識を積極的に得てください。そして、日々の生活に、さらには今後の人生においても、学んだことを役立ててほしいと思います。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	健康・安全の意義を理解するとともに、現代社会と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。	個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関する課題の解決を目指して、科学的に思考し、総合的に捉えることにより、適切な意思決定を行い、選択すべき行動を適切に判断している。	個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践するため、意欲的に学習に取り組もうとしている。
評 価 方 法	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への対応	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への対応	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への対応
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評価にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期	生涯を通じる健康	1.ライフステージと健康	○	○	○	I. ライフステージと健康の関連について理解している。 II. 人間の一生において節目となる出来事、出生、就学、卒業、就職、退職、結婚、出産、育児などのライフイベントで活用できる社会からの支援について、例をあげることができる。 III. 各ライフステージにおける健康課題とその支援について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	
		2.思春期と健康	○	○	○	I. 思春期における体の変化、思春期における心と健康課題について、基礎的な事項を理解している。 II. 思春期における体の変化、思春期における心と健康課題について、資料等で調べたことをもとに、課題を見つけたり、整理したりするなどして、それらを説明することができる。 III. 思春期における体の変化、思春期における心と健康課題について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	
		3.性意識と性行動の選択	○	○	○	I. 性意識の男女差、性に関する情報が性行動の選択に影響を及ぼすことについて、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。 II. 性意識の男女差、性に関する情報が性行動の選択に影響を及ぼすことについて学習したことを、個人および社会生活や事例などと比較したり、分類した	

					り、分析したりするなどして、筋道を立ててそれすることができる。 Ⅲ. 性意識の男女差、性に関する情報が性行動の選択に影響を及ぼすことについて、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。
	4.妊娠・出産と健康	○	○	○	Ⅰ. 受精・妊娠・出産の過程における健康課題、妊娠・出産期における生活上の注意や周囲の支援、出産期に活用できる母子保健サービスについて理解し、説明することができる。 Ⅱ. 妊娠・出産の過程における健康課題、妊娠・出産期に活用できる母子保健サービスについて学習したことを、個人および社会生活や事例などと比較したり、分類したり、分析したりするなどして、筋道を立ててそれらを説明することができる。 Ⅲ. 妊娠・出産の過程における健康課題、妊娠・出産期に活用できる母子保健サービスについて関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。
	5.避妊法と人工妊娠中絶	○	○	○	Ⅰ. 家族計画の意義、コンドームやピルを使用した適切な避妊法、人工妊娠中絶が女性の心身に及ぼす影響について、基礎的な事項を理解している。 Ⅱ. 家族計画の意義と適切な避妊法、人工妊娠中絶が女性の心身に及ぼす影響について学習したことを、個人および社会生活や事例などと比較したり、分類したり、分析したりするなどしている。また、筋道を立ててそれらを説明することができる。 Ⅲ. 家族計画の意義と適切な避妊法、人工妊娠中絶が女性の心身に及ぼす影響について、話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。

						る。	
2 学 期	生 涯 を 通 じ る 健 康	6.結婚生活と健康	○	○	○	I. 心身の発達と結婚生活の関係、結婚生活を健康的に送るために必要な考え方や行動について、基礎的な事項を理解している。 II. 心身の発達と結婚生活の、結婚生活を健康的に送るために必要な考え方や行動について総合的に考え、判断し、それらを表すことができる。 III. 心身の発達と結婚生活の関係、結婚生活を健康的に送るために必要な考え方や行動について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	
		7.中高年期と健康	○	○	○	I. 加齢にともなう心身の変化、中高年期を健やかに過ごすための社会的な取り組みについて、基礎的な事項を理解している。 II. 加齢にともなう心身の変化、中高年期を健やかに過ごすための社会的な取り組みについて、資料等で調べたことをもとに課題を見つけたり、整理したりするなどして、それらを説明している。 III. 加齢にともなう心身の変化、中高年期を健やかに過ごすための社会的な取り組みについて、話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	
		8.働くことと健康	○	○	○	I. 働くことの意義と健康とのかかわりについて、基礎的な事項を理解している II. 働き方や働く人の健康問題の変化について、資料等で調べたことをもとに課題を見つけたり、整理をするなどして、それらを説明することができる。 III. 働くことの意義と健康とのかかわりについて、話し合いや意見交換などの学	

					習活動に意欲的に取り組もうとしている。	
		9.労働災害と健康	○	○	○	I. 労働災害の種類とその原因についての基礎的な事項を理解している。 II. 労働災害を防止するために必要なことを、資料等で調べたことをもとに、課題を見つけたり、整理をするなどして、それらを説明することができる。 III. 労働災害の種類とその原因、防止する為に必要なことを、話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。
		10.健康的な職業生活	○	○	○	I. 職場が行う健康に関する取り組みや、余暇を積極的に取ることの意義について理解している。 II. 職場が行う健康に関する取り組みに居ついて例を挙げて説明することができる。 III. 職場が行う健康に関する取り組みや、余暇を積極的に取ることの意義について、話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。
		1.大気汚染と健康	○	○	○	I. 大気汚染の原因とその健康影響、大気にかかわる地球規模の環境問題について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。 II. 大気汚染の原因とその健康影響、大気にかかわる地球規模の環境問題について、資料等で調べたことをもとに、課題を見つけたり、整理したりするなどして、それらを説明することができる。 III. 大気汚染の原因とその健康影響、大気にかかわる地球規模の環境問題について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。
		2.水質汚濁、土壌汚染	○	○	○	I. 水質汚濁の原因とその健康、土壌汚染

		と健康			の原因とその健康影響、大気汚染・水質汚濁・土壌汚染のかかわりについて、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。 Ⅱ.水質汚濁の原因とその健康影響、土壌汚染の原因とその健康影響、大気汚染・水質汚濁・土壌汚染のかかわりについて、資料等で調べたことをもとに、課題を見つけたり、整理したりするなどして、それらを説明することができる。 Ⅲ.水質汚濁の原因とその健康影響、土壌汚染の原因とその健康影響、大気汚染・水質汚濁・土壌汚染のかかわりについて、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。
		3.環境と健康にかかわる対策	○	○	○ Ⅰ.環境汚染の防ぐための取り組み、産業廃棄物の処理と健康問題について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。 Ⅱ.環境汚染の防ぐための取り組み、産業廃棄物の処理と健康問題について、学習したことを個人及び社会生活や事例などと比較したり、分類したり、分析したりするなどして、筋道を立ててそれらを説明することができる。 Ⅲ.環境汚染の防ぐための取り組み、産業廃棄物の処理と健康問題について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。
		4.ごみの処理と上下水道の整備	○	○	○ Ⅰ.ごみの処理の現状やその課題について基礎的な事項を理解している Ⅱ.上下水道の仕組みと課題に関わる課題を具体的な例をあげるなどして、説明することができる。 Ⅲ.ごみ処理の現状や上下水道の仕組みを理解し、課題解決にむけての話し合い

		5.食品の安全性	○	○	○	や意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 I.食品の安全性と健康とのかかわりについて、基礎的な事項を理解している II.食品の安全性と健康との関わりについて、資料等で調べたことをもとに課題を見つけたり、整理するなどして、それらを説明することができる。 III.食品の安全性と健康との関わりについて理解し、課題解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	
		6.食品衛生にかかわる活動	○	○	○	I.食品の安全性、食品の安全にかかわる行政の役割、製造・加工者による HACCP などの衛生管理について、基礎的な事項を理解している。 II.食品の安全性、行政、生産・製造者による衛生管理について、学習したことを社会生活事例などと比較したり、分類したり、分析したりするなどして、筋道を立ててそれらを説明することができる。 III.食品の安全性、行政、生産・製造者による衛生管理について、話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	
3 学 期	健 康 を 支 え る 環 境 づ く り	7. 保健サービスとその活用	○	○	○	I. 地域の保健所・保健センターなどの保健行政の役割、保健サービスや保健情報の活用について、基礎的な事項を理解している。 II. 保健行政の役割、保健サービスや保健情報の活用について、資料等で調べたことをもとに、課題を見つけたり、整理したりするなどして、それらを説明することができる。 III. 保健行政の役割、保健サービスや保健情報の活用について、資料を探したり、見たり、読んだりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	

		8. 医療サービスとその活用	○	○	○	I. 医療制度と医療保険のしくみ、医療機関の役割と医療サービスの活用について、基礎的な事項を理解している。 II. 医療制度と医療保険のしくみ、医療機関の役割と医療サービスの活用について、知識を活用した学習活動などにより、総合的に考え、判断し、それらを表すことができる。 III. 医療制度と医療保険のしくみ、医療機関の役割と医療サービスの活用について、資料を探したり、見たり、読んだりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	
		9. 医薬品の制度とその活用	○	○	○	I. 医薬品の種類と正しい使用法、医薬品の副作用と対策、医薬品の安全性を守る取り組みについて、基礎的な事項を理解している。 II. 医薬品の種類と正しい使用法、医薬品の安全性を守る取り組みについて、知識を活用した学習活動などにより、総合的に考え、判断し、それらを表すことができる。 III. 医薬品の種類と正しい使用法、医薬品の安全性を守る取り組みについて、資料を探したり、見たり、読んだりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	
		10. さまざまな保健活動や社会的対策	○	○	○	I. 健康づくりのためのさまざまな活動、民間機関や国際機関などの保健活動について、基礎的な事項を理解している。 II. 健康づくりのためのさまざまな活動、民間機関や国際機関などの保健活動について総合的に考え、判断し、それらを表すことができる。 III. 健康づくりのためのさまざまな活動、民間機関や国際機関などの保健活動	

		11. 健康に関する環境 づくりと社会参加	○	○	○	について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 I. 健康の保持増進のための環境作りについて、課題解決に役立つ基礎的な事項を理解している。 II. 環境づくりへの主体的な参加が自他の健康づくりに繋がることについて、学習したことを個人及び社会生活や事例などと比較したり、分類したり、分析したりするなどして、筋道を立てて説明することができる。 III. 健康の保持増進のための環境づくりや、環境づくりへの主体的な参加が自他の健康づくりに繋がることをについて、課題解決に向けての話し合いや、意見交換などの学習活動に意欲的に取り組むことができる。	
--	--	--------------------------	---	---	---	--	--

2025 年度 相愛高等学校 2 年 普通科専攻選択コース シラバス

教科	体育	科目	体育	単位数	2	選択等	必修
教科書	アクティブスポーツ（大修館）						
副教材等							

1 学習の到達目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。

(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。

(3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

「体育」の授業を通して、体力、運動能力の向上はもちろん、礼儀や協調性、仲間との助け合いの精神も学んでもらいたいと考えています。実際に自分が動いていない場面でも学べることはたくさんあります。そういった小さな「気づき」を大切に授業に臨んでほしいと思います。現代社会で健康を保持増進していくには、運動は必要不可欠です。苦手な分野だと感じている人もいますが様々な事に積極的にチャレンジし、良い汗を流してほしいと思います。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な知識や生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するための科学的知識及び運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。 また、個人及び社会生活における健康・安全について、課	自己や仲間の課題に応じた運動の取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の計画を工夫し、それらを表現している。 また、個人及び社会生活における健康課題を発見し、その解決を目指して、総合的に考え、判断し、それらを表現している。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。 また、健康を優先し、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりに関する学習活動に主体的に取り組もうとしている

	題解決に役立つ知識や技能を身に付けている。		
評価方法	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への対応	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への対応	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への対応
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評価にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間							
1 学期 期末		・集団行動 ・体づくり運動 ・ラジオ体操 ・縄跳び ・筋力トレーニング ・陸上競技 ・サッカー	○	○	○	「知・技」・多様な体ほぐしの運動を考えることができる。・自分の心とからだの一体感、また仲間との一体感を感じるまで、運動の内容を深めることができる。 「思・判・表」 ・手軽な運動、律動的な運動など、運動の内容や方法を自分で考え、工夫し、実践することができる。・自己や仲間の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けた取り組みを工夫し、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 「主」 ・「体ほぐし」の意義を理解し、からだを動かす楽しさや心地よさを探求しよう	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への対応

					とすることができる。	
2 学 期 中 間						
2 学 期 期 末		・ 集団行動 ・ ラジオ体操 ・ 筋力トレーニング ・ ハンドボール ・ ダンス	○	○	○ 「知・技」 ・ 多様な体ほぐしの運動を考えることができる。 ・ 自分の心とからだの一体感、また仲間との一体感を感じるまで、運動の内容を深めることができる。 ・ パス・ドリブル・シュート・ゴールキーピングなどの基礎的な技能を身につけ、オフェンス・ディフェンス・ゴールキーパーとの連携など、ゲーム中の具体的な攻防の場面を想定し、互いに協力して、有効な動きを身につけることができる。 ・ 現代的なリズムダンス、創作ダンス、フォークダンスなど様々なジャンルのダンスに触れ、表現運動について学び、自己の思想や感情を自由に身体で表現したり仲間と共に作り上げることを学ぶ。 「思・判・表」 ・ 手軽な運動、律動的な運動など、運動の内容や方法を自分で考え、工夫し、実践することができる。 ・ 自己や仲間の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けた取り組みを工夫し、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 ・ 攻防などの自己や仲間の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けた取り組みを工夫し、自己の考えたことを他者に伝えることができる。 「主」 ・ ダンスにおいて「身体を使って表現すること」の意義を理解し、からだを動か	・ 学習状況 ・ 確認テスト ・ レポート ・ 発問への対応

					す楽しさや心地よさを探求しようとする ことができる。 ・ハンドボールに自主的に取り組むと ともに、フェアなプレーを大切にしよう とすること、作戦などについての話し 合いに貢献しようとする、一人一人の 違いに応じたプレーなどを大切にしよ うとすること、互いに助け合い教えあ おうとすることなどや、健康・安全を 確保する。	
3 学 期		・ 集団行動 ・ ラジオ体操 ・ ダンス ・ 筋力トレーニング	○	○	○ 「知・技」 ・ ゲームのルールを確実に理解し、具 体的な場面において、それをふまえた 行動ができる。 ・ドリブル・パス・シ ュートなど個人的技能の基本を着実に 身につけ、集団的技能のなかで正しく 適用することができる。 「思・判・表」 ・ 自己や仲間の課題を発見し、合理 的・計画的な解決に向けた取り組みを 工夫し、自己や仲間の考えたことを他 者に伝えることができる。 ・ 攻防などの自己や仲間の課題を発 見し、合理的・計画的な解決に向けた 取り組みを工夫し、自己の考えたこと を他者に伝えることができる 「主」 ・ ダンスにおいて「身体を使って表現 すること」の意義を理解し、からだを 動かす楽しさや心地よさを探求しよ うとすることができる。 ・ サッカーに自主的に取り組むととも に、フェアなプレーを大切にしよう とすること、作戦などについての話し 合いに貢献しようとする、一人一人の 違いに応じたプレーなどを大切にしよ うとすること、互いに助け合い教えあ おうとすることなどや、健康・安全を 確保する	・ 学習状況 ・ 確認テスト ・ レポート ・ 発問への対応

2025 年度 相愛高等学校 2 年 普通科 専攻選択コース シラバス

教科	国語	科目	論理国語	単位数	2	選択等	必須
教科書	「論理国語」 (大修館書店)						
副教材等	「ジャンプアップ高校漢字問題集 改訂版」(東京書籍)						

1 学習の到達目標

様々なテーマの表論文、随筆を読む能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって人生を豊かにする態度を育てる。

また、国語を適切に表現でき、的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばしていく。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

様々な文章を通して、自らの物事に対する捉え方の幅を広げ、思考を深められるようにしましょう。学び得た知識を読解力に活かすと同時に、コミュニケーション能力にも活かすことができるようにしましょう。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観 点	I : 知識・技能 (技術)	II : 思考・判断・表現	III : 主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	論理の展開を工夫して説得力のある文章を書くことができ、言葉の決まりや適切な言葉遣い、漢字などについて理解し使ったりするとともに、現代思想に関心を持ち、効果的に自己の考えを表現する	他者の考えや意見を傾聴し、目的や場面に応じ、相手の様子に合わせて話したり、表現の工夫を評価して聞いたり、課題の解決に向けて話し合ったりしている。	国語で伝え表現する力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、他者の意見との差異を認め、言語活動を通して自己を向上させようとする
評 価 方 法	・学習状況 ・定期テスト ・発問への応答 ・ミニレポート	・学習状況 ・定期テスト ・発問への応答 ・ミニレポート	・学習状況 ・発問への応答 ・ミニレポート
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評価にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I : 知識・技能 II : 思考・判断・表現 III : 主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間		・対話の精神 ・余白の美学	○	○ ○	○	文章の種類を踏まえて、内容や構成，論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にししながら要旨を把握している。 目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを適切に読み取り表現することができる。	・学習状況 ・発問への応答 ・疑問の発露
1 学期 期末		・コミュニティから見た日本 ・科学は生きている	○	○ ○	○	論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを適切に読み取り表現することができる。	・学習状況 ・発問への応答 ・疑問の発露
2 学期 中間		・人工知能の可能性と畏 ・「方言コスプレ」現象	○ ○	○ ○	○ ○	言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、自身で表現できる。 主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。	・学習状況 ・発問への応答 ・疑問の発露
2 学期 期末		・スキーマと記憶 ・分かち合う社会	○ ○	○ ○	○ ○	論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。	・学習状況 ・発問への応答 ・疑問の発露
3 学期		・世界は、いま ・グローバルゼーションと文化	○	○ ○	○ ○	文章の種類を踏まえて、内容や構成，論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にししながら要旨を把握している。 自己の能力をきちんと分析し、対策を立て、計画的に勉強している。	・学習状況 ・発問への応答 ・疑問の発露

2025 年度 相愛高等学校 2 年 専攻選択 シラバス

教科	国語	科目	文学国語	単位数	2	選択等	必修
教科書	『文学国語』（大修館書店）						
副教材等	『改訂版 常用国語便覧』（浜島書店）						

1 学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」を軸に、アクティブな学習態度を涵養したい。実社会の中から適切な話題をつかむこと、自らの考えを明確にすること、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫することも能力として養いつつ、言語活動の質を向上させてほしいと思っています。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	伝統的な言語文化に親しんだり、言葉の特徴や決まり、漢字などについて理解し使ったりする。目的や場面、意図に応じ、文章の形態を選択し、論理の展開に工夫して、説得力のある文章を書いている。	目的や場所に応じ相手に合わせて話したり、目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価したりしながら読み、人間社会自然などについて自分の考えを持っている。	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、読書を通して自己を向上させようとする。
評 価 方 法	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について◎をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	随想・評論	『十八歳の選択』朝井リョウ 『浄瑠璃寺の春』堀辰雄	○	◎	○	- 筆者の経験に基づいた考えを読み取る。内容や構成、展開などを的確にとらえている。 - 想像や共感を通して、自身の生き方について考えを深めている。 - 文中の自然と人間の関係に興味を持ち、描写や表現を味わっている。	- 行動の観察 - 記述の確認 - 提出物 - 定期考査
1 学期 期末	小説・詩	『山月記』中島敦（翻訳が広げる世界） 『小景異情』室生犀星	○	◎	○	- 主人公の境遇を把握し、心情を想像する。文学的な文章の特徴を理解している。 - 翻訳作品と元の作品との比較を通して作者の意図を理解している。 - 詩の形式やリズムを味わい、表現効果を理解している。	- 行動の観察 - 記述の確認 - 提出物 - 小テスト - 定期考査
2 学期 中間	俳句・小説	俳句 『こころ』夏目漱石	○	◎	○	- 俳句の形式やリズムを味わい、表現効果について理解している。 - 情景の豊かさや心情の機微を表す語句を理解している。 - 登場人物の心情理解を通し、自己の生き方や他者との関わりについて考えを深めている。	- 行動の観察 - 記述の確認 - 提出物 - 小テスト - 定期考査
2 学期 期末	小説	『こころ』夏目漱石	○	◎	○	- 文学的な文章を通して、言語文化の特質について理解を深め、語感を磨き、語彙を増やそうとしている。 - 文章の内容や構成、展開を的確にとらえ、自然や人間社会への考え方を深めようとしている。 - 登場人物の境遇やそれぞれの人間関係を把握し、作品の魅力を読み味わっている。	- 行動の観察 - 記述の確認 - 提出物 - 小テスト - 定期考査
3 学期	小説・短歌	『山椒魚』井伏鱒二 短歌	○	◎	○	- 構成や表現効果に着目しながら、寓意的な表現に込められた主題を読みとることができる。 - 言葉には想像や心情を豊かにする働きがあることを理解し、作品の解釈や人間社会、自然に対する物の見方や考え方を深めようとしている。 - 韻文の表現効果について理解を深め、作品の魅力を読み味わおうとしている。	- 行動の観察 - 記述の確認 - 提出物 - 小テスト - 定期考査

2025 年度 相愛高等学校 2 年 普通科 専攻選択コース シラバス

教科	国語	科目	国語表現	単位数	2	選択等	必須
教科書	「国語表現」 (大修館書店)						
副教材等	「国語表現 基礎練習ノート」						

1 学習の到達目標

対象を客観的・多角的に観察できるようになる。観察した内容を分析し、論理的に伝達する能力を獲得する。情報収集力、また発信力を高めることを目的として、分析、精確な言語感覚を養う。コミュニケーション能力の向上を求め、筆録のみならずプレゼンテーションの多様性を実践する。

- ・多角的に物事を捉え、根拠を明確化し考察する能力を育成する。
- ・課題に即して意見を表現し、構成する力を養う。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

対象を的確に読み取る力を養うとともに、わかりやすく、説得力を持った文章を書けるようになりましょう。対象を多角的・多面的に把握し、そこに至るまでの自分の思考と結論を整理し、他者に正確に伝達できるようになってください。口頭発表や批評するためのコメントカード記入を求めることがあります。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	言葉の決まりや適切な言葉遣い、伝統的な言語文化に親しみ、漢字などについて理解し使ったりするとともに、文字をはじめとする記号に関心を持ち、効果的に文章を書いている	他者の考えや意見を傾聴し、目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価しながら読み、自己の意見を多角的に広げ構築する	国語で伝え表現する力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、他者の意見との差異を認め、言語活動を通して自己を向上させようとする
評 価 方 法	・学習状況 ・定期テスト ・発問への応答 ・ミニレポート	・学習状況 ・定期テスト ・発問への応答 ・ミニレポート	・学習状況 ・定期テスト ・発問への応答 ・ミニレポート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評価にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間		・言葉と表記 ・マイニュース記事を書こう	○	○ ○	○	言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、自身で表現できる。 目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを適切に読み取り表現することができる。	・学習状況 ・発問への応答 ・疑問の発露
1 学期 期末		・整った文を書く ・相手に応じた言葉遣い ・魅力的なポスターを作ろう	○ ○	○ ○ ○	○ ○	言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、自身で表現できる。 目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを適切に読み取り表現することができる。	・学習状況 ・発問への応答 ・疑問の発露
2 学期 中間		・わかりやすい文を書く ・文のつなぎ方 ・相手や場面に応じた会話	○ ○	○ ○ ○	○ ○	言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、自身で表現できる。 目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを適切に読み取り表現することができる。	・学習状況 ・発問への応答 ・疑問の発露
2 学期 期末		・建設的な議論の進め方 ・スピーチをしよう ・プレゼンテーションの工夫	○ ○	○ ○ ○	○ ○	情報を正確に集め自己の意見の根拠、説得力のある表現方法を考え、他者に伝え協働することができる。 自己の能力をきちんと分析し、対策を立て、計画的に勉強している。	・学習状況 ・発問への応答 ・疑問の発露
3 学期		・「わが町自慢」のパンフレット作り ・みんなで作ろう国語辞典	○	○ ○	○ ○	情報を正確に集め自己の意見の根拠、説得力のある表現方法を考え、他者に伝え協働することができる。 自己の能力をきちんと分析し、対策を立て、計画的に勉強している。	・学習状況 ・発問への応答 ・疑問の発露

2025 年度 相愛高等学校 2 年 普通科 専攻選択コース シラバス

教科	宗教	科目	宗教	単位数	1	選択等	必修
教科書	『見真』（本願寺出版社）						
副教材等	『日々の糧』 『聖典聖歌』						

1 学習の到達目標

仏教を開かれた釈尊の生涯、並びに仏教の基本的な教えを学び、自分自身を内観し、より充実した生き方の探究に繋げることを目標とする。授業の冒頭では「日々の糧」の言葉について考えを深めながら、他に対するおかげさまの心（感謝）や責任感を身につけ、心豊かな宗教的情操と主体的に生きる力を育む。

2 学年の宗教では、釈尊の生涯・仏教の誕生・教え・歴史的変遷を学ぶ。インドで興った仏教がどのような経緯でアジアに伝わり、日本に伝わったのかを学ぶ。また、仏教の諸宗派についてもふれる。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

仏教の基本は「縁起観」です。すべての事象は関係性によって、今、仮に成り立ち、それは刻々と変化し続けています。「私」もまたその事象の一つ。仏教のものの見方を学び、それを基に、皆さんが主体的に考え、物事に取り組んでいくことは自身の充実した人生に繋がります。今していることは未来に繋がっています。自分を信じて努力する心を養ってみてください。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	釈尊の生涯、教えを正しく理解し、教えがどのように伝わっていくのか、その背景を正しく理解できているか。また、知識として理解を深めるだけでなく、理解を深めて人間性を養うことに繋がっているか。	釈尊の教えがインドから日本に伝わる歴史的な背景について関心を持ち、主体的に取り組む姿勢がみられるか。	仏教の学びを通じ、生活や社会、人間関係をよりよく構築するために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。
評 価 方 法	定期考査	パフォーマンス課題 発問への対応 感想文等の取り組み	パフォーマンス課題 学習状況 発問への対応

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめる。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
一学期中間	釈尊とその教え	釈尊以前のインド 釈尊の生涯について	○	○		I：仏教を開かれた釈尊の生涯とその教えについて学びます。釈尊の出家の動機や修行の過程を訪ね、悟りを開き、伝道の旅を続けられてから涅槃に至るまでの足跡を求めながら釈尊の生き方を理解している。 II：釈尊の五相について、それぞれのターニングポイントでどのようなきっかけがあったのか知り、自分の問題としてとらえて表現しようとしている。 III：釈尊の生涯から生き方について学び、それを自分の問題として多面的・多角的に受け止め、積極的に取り組もうとしている。	学期末に行う年3回の試験。授業を受けるにあたっての平常点。ノート、発表、課題提出。板書事項、説明等、きちんとノートにまとめられたか。また、内容を理解し、自己のあり方を見つめ直せたか。
		・誕生	○	○			
		・出家	○	○			
		・成道	○	○			
		・伝道	○	○			
		・涅槃	○	○			
		2節 釈尊の教え					
		縁起	○	○			
		三法印	○	○			
		まとめ	○	○			
一学期期末		期末考査	○	○			
		※「日々の糧」・「聖典」のこ とば・時事問題を交えながら 学習する。			○		
二学期中間	釈尊とその教え・ 教えの流れ	四諦八正道	○	○		I：仏教がどのような形でまとめられ、インドからどのような形で中国に伝わったのかを理解している。 II：仏教の教えがどのような形で発展していったのかを時代背景とともに学び、公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。 III：仏教の伝播について学び、その背景を多面的・多角的に受け止め、積極的に問題意識をもって取り組もうとしている。	
		1 最初の寺院	○	○			
		1節 経典の編集	○	○			
		2節 大乘仏教への道	○	○			
		大乘仏教	○	○			
		北伝仏教	○	○			
		※「日々の糧」・「聖典」のこ とば・時事問題を交えながら 学習する。			○		
二学期期末	教えの流れ	3節 仏教の日本伝来				I：仏教が中国・朝鮮半島からどのような形で中国に伝わったのかを理解している。 II：仏教の教えがどのような形で発展していったのかを時代背景とともに学	
		聖徳太子と日本仏教	○	○			
		まとめ	○	○			
		期末考査	○	○			
		※「日々の糧」・「聖典」のこ			○		

		とば・時事問題を交えながら学習する。				び、公正に選択・判断したり，思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりしている。 Ⅲ：仏教の伝播について学び、その背景を多面的・多角的に受け止め、積極的に問題意識をもって取り組もうとしている。	
三学期	教 え の 流 れ	奈良時代の仏教 平安時代の仏教 (天台宗・真言宗) 鎌倉時代の仏教 (浄土教・禅宗・日蓮宗 など) ※「日々の糧」・「聖典」のことば・時事問題を交えながら学習する。 まとめ 学年末考査	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○	Ⅰ：日本における仏教の変遷について学びます。仏教がそれぞれの時代でどのように受け入れられたのかを理解している。 Ⅱ：仏教がそれぞれの時代に変化し、発展してきたのかを知り、興味をもって表現しようとしている。 Ⅲ：教えをつなぐということについて、自分の問題として多面的・多角的に受け止め、積極的に取り組もうとしている。	

2025 年度 相愛高等学校 2 年 音楽科 シラバス

教科	音楽専門	科目	合唱	単位数	2	選択等	必修
教科書	なし						
副教材等	楽譜プリント等。						

1 学習の到達目標

一緒に声を聴きあいながらハーモニーや音楽をすることで音楽的協調性を養う。演奏会本番での発表に向けて、生徒同士の意見交換をしながら曲を仕上げていくことで、演奏するだけでなく、練習課程の大切さを学ぶ。また、音楽の表現に必要な呼吸や歌詞の意味をどう表現に活かすのかを習得することで、技術や感性を養う。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

授業で取り扱う楽曲が皆の心に響くよう、また合唱の素晴らしさと楽しさを感じて貰えたらと願っています。表現の仕方や呼吸の使い方は合唱だけでなく、自身の専攻の演奏にも通じるところがたくさんあると思いますので、ぜひ学んで活かしてください。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	発声や発音など正しい身体の使い方ができる。また、音程・テンポ・リズム・強弱などの楽譜に書かれている要素を正確に読み取り、演奏に活かすことができる。 互いの声や響きをよく聴いて感じ、ハーモニーを作ることができる。	音楽の構造を分析し、フレーズや楽曲全体をどのように表現するか考えて演奏できる。歌詞の内容をふまえて、音楽表現を考察し、楽曲により相応しい歌唱を目指すことができる。声や伴奏の表現上の特徴をふまえて作品を解釈し、音楽を形づくっている要素を活かしながら演奏を追求するとともに、表現の多様性を学ぶことができる。	演奏発表の場を年に数回設け、その発表に向けて周りとの協力しながら積極的に作品に向き合う意欲がある。練習中においては、意見交換するなど互いの考えを尊重し、主体的・協働的に表現力を高め合おうと意欲的である。
評 価 方 法	・学習状況 ・実技試験	・学習状況 ・実技試験 ・発問への対応	・学習状況 ・発問への対応

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評

定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学 期	単 元 名	学習内容	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
前 期	ピ ー ス 大 阪 ・ 定 期 演 奏 会 合 唱 曲	「夢見たものは」 「ロマンチストの豚」 「ぜんぶ」	○	○	○	I：音楽の構造を分析し、フレーズや楽曲全体をどのように表現するか考えて演奏できる。発声や発音など正しい身体の使い方ができる。また、音程・テンポ・リズム・強弱などの楽譜に書かれている要素を正確に読み取り、演奏に活かすことができる。互いの声や響きをよく聴いて感じ、ハーモニーを作ることができる。 II：歌詞の内容をふまえて、音楽表現を考察し、声や伴奏の表現上の特徴をふまえて作品を解釈し、音楽を形づくっている要素を活かしながら表現できる。 III：演奏会での演奏曲では、発表に向けて周りと協力しながら積極的に作品に向き合おうという意欲がある。練習中においては、意見交換するなど互いの考えを尊重し、表現力を高め合おうと意欲的である。	実技試験 学習態度 練習状況 発問の反応
		・ピース大阪演奏曲 「いのちの歌」 ・定期演奏会 「ほらね、」 「相愛学園歌」	○	○	○		
後 期	乙 女 コ ン サ ー ト ・ 模 範 演 奏 曲 ・ ア カ ペ	・乙女コンサート	○	○	○	I：音楽の構造を分析し、フレーズや楽曲全体をどのように表現するか考えて演奏できる。発声や発音など正しい身体の使い方ができる。また、音程・テンポ・リズム・強弱などの楽譜に書かれている要素を正確に読み取り、演奏に活かすことができる。互いの声や響きをよく聴いて感じ、ハーモニーを作ることができる。 II：歌詞の内容をふまえて、音楽表現を	実技試験 学習態度 練習状況 発問の反応
		・コーラスコンクール 模範演奏曲 ・その他、アカペラなど を中心とした合唱曲	○	○	○		

					考察し、声や伴奏の表現上の特徴をふまえて作品を解釈し、音楽を形づくっている要素を活かしながら表現できる。 Ⅲ：コーラスコンクール模範演奏曲では、発表に向けて周りとは協力しながら積極的に作品に向き合おうという意欲がある。練習中においては、意見交換するなど互いの考えを尊重し、表現力を高め合おうと意欲的である。	
--	--	--	--	--	---	--

2025 年度 相愛高等学校 2 年 音楽科 シラバス

教科	音楽専門	科目	音楽理論	単位数	2	選択等	必修
教科書	和声 理論と実習Ⅰ（音楽之友社）						
副教材等	五線ノート						

1 学習の到達目標

和声法を学習する。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

毎時間、実習の時間が多く取られるので真剣に取り組むこと。 授業内にできなかった課題は必ず家で済ませ、できているかどうかのチェックを受けること。
--

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	Ⅰ：知識・技能（技術）	Ⅱ：思考・判断・表現	Ⅲ：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	音楽の基礎的な理論について理解するとともに、理解したことを楽譜によって表す技能を身に付ける。	音楽理論を表現や鑑賞の学習に活用する思考力、判断力、表現力を育成する。	和声法を学ぶことで音楽を理論的にとらえて、表現や鑑賞に活かそうとする態度を養う。
評 価 方 法	学習状況 発問への対応 定期考査	学習状況 発問への対応 定期考査	学習状況 発問への対応
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評価にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 Ⅰ：知識・技能 Ⅱ：思考・判断・表現 Ⅲ：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学 期	単 元 名	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ		

1 学 期 中 間	予 備 知 識 ・ 基 本 位 置	予備知識（楽典の知識の確認） 基本位置 3 和音の配置と連結 和音設定の原理	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	1 年時の楽典で培った和音の知識を確認する。 和声法の基本となる音域や配置について学び知識を得るとともに実践する。 基本位置 3 和音の配置と連結を学び、実践する。	学習態度 定期考査 発問の反応 課題
1 学 期 期 末	各 種 の 調	和音設定の確立 各種調による実践	○ ○	○ ○	○ ○	和音の設定方法を確立する。 まず、C dur で配置連結できることを確認し、さまざまな調でも実践する。	学習態度 定期考査 発問の反応 課題
2 学 期 中 間	第 一 転 回 位 置	3 和音の第一転回位置の配置と連結 各種調による実践	○ ○	○ ○	○ ○	基本位置の配置連結できることを確認しつつ、第一転回位置の和音を組み入れて課題を実践する。	学習態度 定期考査 発問の反応 課題
2 学 期 期 末	第 二 転 回 位 置	3 和音の第二転回位置の定型と連結 各種調による実践	○ ○	○ ○	○ ○	特殊な使い方をする第二転回位置の定型を理解する。 これまでの課題にこれを組み入れて実践する。	学習態度 定期考査 発問の反応 課題
3 学 期	属 七 の 和 音	属七の和音の配置と連結 各種調による実践	○ ○	○ ○	○ ○	属七の和音の特性を知り、使い方を理解する。まずは定型を覚え、これまでの課題に組み入れられるように実践する。	学習態度 定期考査 発問の反応 課題

2025 年度 相愛高等学校 2 年 音楽科 シラバス

教科	音楽専門	科目	音楽史	単位数	1	選択等	必修
教科書	音楽史を学ぶ 古代ギリシャから現代まで (教育芸術社)						
副教材等	担当作成課題プリント、CD、YouTube 等						

1 学習の到達目標

日本を含む諸外国の音楽の歴史について理解を深め、音楽の文化的価値を認識し、そのことにより広い視野で芸術をとらえる能力を養う。日頃の演奏活動と大いに関係のある作曲家や作品はもとより、そこに至るまでの先駆者的作曲家や音楽様式を振り返ることにより、自らの音楽的想像力を身に付ける。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

各時代がもつ特徴や様式を学習することで、日頃の鑑賞や演奏に大いにそれらを役立てて欲しい。また、諸外国に目を向け、それぞれの国民性の上に立つ音楽について理解を深め、民族音楽への関心も深めてほしいと考えています。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観 点	I : 知識・技能 (技術)	II : 思考・判断・表現	III : 主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	西洋音楽・日本音楽の歴史についての基本的な事柄に関する知識を生かして音楽の諸要素を感じ取り、作曲家と作品の価値を理解する能力を身に付けている。	音楽の発展の歴史を思考し、各時代における様式を正しく判断する力とそれらを言葉や文章で表現することができる。	西洋音楽・日本音楽の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求し、主体的に学習に取り組もうとする。
評 価 方 法	定期考査 課題プリント	プレゼン課題への取り組み ノート内の思考・判断・表現	発問への反応・発言 定期考査による主体性の深まりの確認
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I : 知識・技能 II : 思考・判断・表現 III : 主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	古代・中世・ルネサンスの音楽概説	・古代ギリシャ・中世・ルネサンス時代概説。 ・音楽史上の重要な事柄と語句。 例としてポリフォニー、モノフォニー、ミサやオラトリオ等	○ ○	○ ○	○ ○	I.古代から中世・ルネサンスに至る歴史において、ヨーロッパの芸術特に音楽と関連のある事柄を知り、具体的な内容を理解することが出来る。 II.各時代の様式についての必要な資料を収集した後、分析し、有用な情報を選択して読み取り、重要事項をまとめたり、文章として表現したりすることができる。 III.古代から中世・ルネサンスに至る音楽の歴史に対する関心と課題意識を高め、その中でも教会音楽（宗教音楽）とのつながりについて自らが主体的に学習に取り組もうとしている。	学習態度 定期考査 発問の反応 課題
1 学期 期末	バロック	・ヴィヴァルディの作品とその特徴 ・バッハとヘンデルの作品とその特徴	○ ○	○ ○	○ ○	I.バロック音楽の歴史的背景を知り、音楽の諸要素をとおしてヴィヴァルディ、バッハ、ヘンデルの作品の価値を理解することができる。 II.ヴィヴァルディ、バッハ、ヘンデルについての必要な資料を収集した後、分析し、有用な情報を選択して読み取り、重要事項をまとめたり、文章として表現したりすることができる。 III.バロック音楽の歴史に対する関心と課題意識を高め、ヴィヴァルディやバッハ、ヘンデルの業績について自らが主体的に学習に取り組もうとしている	学習態度 定期考査 発問の反応 課題
2 学期 中間	古典派	ウィーン古典派の音楽（ハイドン、モーツァルト）	○	○	○	古典派の音楽の歴史を意欲的に考察し、音楽への関心を高めようとしている。 事例の考察に必要な資料を収集し、有用な情報を選択して読み取り、重要事項をまとめている。 古典派の時代の歴史とその音楽様式とのつながりについて関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。	学習態度 定期考査 発問の反応 課題

2 学 期 末	古典派	・ソナタとソナタ形式 ・ソナタの楽器編成とその名称	○	○	○	I.古典派の代表的なソナタとソナタ形式を知り、それらの持つ諸要素をとおしてその音楽作品の価値を理解することができる。 II.古典派の代表的なソナタについての必要な資料を収集した後、分析し、有用な情報を選択して読み取り、重要事項をまとめたり、文章として表現したりすることができる。 III.多様なソナタ作品への関心と課題意識を高め、その構成と形式の重要性について自らが主体的に学習に取り組もうとしている。	学習態度 定期考査 発問の反応 課題
3 学 期	古典派	ベートーヴェンの生涯、作品とその特徴	○	○	○	ベートーヴェンの生涯を意欲的に考察し、その音楽への関心を高めようとしている。 事例の考察に必要な資料を収集し、有用な情報を選択して読み取り、重要事項をまとめている。 ベートーヴェンの作品とその特徴について知識を深め、作品内容を理解している。	学習態度 定期考査 発問の反応 課題

2025 年度 相愛高等学校 2 年 音楽科 シラバス

教科	音楽専門	科目	演奏研究	単位数	1	選択等	必修
教科書	なし						
副教材等	楽譜プリント等。						

1 学習の到達目標

・既製の曲を演奏するだけでなく、楽器・組み合わせなどに応じた曲のアレンジを行い、音楽に対する理解を深める。 ・本校独自の編曲によるオーケストラ演奏に取り組み、皆で合奏することを経験し勉強する。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

各グループに分かれて授業を行います。自分の専攻だけではなく、他専攻について学習し、共に曲の理解を深め、演奏表現を高めていってほしいと思います。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	楽曲に相応しい奏法で演奏することができ、正しい身体の使い方ができる。また、音程・テンポ・リズム・強弱などの楽譜に書かれている要素を正確に読み取り、忠実に演奏することができる。	音楽の構造を分析し、フレーズや楽曲全体をどのように表現するか考えて演奏できる。また、楽曲の文化的・歴史的背景や様式をふまえた総合的な演奏表現ができる。時代や地域、作曲家、声や楽器の表現上の特徴をふまえて作品を解釈し、音楽を形づくっている要素を活かしながら様式等に則した演奏を追求するとともに、解釈の多様性を学ぶことができる。	楽曲の文化的・歴史的背景や様式を考察し、作品における解釈を演奏に結びつけながら表現しようとする意欲的である。生徒同士のアンサンブルにおいては、積極的に意見交換するなど互いの考えを尊重し、主体的・協働的に表現力を高め合おうとする意欲的である。
評 価 方 法	・学習状況 ・実技試験	・学習状況 ・実技試験 ・発問への対応	・学習状況 ・発問への対応

上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
前期	合奏	合奏 J. シベリウス作曲 「フィンランディア」 定期演奏会曲目オーケストラ・合唱の練習。 各楽器パートの練習から取り組み、合奏に結びつける。	○	○	○	I：それぞれの楽曲に相応しい奏法で演奏することができ、正しい身体の使い方ができる。また、音程・テンポ・リズム・強弱などの楽譜に書かれている要素を正確に読み取り、忠実に演奏することができる。 II：音楽の構造を分析し、フレーズや楽曲全体をどのように表現するか考察できる。また、楽曲の文化的・歴史的背景や様式をふまえた総合的な演奏表現ができる。 III：生徒同士のパート練習においては、積極的に意見交換するなど互いの考えを尊重し、表現力を高め合おうと意欲的である。	実技試験 学習態度 練習状況 発問の反応
後期	室内楽	室内楽 グループごとに演奏表現を高める。楽曲背景も反映させながら、他者と合わせる力を身に付ける。 授業内で公開実技試験を行う。	○	○	○	I：それぞれの楽曲に相応しい奏法で演奏することができ、正しい身体の使い方ができる。また、音程・テンポ・リズム・強弱などの楽譜に書かれている要素を正確に読み取り、忠実に演奏することができる。 II：音楽の構造を分析し、フレーズや楽曲全体をどのように表現するか考察できる。また、楽曲の文化的・歴史的背景や様式をふまえた総合的な演奏表現ができる。 III：生徒同士のアンサンブルにおいては、積極的に意見交換するなど互いの考えを尊重し、表現力を高め合おうと意欲的である。	実技試験 学習態度 練習状況 発問の反応

2025 年度 相愛高等学校 2 年 音楽科 シラバス

教科	音楽専門	科目	ソルフェージュⅡ	単位数	1	選択等	必修
教科書	コールユーブンゲン（大阪開成館発行）						
副教材等	視唱ステップアップ（全音楽譜出版社）、新曲視唱用プリント						

1 学習の到達目標

・基礎的なソルフェージュ力の充実を図る。 ・音感やリズム感を養い、読譜力の向上につなげる。 ・正しい音程を身に付け、また音程を正しく聴き取る力を培う。 ・新曲視唱では素早く読譜し、正確に視唱できる力を養う。
--

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

個人のレベルに合わせたグループレッスンを行います。コールユーブンゲンや新曲視唱で歌唱力、正しい音感やリズム感を養ってください。それらは専攻実技も含め、全ての音楽専門教科に通じます。不得意な場合も諦めず、続けて努力していきましょう！きっと多くの知識と能力が身につくはずです。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	譜表に書かれた楽譜を見て、音楽を形づくっている要素を正しく読み取り、正確な音程やリズムで歌うことができる。また、旋律やフレーズのまとまりなど様々な情報を読み取り、歌唱に活かすことができる。	音高や音程、リズムなどを正しく把握し、旋律における音のまとまり、自然な抑揚といった豊かな表現をもって歌うことができる。	音高やリズムを正しく表現できるといった基本的なことに留まらず、音楽性豊かな表現の追求に活用しようと意欲的である。
評 価 方 法	・学習状況 ・実技試験	・学習状況 ・実技試験 ・発問への対応	・学習状況 ・発問への対応
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
前期	変種長調	コールユーブンゲン No.54～66 Ges dur, Des dur, As dur, Es dur, B dur, F dur 新曲視唱 F dur, d moll	○	○	○	I：各変種長調の和音や和声をよく感じながら、正確な音程やリズムで歌うことができる。また、変種長調の音感を取得し、それらを踏まえながら臨時記号にも対応し、正確に歌唱することができる。 II：旋律における音のもつ方向性やフレーズのまとまり、自然な抑揚などを表現できる。 III：音程やリズムを正しく歌うことができるといった基本的なことに留まらず、音楽性豊かな表現を目指そうと意欲的である。また、新曲視唱では F dur、d moll の調性を中心にさまざまな種類の曲を自発的に取り組める。	実技試験 学習態度 練習状況 発問の反応
後期	転調と短調	コールユーブンゲン No.67～77 c moll, g moll, d moll, a moll, e moll 新曲視唱 D dur, h moll B dur, g moll	○	○	○	I：各調の和音や和声をよく感じながら、正確な音程やリズムで歌うことができる。また、各調における音階や和声を踏まえながら臨時記号にも対応し、正確に歌唱することができる。 II：旋律における音のもつ方向性やフレーズのまとまり、自然な抑揚などを表現できる。 III：音程やリズムを正しく歌うことができるといった基本的なことに留まらず、音楽性豊かな表現を目指そうと意欲的である。また、新曲視唱では D dur、h moll、B dur、g moll の調性を中心にさまざまな種類の曲を自発的に取り組める。	実技試験 学習態度 練習状況 発問の反応

2025 年度 相愛高等学校 2 年 音楽科 シラバス

教科	音楽専門	科目	ソルフェージュ I	単位数	2	選択等	必修
教科書	なし						
副教材等	五線ノート						

1 学習の到達目標

基礎的なソルフェージュ力の充実に図る。音感、リズム感等を養い、読譜力の向上につなげる。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

個人のレベルに合わせたグループレッスンを行います。不得意な場合も諦めず、続けて努力してみてください。授業で書き取った旋律や和音は必ず、清書してピアノで弾き、歌ってみましょう。リズムや音感など定着します。聴音が出来るようになると、専攻実技の演奏も必ず伸びます。頑張ってください。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	音楽を聴いて音高、リズム、音程などを正しく把握し、音楽を形作っている要素の働き、効果などを理解する。 音楽を形作っている要素を正しく聴き取り、それを記譜することができる。	音楽を形づくっている要素の働きやその効果などを思考・判断している。	旋律やリズムなどを捉えて記譜することに留まらず、音楽性豊かな表現の追求に主体的・協働的に活用しようと意欲的である。
評 価 方 法	・学習状況 ・定期考査 ・発問への対応	・学習状況 ・定期考査 ・発問への対応	・学習状況 ・発問への対応
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学 期	単 元 名	学習内容	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		

前期	旋律聴音	高音部譜表 低音部譜表 (ト長調、ホ短調、 ヘ長調、ニ短調) 拍子 4分の4拍子 4分の3拍子 8分の6拍子	○ ○	○ ○	○ ○	I：音楽を聴いて音高、リズム、音程などを正しく把握し、音楽を形作っている要素の働き、効果などを理解する。 音楽を形づくっている要素を正しく聴き取り、それを記譜することができる。 II：音楽を形づくっている要素の働きやその効果などを思考・判断している。 III：旋律やリズムなどを捉えて記譜することに留まらず、音楽性豊かな表現の追求に主体的・協働的に活用しようと意欲的である。	・学習状況 ・定期考査 ・発問への対応
	複旋律・和音聴音	2声旋律聴音 大譜表 (ト長調、ホ短調、 ヘ長調、ニ短調) 拍子 4分の4拍子 4分の3拍子 8分の6拍子 4声体和音聴音 大譜表 (ハ長調) 密集配置・開離配置 拍子 2分の2拍子	○ ○	○ ○	○ ○		
後期	旋律聴音	高音部譜表 低音部譜表 (ニ長調、ロ短調、 変ロ長調、ト短調) 拍子 4分の4拍子 4分の3拍子 8分の6拍子	○ ○	○ ○	○ ○	I：音楽を聴いて音高、リズム、音程などを正しく把握し、音楽を形作っている要素の働き、効果などを理解する。 音楽を形づくっている要素を正しく聴き取り、それを記譜することができる。 II：音楽を形づくっている要素の働きやその効果などを思考・判断している。 III：旋律やリズムなどを捉えて記譜することに留まらず、音楽性豊かな表現の追求に主体的・協働的に活用しようと意欲的である。	・学習状況 ・定期考査 ・発問への対応
	複旋律・和音聴音	2声旋律聴音 大譜表 (ニ長調、ロ短調、 変ロ長調、ト短調) 拍子 4分の4拍子 4分の3拍子 8分の6拍子	○ ○	○ ○	○ ○		

		4 声体和音聴音 大譜表（ハ長調） 密集配置・開離配置 拍子 2 分の 2 拍子	○	○	○		
--	--	--	---	---	---	--	--

2025 年度 相愛高等学校 2 年 音楽科 シラバス

教科	外国語 (英語)	科目	英語 コミュニケーションⅡ	単位数	5	選択等	必修
教科書	Grove English Communication Ⅱ (文英堂)						
副教材等	Grove English Communication Ⅱ 授業ノート (文英堂) Grove English CommunicationⅡ ワークブック (文英堂) 英単語ターゲット 1400 (旺文社) Dual Scope English Grammar in 22 stages (数研出版) Dual Scope English 総合英語 (数研出版) オンライン英会話 Chatty						

1 学習の到達目標

英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深め、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことにおいて、使用される語句や文などにおいて、多くの支援を活用することによって、表現できる力を身に付ける。

2 担当者からのメッセージ (学習方法等)

英語に接する時間が長ければ長いほど、力がつきます。
 予習を必ずしましょう。
 家庭学習として、英語を声に出して、発音練習を繰り返しましょう。
 意味のわからない単語があったら、どんどん辞書で意味調べをしましょう。

3 学習評価 (評価基準と評価方法)

観 点	I : 知識・技能 (技術)	II : 思考・判断・表現	III : 主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	外国語の 4 技能 (話す、書く、読む) について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。外国語の働きや役割などを理解している。	場面・目的・状況に応じて、日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。聞いたり読んだりしたことなどを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現している。	他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを表現しようとしている。言語やその情景にある文化に対する関心を持って、自律的、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評 価 方 法	・ 学習状況 ・ 確認テスト ・ 定期考査	・ 学習状況 ・ 確認テスト ・ 定期考査	・ 学習状況 ・ 確認テスト ・ 発問への対応

法	・発問への対応	・発問への対応 ・オンライン英会話 ・ライティングのペーパー提出	・オンライン英会話
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評価にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学 期	単 元 名	学習内容	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学 期 中 間		Lesson1<Grove> 動名詞 分詞 <My Way> オンライン英会話	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○ ○	I：国や地域で特色がある朝食や食文化・食習慣に関連した内容の英文を理解し、表現力を養う。 II：Listening、dictation で内容が把握できているか。 III：課題について、またオンライン英会話で自分の考えを伝える。	学習態度 確認テスト 発問への反応 課題
1 学 期 期 末		Lesson2<Grove> Lesson3<Grove> 分詞 比較 <My Way> オンライン英会話	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	I：ストリートダンスとその上達のポイントに関連した内容の英文を理解し、表現力を養う。 II：Listening、dictation で内容が把握できているか。 III：課題について、またオンライン英会話で自分の考えを伝える。	学習態度 確認テスト 発問への反応 課題
2 学 期 中 間		Lesson4<Grove> 比較 関係詞 <My Way> オンライン英会話	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○	I：動物の役割や課題と取り組みに関連した内容の英文を理解し、表現力を養う。 II：Listening、dictation で内容が把握できているか。 III：課題について、またオンライン英会話で自分の考えを伝える。	学習態度 確認テスト 発問への反応 課題
2 学 期 期 末		Lesson5<Grove> Lesson6<Grove> 関係詞<My Way> オンライン英会話	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○ ○	I：紙の生産と環境への対応に関連した内容の英文を理解し、表現力を養う。 II：Listening、dictation で内容が把握できているか。 III：課題について、またオンライン英会話で自分の考えを伝える。	学習態度 確認テスト 発問への反応 課題

						話で自分の考えを伝える。	
3 学 期		Lesson7<Grove> 仮定法<My Way> オンライン英会話	○ ○	○ ○	○ ○ ○	I：社会的なつながりが人に与える影響とつながりを支援する取り組みに関連した内容の英文を理解し、表現力を養う。 II：Listening、dictation で内容が把握できているか。 III：課題について、またオンライン英会話で自分のえを伝える。	学習態度 確認テスト 発問への反応 課題

2025 年度 相愛高等学校 2 年 音楽科 シラバス

教科	保健体育	科目	保健	単位数	1	選択等	必修
教科書	現代高等保健体育（大修館書店）						
副教材等	なし						

1 学習の到達目標

心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

自分の生涯を安全に・健康に暮らすための科目です。興味を持って授業に取り組むと、将来の自分に対して必ず財産になります。健康や、運動・スポーツに対する考え方は、社会の変化の中で徐々に変わってきています。保健の授業の中で、私たちの健康に関わる大切な知識を積極的に得てください。そして、日々の生活に、さらには今後の人生においても、学んだことを役立ててほしいと思います。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	健康・安全の意義を理解するとともに、現代社会と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。	個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関する課題の解決を目指して、科学的に思考し、総合的に捉えることにより、適切な意思決定を行い、選択すべき行動を適切に判断している。	個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関心を持ち、自ら健康で安全な生活を実践するため、意欲的に学習に取り組もうとしている。
評 価 方 法	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への対応	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への対応	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への対応

上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学 期	単 元 名	学習内容	主に評価 する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学 期	生 涯 を 通 じ る 健 康	1.ライフステージと健康	○	○	○	I. ライフステージと健康の関連について理解している。 II. 人間の一生において節目となる出来事、出生、就学、卒業、就職、退職、結婚、出産、育児などのライフイベントで活用できる社会からの支援について、例をあげることができる。 III. 各ライフステージにおける健康課題とその支援について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	
		2.思春期と健康	○	○	○	I. 思春期における体の変化、思春期における心と健康課題について、基礎的な事項を理解している。 II. 思春期における体の変化、思春期における心と健康課題について、資料等で調べたことをもとに、課題を見つけたり、整理したりするなどして、それらを説明することができる。 III. 思春期における体の変化、思春期における心と健康課題について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	
		3.性意識と性行動の選択	○	○	○	I. 性意識の男女差、性に関する情報が性行動の選択に影響を及ぼすことについて、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。 II. 性意識の男女差、性に関する情報が性行動の選択に影響を及ぼすことについて学習したことを、個人および社会生	

					活や事例などと比較したり、分類したり、分析したりするなどして、筋道を立ててそれすることができる。 Ⅲ. 性意識の男女差、性に関する情報が性行動の選択に影響を及ぼすことについて、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。
	4.妊娠・出産と健康	○	○	○	Ⅰ. 受精・妊娠・出産の過程における健康課題、妊娠・出産期における生活上の注意や周囲の支援、出産期に活用できる母子保健サービスについて理解し、説明することができる。 Ⅱ. 妊娠・出産の過程における健康課題、妊娠・出産期に活用できる母子保健サービスについて学習したことを、個人および社会生活や事例などと比較したり、分類したり、分析したりするなどして、筋道を立ててそれらを説明することができる。 Ⅲ. 妊娠・出産の過程における健康課題、妊娠・出産期に活用できる母子保健サービスについて関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。
	5.避妊法と人工妊娠中絶	○	○	○	Ⅰ. 家族計画の意義、コンドームやピルを使用した適切な避妊法、人工妊娠中絶が女性の心身に及ぼす影響について、基礎的な事項を理解している。 Ⅱ. 家族計画の意義と適切な避妊法、人工妊娠中絶が女性の心身に及ぼす影響について学習したことを、個人および社会生活や事例などと比較したり、分類したり、分析したりするなどしている。また、筋道を立ててそれらを説明することができる。 Ⅲ. 家族計画の意義と適切な避妊法、人工妊娠中絶が女性の心身に及ぼす影響について、話し合いや意見交換などの学

						習活動に意欲的に取り組もうとしている。	
2 学 期	生 涯 を 通 じ る 健 康	6.結婚生活と健康	○	○	○	I. 心身の発達と結婚生活の関係、結婚生活を健康的に送るために必要な考え方や行動について、基礎的な事項を理解している。 II. 心身の発達と結婚生活の、結婚生活を健康的に送るために必要な考え方や行動について総合的に考え、判断し、それらを表すことができる。 III. 心身の発達と結婚生活の関係、結婚生活を健康的に送るために必要な考え方や行動について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	
		7.中高年期と健康	○	○	○	I. 加齢にともなう心身の変化、中高年期を健やかに過ごすための社会的な取り組みについて、基礎的な事項を理解している。 II. 加齢にともなう心身の変化、中高年期を健やかに過ごすための社会的な取り組みについて、資料等で調べたことをもとに課題を見つけたり、整理したりするなどして、それらを説明している。 III. 加齢にともなう心身の変化、中高年期を健やかに過ごすための社会的な取り組みについて、話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	
		8.働くことと健康	○	○	○	I. 働くことの意義と健康とのかかわりについて、基礎的な事項を理解している II. 働き方や働く人の健康問題の変化について、資料等で調べたことをもとに課題を見つけたり、整理をするなどして、それらを説明することができる。 III. 働くことの意義と健康とのかかわりについて、話し合いや意見交換などの学	

					習活動に意欲的に取り組もうとしている。	
		9.労働災害と健康	○	○	○	I. 労働災害の種類とその原因についての基礎的な事項を理解している。 II. 労働災害を防止するために必要なことを、資料等で調べたことをもとに、課題を見つけたり、整理をするなどして、それらを説明することができる。 III. 労働災害の種類とその原因、防止する為に必要なことを、話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。
		10.健康的な職業生活	○	○	○	I. 職場が行う健康に関する取り組みや、余暇を積極的に取ることの意義について理解している。 II. 職場が行う健康に関する取り組みに居ついて例を挙げて説明することができる。 III. 職場が行う健康に関する取り組みや、余暇を積極的に取ることの意義について、話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。
		1.大気汚染と健康	○	○	○	I. 大気汚染の原因とその健康影響、大気にかかわる地球規模の環境問題について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。 II. 大気汚染の原因とその健康影響、大気にかかわる地球規模の環境問題について、資料等で調べたことをもとに、課題を見つけたり、整理したりするなどして、それらを説明することができる。 III. 大気汚染の原因とその健康影響、大気にかかわる地球規模の環境問題について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。
		2.水質汚濁、土壌汚染	○	○	○	I. 水質汚濁の原因とその健康、土壌汚染

		と健康			の原因とその健康影響、大気汚染・水質汚濁・土壌汚染のかかわりについて、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。 Ⅱ.水質汚濁の原因とその健康影響、土壌汚染の原因とその健康影響、大気汚染・水質汚濁・土壌汚染のかかわりについて、資料等で調べたことをもとに、課題を見つけたり、整理したりするなどして、それらを説明することができる。 Ⅲ.水質汚濁の原因とその健康影響、土壌汚染の原因とその健康影響、大気汚染・水質汚濁・土壌汚染のかかわりについて、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。
		3.環境と健康にかかわる対策	○	○	○ Ⅰ.環境汚染の防ぐための取り組み、産業廃棄物の処理と健康問題について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。 Ⅱ.環境汚染の防ぐための取り組み、産業廃棄物の処理と健康問題について、学習したことを個人及び社会生活や事例などと比較したり、分類したり、分析したりするなどして、筋道を立ててそれらを説明することができる。 Ⅲ.環境汚染の防ぐための取り組み、産業廃棄物の処理と健康問題について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。
		4.ごみの処理と上下水道の整備	○	○	○ Ⅰ.ごみの処理の現状やその課題について基礎的な事項を理解している Ⅱ.上下水道の仕組みと課題に関わる課題を具体的な例をあげるなどして、説明することができる。 Ⅲ.ごみ処理の現状や上下水道の仕組みを理解し、課題解決にむけての話し合い

		5.食品の安全性	○	○	○	や意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 I.食品の安全性と健康とのかかわりについて、基礎的な事項を理解している II.食品の安全性と健康との関わりについて、資料等で調べたことをもとに課題を見つけたり、整理するなどして、それらを説明することができる。 III.食品の安全性と健康との関わりについて理解し、課題解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	
		6.食品衛生にかかわる活動	○	○	○	I.食品の安全性、食品の安全にかかわる行政の役割、製造・加工者による HACCP などの衛生管理について、基礎的な事項を理解している。 II.食品の安全性、行政、生産・製造者による衛生管理について、学習したことを社会生活事例などと比較したり、分類したり、分析したりするなどして、筋道を立ててそれらを説明することができる。 III.食品の安全性、行政、生産・製造者による衛生管理について、話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	
3 学 期	健 康 を 支 え る 環 境 づ く り	7. 保健サービスとその活用	○	○	○	I. 地域の保健所・保健センターなどの保健行政の役割、保健サービスや保健情報の活用について、基礎的な事項を理解している。 II. 保健行政の役割、保健サービスや保健情報の活用について、資料等で調べたことをもとに、課題を見つけたり、整理したりするなどして、それらを説明することができる。 III. 保健行政の役割、保健サービスや保健情報の活用について、資料を探したり、見たり、読んだりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	

		8. 医療サービスとその活用	○	○	○	I. 医療制度と医療保険のしくみ、医療機関の役割と医療サービスの活用について、基礎的な事項を理解している。 II. 医療制度と医療保険のしくみ、医療機関の役割と医療サービスの活用について、知識を活用した学習活動などにより、総合的に考え、判断し、それらを表すことができる。 III. 医療制度と医療保険のしくみ、医療機関の役割と医療サービスの活用について、資料を探したり、見たり、読んだりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	
		9. 医薬品の制度とその活用	○	○	○	I. 医薬品の種類と正しい使用法、医薬品の副作用と対策、医薬品の安全性を守る取り組みについて、基礎的な事項を理解している。 II. 医薬品の種類と正しい使用法、医薬品の安全性を守る取り組みについて、知識を活用した学習活動などにより、総合的に考え、判断し、それらを表すことができる。 III. 医薬品の種類と正しい使用法、医薬品の安全性を守る取り組みについて、資料を探したり、見たり、読んだりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	
		10. さまざまな保健活動や社会的対策	○	○	○	I. 健康づくりのためのさまざまな活動、民間機関や国際機関などの保健活動について、基礎的な事項を理解している。 II. 健康づくりのためのさまざまな活動、民間機関や国際機関などの保健活動について総合的に考え、判断し、それらを表すことができる。 III. 健康づくりのためのさまざまな活動、民間機関や国際機関などの保健活動	

		11. 健康に関する環境 づくりと社会参加	○	○	○	について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 I. 健康の保持増進のための環境作りについて、課題解決に役立つ基礎的な事項を理解している。 II. 環境づくりへの主体的な参加が自他の健康づくりに繋がることについて、学習したことを個人及び社会生活や事例などと比較したり、分類したり、分析したりするなどして、筋道を立てて説明することができる。 III. 健康の保持増進のための環境づくりや、環境づくりへの主体的な参加が自他の健康づくりに繋がることをについて、課題解決に向けての話し合いや、意見交換などの学習活動に意欲的に取り組むことができる。	
--	--	--------------------------	---	---	---	--	--

2025 年度 相愛高等学校 2 年 音楽科 シラバス

教科	体育	科目	体育	単位数	2	選択等	必修
教科書	アクティブスポーツ（大修館）						
副教材等							

1 学習の到達目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。

(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。

(3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

「体育」の授業を通して、体力、運動能力の向上はもちろん、礼儀や協調性、仲間との助け合いの精神も学んでもらいたいと考えています。実際に自分が動いていない場面でも学べることはたくさんあります。そういった小さな「気づき」を大切に授業に臨んでほしいと思います。現代社会で健康を保持増進していくには、運動は必要不可欠です。苦手な分野だと感じている人もいますが様々な事に積極的にチャレンジし、良い汗を流してほしいと思います。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な知識や生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するための科学的知識及び運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。 また、個人及び社会生活における健康・安全について、課	自己や仲間の課題に応じた運動の取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の計画を工夫し、それらを表現している。 また、個人及び社会生活における健康課題を発見し、その解決を目指して、総合的に考え、判断し、それらを表現している。	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとしている。 また、健康を優先し、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりに関する学習活動に主体的に取り組もうとしている

	題解決に役立つ知識や技能を身に付けている。		
評価方法	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への対応	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への対応	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への対応
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評価にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間							
1 学期 期末		・集団行動 ・体づくり運動 ・ラジオ体操 ・縄跳び ・筋力トレーニング ・サッカー	○	○	○	「知・技」・多様な体ほぐしの運動を考えることができる。・自分の心とからだの一体感、また仲間との一体感を感じるまで、運動の内容を深めることができる。 「思・判・表」 ・手軽な運動、律動的な運動など、運動の内容や方法を自分で考え、工夫し、実践することができる。・自己や仲間の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けた取り組みを工夫し、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 「主」 ・「体ほぐし」の意義を理解し、からだを動かす楽しさや心地よさを探求しよう	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への対応

						とすることができる。	
2 学 期 中 間							
2 学 期 期 末		・ 集団行動 ・ ラジオ体操 ・ 筋力トレーニング ・ ハンドボール ・ ダンス	○	○	○	「知・技」 ・ 多様な体ほぐしの運動を考えることができる。 ・ 自分の心とからだの一体感、また仲間との一体感を感じるまで、運動の内容を深めることができる。 ・ パス・ドリブル・シュート・ゴールキーピングなどの基礎的な技能を身につけ、オフェンス・ディフェンス・ゴールキーパーとの連携など、ゲーム中の具体的な攻防の場面を想定し、互いに協力して、有効な動きを身につけることができる。 ・ 現代的なリズムダンス、創作ダンス、フォークダンスなど様々なジャンルのダンスに触れ、表現運動について学び、自己の思想や感情を自由に身体で表現したり仲間と共に作り上げることを学ぶ。 「思・判・表」 ・ 手軽な運動、律動的な運動など、運動の内容や方法を自分で考え、工夫し、実践することができる。 ・ 自己や仲間の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けた取り組みを工夫し、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 ・ 攻防などの自己や仲間の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けた取り組みを工夫し、自己の考えたことを他者に伝えることができる。 「主」 ・ ダンスにおいて「身体を使って表現すること」の意義を理解し、からだを動か	・ 学習状況 ・ 確認テスト ・ レポート ・ 発問への対応

						す楽しさや心地よさを探求しようとする ことができる。 ・ハンドボールに自主的に取り組むと ともに、フェアなプレーを大切にしよう とすること、作戦などについての話し 合いに貢献しようとする、一人一人の 違いに応じたプレーなどを大切にしよう とすること、互いに助け合い教えあおう とすることなどや、健康・安全を確保 する。	
3 学 期		・ 集団行動 ・ ラジオ体操 ・ サッカー ・ ダンス ・ 筋力トレーニング	○	○	○	「知・技」 ・ ゲームのルールを確実に理解し、具 体的な場面において、それをふまえた 行動ができる。 ・ドリブル・パス・シュ ートなど個人的技能の基本を着実に身 につけ、集団的技能のなかで正しく適 用することができる。 「思・判・表」 ・ 自己や仲間の課題を発見し、合理的 ・ 計画的な解決に向けた取り組みを工 夫し、自己や仲間の考えたことを他者 に伝えることができる。 ・ 攻防などの自己や仲間の課題を発 見し、合理的・計画的な解決に向けた 取り組みを工夫し、自己の考えたこと を他者に伝えることができる 「主」 ・ ダンスにおいて「身体を使って表現 すること」の意義を理解し、からだを 動かす楽しさや心地よさを探求しよ うとすることができる。 ・ サッカーに自主的に取り組むととも に、フェアなプレーを大切にしよう とすること、作戦などについての話し 合いに貢献しようとする、一人一人の 違いに応じたプレーなどを大切にしよう とすること、互いに助け合い教えあ おうとすることなどや、健康・安全を 確保する	・ 学習状況 ・ 確認テスト ・ レポート ・ 発問への対応

2025 年度 相愛高等学校 2 年 音楽科 シラバス

教科	理科	科目	科学と人間生活	単位数	2	選択等	必修
教科書	「科学と人間生活」 (第一学習社)						
副教材等	「ネオパルノート 科学と人間生活」 (第一学習社)						

1 学習の到達目標

・自然と人間生活とのかかわり、および科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察・実験などを通して理解させ、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。 ・科学技術の発展が、今日の人間生活に対してどのように貢献してきたかについて理解させる。 ・身近な自然の事物・現象および日常生活や社会の中で利用されている科学技術を取り上げ、科学と人間生活とのかかわりについて認識を深めさせる。 ・自然と人間生活とのかかわり、および科学技術が人間生活に果たしてきた役割についての学習を踏まえて、これからの科学と人間生活とのかかわり方について考察させる。
--

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

身近な携帯電話や GPS などに使われる電磁波、ペットボトルなどの素材、太陽や月などの天体、地震や台風などによる災害などを学びます。生活していくうえで必要なことや命に関わることも勉強します。楽しく、真剣に勉強しましょう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	科学技術の発展の人間生活への貢献、身近な事物・現象を通しての現代の人間生活と科学技術の関連性についての知識を身につけ、これからの科学技術と人間生活のあり方について理解する。 また、身近な事物・現象に関する観察、実験の技能を習得するとともに、それらを科学的に探究する方法を身につける。	身近な事物・現象の中に問題を見出し、観察、実験、調査などを行って得た結果について、科学的に思考し、判断する。 そこから導き出した自らの考えを的確に表現する。	身近な事物・現象に関心や探究心をもち、科学的な視点・考察力を養うとともに、科学技術に対する関心を高める態度を身につける。

評価方法	・定期考査 ・課題 ・観察や実験活動	・定期考査 ・授業中の発言 ・ノートやレポートなどの記述	・授業中の発言や態度 ・ノートやレポートなどの内容 ・振り返りシートの内容
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評価にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1学期中間	物質の科学	第1節 材料とその利用	○	○	○	(1) わたしたちの身のまわりにあるプラスチックの特徴と、プラスチックの原料について、概ね理解している。 (2) プラスチックやその原料となる物質は、おもに炭素原子と水素原子からなる有機物であることの知識を身につけている。 (3) プラスチックの性質と用途について、実験・観察などを通して科学的に思考できる。 (4) 熱に対する性質を調べることによって、プラスチックを熱可塑性樹脂と熱硬化性樹脂に分類することができる。	定期考査 課題 発表 授業態度
1学期期末	物質の科学		○	○	○	(1) 金属の利用の歴史から、金属結合とそれにもとづく金属の性質について認識している。 (2) 鉄について、その性質や製錬方法、利用法などについて理解している。 (3) アルミニウムと銅について、その性質や製錬方法、利用法などを、実験・観察を通して科学的に理解している。 (4) 資源の再利用方法に関心を抱き、特にプラスチックがどのように再利用されているかを理解している。 (5) 金属とガラスの再利用を学び、再利	定期考査 課題 発表 授業態度

					用の必要性について科学的に認識する態度を身につけている。	
2 学 期 中 間	熱 や 光 の 科 学	第 1 節 熱の性質とそ の利用	○	○	(1) セルシウス温度や絶対温度について理解し、熱運動についての知識を身につけている。 (2) 熱平衡の現象と、物体の熱容量と比熱について、実験を通して科学的に理解している。 (3) 熱伝導、対流、熱放射などのしくみについて、実験などを通して理解している。また、水の状態変化と潜熱の概念について知識を習得している。 (4) 仕事とエネルギーと関係、ジュール熱と電力の関係について、物理式を用いながら理解している。 (5) さまざまなエネルギーの形態やエネルギー保存の法則について、関心をもって学習している。 (6) 可逆変化と不可逆変化について理解し、熱機関、永久機関の学習を通して、熱はすべて仕事に変えられないことを科学的に理解している。	
2 学 期 期 末	地 球 や 宇 宙 の 科 学	第 1 節 自然景観と自然災害	○	○	(1) 身のまわりにある景観に関心をもち、日本列島の特徴とその成因、日本列島付近のプレートの動きについて科学的に理解している。 (2) 日本列島の火山に興味を抱き、火山の噴火によって噴き出す噴出物、火山の噴火がおこる原因、火山の形とマグマの関連性、および日本の火山活動について、論理的に思考できる。 (3) 火山の災害と防災について意欲的に学習する態度を示し、火山の噴火によって直接および間接される被害や二次災害、火山噴火の予知と防災について、科学的・論理的に理解し、的確に表現できる。 (4) 日本の地震に関心をもち、地震の発生のしくみや、日本列島の地震活動とプレートとの関連性について、科学的に理	定期考査 課題 発表 授業態度

						解している。	
3 学 期	地 球 や 宇 宙 の 科 学	第2節 太陽と地球	○	○	○	(1) 私たちのすむ地球に関心を持ち、地球型惑星と木星型惑星の違い、太陽系外縁天体、小惑星、彗星の特徴について、理解している。 (2) 太陽放射と地球放射、地球のエネルギー収支、温室効果について科学的に思考でき、実験結果を通して地球放射のしくみを的確に表現できる。 (3) 大気の循環と気候変動の現象の理解を通して、人間生活に恩恵をもたらす太陽について、科学的に理解している。 (4) 夜空の星々に関心を持ち、星や太陽を観測するときの天球の概念や、太陽やその他の天体の日周運動について、科学的に理解している。 (5) 星座や月の動きに興味を抱き、太陽の年周運動や、月の動きと形の変化について、科学的に理解している。 (6) 潮汐について関心を持ち、潮汐がどのようにしておこるかを科学的に概ね理解している。	定期考査 課題 発表 授業態度

2025 年度 相愛高等学校 2 年 音楽科 シラバス

教科	国語	科目	論理国語	単位数	2	選択等	必須
教科書	「論理国語」 (大修館書店)						
副教材等	「ジャンプアップ高校漢字問題集 改訂版」(東京書籍)						

1 学習の到達目標

様々なテーマの表論文、随筆を読む能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって人生を豊かにする態度を育てる。

また、国語を適切に表現でき、的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばしていく。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

様々な文章を通して、自らの物事に対する捉え方の幅を広げ、思考を深められるようにしましょう。学び得た知識を読解力に活かすと同時に、コミュニケーション能力にも活かすことができるようにしましょう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	論理の展開を工夫して説得力のある文章を書くことができ、言葉の決まりや適切な言葉遣い、漢字などについて理解し使ったりするとともに、現代思想に関心を持ち、効果的に自己の考えを表現する	他者の考えや意見を傾聴し、目的や場面に応じ、相手の様子に合わせて話したり、表現の工夫を評価して聞いたり、課題の解決に向けて話し合ったりしている。	国語で伝え表現する力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、他者の意見との差異を認め、言語活動を通して自己を向上させようとする
評 価 方 法	・学習状況 ・定期テスト ・発問への応答 ・ミニレポート	・学習状況 ・定期テスト ・発問への応答 ・ミニレポート	・学習状況 ・発問への応答 ・ミニレポート
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間		・対話の精神 ・余白の美学	○	○ ○	○	文章の種類を踏まえて、内容や構成，論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしなが ら要旨を把握している。 目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを適切に読み取り表現することができる。	・学習状況 ・発問への 応答 ・疑問の発 露
1 学期 期末		・コミュニティから見た日本 ・科学は生きている	○	○ ○	○	論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを適切に読み取り表現することができる。	・学習状況 ・発問への 応答 ・疑問の発 露
2 学期 中間		・人工知能の可能性と畏 ・「方言コスプレ」現象	○ ○	○ ○	○ ○	言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、自身で表現できる。 主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。	・学習状況 ・発問への 応答 ・疑問の発 露
2 学期 期末		・スキーマと記憶 ・分かち合う社会	○ ○	○ ○	○ ○	論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。	・学習状況 ・発問への 応答 ・疑問の発 露
3 学期		・世界は、いま ・グローバルゼーションと文化	○	○ ○	○ ○	文章の種類を踏まえて、内容や構成，論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしなが ら要旨を把握している。 自己の能力をきちんと分析し、対策を立て、計画的に勉強している。	・学習状況 ・発問への 応答 ・疑問の発 露

2025 年度 相愛高等学校 2 年 音楽科 シラバス

教科	国語	科目	文学国語	単位数	2	選択等	必修
教科書	『文学国語』（大修館書店）						
副教材等	『重点整理 新・国文学史ノート』（日栄社） 『評解 新小倉百人一首』（京都書房） 『改訂版 常用国語便覧』（浜島書店）						

1 学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」を軸に、アクティブな学習態度を涵養したい。実社会の中から適切な話題をつかむこと、自らの考えを明確にすること、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫することも能力として養いつつ、言語活動の質を向上させてほしいと思っています。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	伝統的な言語文化に親しんだり、言葉の特徴や決まり、漢字などについて理解し使ったりする。目的や場面、意図に応じ、文章の形態を選択し、論理の展開に工夫して、説得力のある文章を書いている。	目的や場所に応じ相手に合わせて話したり、目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価したりしながら読み、人間社会自然などについて自分の考えを持っている。	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、読書を通して自己を向上させようとする。
評 価 方 法	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について◎をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	随想・評論	『十八歳の選択』朝井リョウ 『浄瑠璃寺の春』堀辰雄	○	◎	○	- 筆者の経験に基づいた考えを読み取る。内容や構成、展開などを的確にとらえている。 - 想像や共感を通して、自身の生き方について考えを深めている。 - 文中の自然と人間の関係に興味を持ち、描写や表現を味わっている。	- 行動の観察 - 記述の確認 - 提出物 - 定期考査
1 学期 期末	小説・詩	『山月記』中島敦（翻訳が広げる世界） 『小景異情』室生犀星	○	◎	○	- 主人公の境遇を把握し、心情を想像する。文学的な文章の特徴を理解している。 - 翻訳作品と元の作品との比較を通して作者の意図を理解している。 - 詩の形式やリズムを味わい、表現効果を理解している。	- 行動の観察 - 記述の確認 - 提出物 - 小テスト - 定期考査
2 学期 中間	俳句・小説	俳句 『こころ』夏目漱石	○	◎	○	- 俳句の形式やリズムを味わい、表現効果について理解している。 - 情景の豊かさや心情の機微を表す語句を理解している。 - 登場人物の心情理解を通し、自己の生き方や他者との関わりについて考えを深めている。	- 行動の観察 - 記述の確認 - 提出物 - 小テスト - 定期考査
2 学期 期末	小説	『こころ』夏目漱石	○	◎	○	- 文学的な文章を通して、言語文化の特質について理解を深め、語感を磨き、語彙を増やそうとしている。 - 文章の内容や構成、展開を的確にとらえ、自然や人間社会への考え方を深めようとしている。 - 登場人物の境遇やそれぞれの人間関係を把握し、作品の魅力を読み味わっている。	- 行動の観察 - 記述の確認 - 提出物 - 小テスト - 定期考査
3 学期	小説・短歌	『山椒魚』井伏鱒二 短歌	○	◎	○	- 構成や表現効果に着目しながら、寓意的な表現に込められた主題を読みとることができる。 - 言葉には想像や心情を豊かにする働きがあることを理解し、作品の解釈や人間社会、自然に対する物の見方や考え方を深めようとしている。 - 韻文の表現効果について理解を深め、作品の魅力を読み味わおうとしている。	- 行動の観察 - 記述の確認 - 提出物 - 小テスト - 定期考査

2025 年度 相愛高等学校 2 年 音楽科 古典探究 シラバス

教科	国語	科目	古典探究	単位数	2	選択等	必修
教科書	『古典探究』（大修館書店）						
副教材等	『解釈のための必携古典文法 三訂版』（啓隆社）、『改訂版 常用国語便覧』（浜島書店） 『重点整理 新・国文学史ノート』（日栄社）、『古文単語 300』（旺文社） 『評解 新小倉百人一首』（京都書房） 〈以上高校 1 年より継続して利用〉						

1 学習の到達目標

古文や漢文を主体的に読み深めることを通して、日本の伝統的な言語文化への理解や関心を深めることを目的とする。

(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。

(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

古典を「読むこと」を軸に、単に現代語訳に改めることをゴールにするのではなく、古典の解釈をするために積極的に文化理解を深め、時にクリティカルな読みを含め、積極的な学習態度を涵養したい。話の構成や展開に工夫があることに気づき、自らの言語活動の質をも向上させてほしいと思っています。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	伝統的な言語文化に親しみ、言語の特徴や決まりなどについて理解する。本文の目的や場面、意図に応じ、論理の展開に目を見張り、説得力のある文章を書いている。	目的や場所に応じ、相手に合わせて話したり、目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価したりしながら読み、文化などについて自分の考えを持っている。	国語で理解する能力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、読書を通して自己を向上させようとする。
評 価 方 法	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露	・学習状況 ・確認テスト ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露	・学習状況 ・レポート ・発問への応答 ・疑問の発露
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について◎をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	説話	『宇治拾遺物語』 「検非違使忠明」 『十訓抄』 「大江山いくのの道」	◎	○	○	古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。 作品の成立時代や背景を理解し、文章に描れている人物の心情を表現に即して読み、異なる立場から読み深めている。	・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査
1 学期 期末	随筆・歌物語	随筆 歌物語 『方丈記』 「行く川の流れ」 『伊勢物語』 「月やあらぬ」	○	◎	○	物事の様子や場面などを、読み手が言葉をしてありありと想像できるよう描いている。 書くことに必要な、文の組み立てについて理解している。	・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査
2 学期 中間	漢文・日記文学	『史記』 「項王の最期」 『土佐日記』 「門出」	○	◎	○	文章に描かれている情景を、文や文章、語などから離れないようにして読み、人物の言動や状況を捉える手掛かりとしている。 漢文を読むことに役立つ、訓読のきまりを身に付けている。 古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。	・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査
2 学期 期末	物語・随筆	『源氏物語』 「若紫」 『枕草子』 「中納言参りたまひて」	◎	○	○	我が国の言語文化は、中国をはじめとする外国の文化の受容とその変容を繰り返しつつ築かれてきたに気付いている。 古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。 文章の組立てや骨組みを的確に捉えている。 人物、情景、心情などを、どうして書き手がこのように描いているのかを捉え、象徴、予兆などが果たしている効果に気付いている。 文章の形態や文体の違いによる特色について理解している。	・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査

3 学 期	歴 史 物 語 ・ 歌 論	『大鏡』 「競べ弓」 『無名抄』 「おもて歌」	○	◎	○	人物、情景、心情などを、どのように書き手が描いているのかを捉え、言葉の美しさや深さに気付いている。 文章の形態や文体の違いによる特色について、理解している。 古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。 日本文化に組み込まれた幽玄の端緒を知り、輻輳する意味構造や古歌を引くことについて理解できている	・行動の観察 ・記述の確認 ・提出物 ・小テスト ・定期考査
-------------	---------------------------------	--------------------------------------	---	---	---	--	--

2025 年度 相愛高等学校 2 年 音楽科 シラバス

教科	宗教	科目	宗教	単位数	1	選択等	必修
教科書	『見真』（本願寺出版社）						
副教材等	『日々の糧』 『聖典聖歌』						

1 学習の到達目標

仏教を開かれた釈尊の生涯、並びに仏教の基本的な教えを学び、自分自身を内観し、より充実した生き方の探究に繋げることを目標とする。授業の冒頭では「日々の糧」の言葉について考えを深めながら、他に対するおかげさまの心（感謝）や責任感を身につけ、心豊かな宗教的情操と主体的に生きる力を育む。

2 学年の宗教では、釈尊の生涯・仏教の誕生・教え・歴史的変遷を学ぶ。インドで興った仏教がどのような経緯でアジアに伝わり、日本に伝わったのかを学ぶ。また、仏教の諸宗派についてもふれる。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

仏教の基本は「縁起観」です。すべての事象は関係性によって、今、仮に成り立ち、それは刻々と変化し続けています。「私」もまたその事象の一つ。仏教のものの見方を学び、それを基に、皆さんが主体的に考え、物事に取り組んでいくことは自身の充実した人生に繋がります。今していることは未来に繋がっています。自分を信じて努力する心を養ってみてください。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	釈尊の生涯、教えを正しく理解し、教えがどのように伝わっていくのか、その背景を正しく理解できているか。また、知識として理解を深めるだけでなく、理解を深めて人間性を養うことに繋がっているか。	釈尊の教えがインドから日本に伝わる歴史的な背景について関心を持ち、主体的に取り組む姿勢がみられるか。	仏教の学びを通じ、生活や社会、人間関係をよりよく構築するために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。
評 価 方 法	定期考査	パフォーマンス課題 発問への対応 感想文等の取り組み	パフォーマンス課題 学習状況 発問への対応

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめる。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
一学期中間	釈尊とその教え	釈尊以前のインド 釈尊の生涯について	○	○		I：仏教を開かれた釈尊の生涯とその教えについて学びます。釈尊の出家の動機や修行の過程を訪ね、悟りを開き、伝道の旅を続けられてから涅槃に至るまでの足跡を求めながら釈尊の生き方を理解している。 II：釈尊の五相について、それぞれのターニングポイントでどのようなきっかけがあったのか知り、自分の問題としてとらえて表現しようとしている。 III：釈尊の生涯から生き方について学び、それを自分の問題として多面的・多角的に受け止め、積極的に取り組もうとしている。	学期末に行う年3回の試験。授業を受けるにあたっての平常点。ノート、発表、課題提出。板書事項、説明等、きちんとノートにまとめられたか。また、内容を理解し、自己のあり方を見つめ直せたか。
		・誕生	○	○			
		・出家	○	○			
		・成道	○	○			
		・伝道	○	○			
		・涅槃	○	○			
		2節 釈尊の教え					
		縁起	○	○			
		三法印	○	○			
		まとめ	○	○			
一学期期末		期末考査	○	○			
		※「日々の糧」・「聖典」のこ とば・時事問題を交えながら 学習する。			○		
二学期中間	釈尊とその教え・ 教えの流れ	四諦八正道	○	○		I：仏教がどのような形でまとめられ、インドからどのような形で中国に伝わったのかを理解している。 II：仏教の教えがどのような形で発展していったのかを時代背景とともに学び、公正に選択・判断したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりしている。 III：仏教の伝播について学び、その背景を多面的・多角的に受け止め、積極的に問題意識をもって取り組もうとしている。	
		1 最初の寺院	○	○			
		1節 経典の編集	○	○			
		2節 大乘仏教への道	○	○			
		大乘仏教	○	○			
		北伝仏教	○	○			
		※「日々の糧」・「聖典」のこ とば・時事問題を交えながら 学習する。			○		
二学期期末	教えの流れ	3節 仏教の日本伝来				I：仏教が中国・朝鮮半島からどのような形で中国に伝わったのかを理解している。 II：仏教の教えがどのような形で発展していったのかを時代背景とともに学	
		聖徳太子と日本仏教	○	○			
		まとめ	○	○			
		期末考査	○	○			
		※「日々の糧」・「聖典」のこ			○		

		とば・時事問題を交えながら学習する。				び、公正に選択・判断したり，思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりしている。 Ⅲ：仏教の伝播について学び、その背景を多面的・多角的に受け止め、積極的に問題意識をもって取り組もうとしている。	
三学期	教 え の 流 れ	奈良時代の仏教 平安時代の仏教 (天台宗・真言宗) 鎌倉時代の仏教 (浄土教・禅宗・日蓮宗 など) ※「日々の糧」・「聖典」のことば・時事問題を交えながら学習する。 まとめ 学年末考査	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○	Ⅰ：日本における仏教の変遷について学びます。仏教がそれぞれの時代でどのように受け入れられたのかを理解している。 Ⅱ：仏教がそれぞれの時代に変化し、発展してきたのかを知り、興味をもって表現しようとしている。 Ⅲ：教えをつなぐということについて、自分の問題として多面的・多角的に受け止め、積極的に取り組もうとしている。	

2025 年度 相愛高等学校 2 年 普通科特進コース シラバス

教科	国語	科目	論理国語	単位数	3	選択等	必須
教科書	「論理国語」 (大修館書店)						
副教材等	「ジャンプアップ高校漢字問題集 改訂版」(東京書籍)						

1 学習の到達目標

さまざまなテーマの評論文、随筆を読む能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、自ら進んで読書することによって人生を豊かにする態度を育てる。

また、国語を適切に表現し、的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばしていく。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

さまざまな文章を通して、物事に対する捉え方・興味関心の対象を広げ、思考を深められるようにしましょう。学習を通して学び得た知識を読解力に活かし、自分自身の言葉による表現力、コミュニケーション能力にも活かすことができるようにしましょう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	論理の展開を工夫して説得力のある文章を書くことができ、言葉の決まりや適切な言葉遣い、漢字などについて理解し使ったりするとともに、現代思想に関心を持ち、効果的に自己の考えを表現する	他者の考えや意見を傾聴し、目的や場面に応じ、相手の様子に合わせて話したり、表現の工夫を評価して聞いたり、課題の解決に向けて話し合ったりしている。	国語で伝え表現する力を進んで高めるとともに、国語に対する認識を深め、他者の意見との差異を認め、言語活動を通して自己を向上させようとする
評 価 方 法	・学習状況 ・定期テスト ・発問への応答 ・ミニレポート	・学習状況 ・定期テスト ・発問への応答 ・ミニレポート	・学習状況 ・発問への応答 ・ミニレポート

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにあわせて評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間		・対話の精神 ・ミロのヴィーナス	○	○ ○	○	・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。 ・目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを適切に読み取り表現することができる。	・学習状況 ・発問への応答 ・疑問の発露
1 学期 期末		・敬語への自覚、他者への自覚 ・分かち合う社会	○	○ ○	○	・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを適切に読み取り表現することができる。	・学習状況 ・発問への応答 ・疑問の発露
2 学期 中間		・家族化するペット ・グローバルゼーションと文化	○ ○	○ ○	○ ○	・言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、自身で表現できる。 ・主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味し内容を解釈している。	・学習状況 ・発問への応答 ・疑問の発露
2 学期 期末		・人口知能の可能性の罨 ・世界を広げる「批評」の言葉	○ ○	○ ○	○ ○	・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。	・学習状況 ・発問への応答 ・疑問の発露
3 学期		・デジタル地図から見える世界 ・「方言コスプレ」現象	○	○ ○	○ ○	・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握している。 ・自己の能力をきちんと分析し、対策を立て、計画的に勉強している。	・学習状況 ・発問への応答 ・疑問の発露

2025 年度 相愛高等学校 2 年 普通科 特進コース シラバス

教科	公民	科目	公共	単位数	2	選択等	必修
教科書	公共（実教出版）						
副教材等	サクシード政経／公共（啓隆社）、授業プリント						

1 学習の到達目標

1. 考察・選択・判断のための手掛かりとなる概念・理論を理解し、諸資料から必要な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。
2. 現実社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。
3. よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

中学校の社会科で学習した基本的な知識をもとに、現代社会の諸課題について考える授業です。基本的な用語の暗記にとどまらず、理解、考察まで学びを深めるように心がけましょう。新聞やニュース等に触れる習慣をつけておきましょう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	倫理、現代の政治、経済、社会、国際関係、また持続可能な社会などにかかわる基本的な事項や課題について体系的、総合的に理解し、その知識を身につけているか。	倫理、現代の政治、経済、社会、国際関係、また持続可能な社会などにかかわる基本的な問題、人間にかかわる諸問題を考察し、それらの本質や特質、さらには望ましい解決のあり方について広い視野に立って多面的、多角的に考察しているか、また社会の変化やさまざまな立場、考え方があることを理解した上で公正に判断しているか、課題についての考察や判断の過程や結果をさまざまな方法を駆使して適切に表現しているか。	倫理、現代の政治、経済、社会、国際関係、また持続可能な社会などにかかわる基本的な問題や課題にかかわる事柄に関心をもち、意欲的に探求しようとしているか、また社会事象を総合的に理解し考察しようとする態度を身につけているか、さらに国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進をはかるために参加、協力する態度を身につけているか。

評価方法	・学習状況 ・定期考査 ・発問への対応	・学習状況 ・定期考査 ・発問への対応	・学習状況 ・提出物等 ・発問への対応
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1学期 中間	第1編 公共の扉	社会を作る私たち	○	○	○	・自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解できている。 ・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解できている。 ・自分自身が、自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になることが、自らのキャリア形成とともによりよい社会の形成に結び付くことについて理解できている。 ・社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現できている。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度

		人間としてよく生きる	○	○	○	・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解できている。 ・選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解できている。 ・人間としての在り方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。 ・社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現できている。	
		他者とともに生きる	○	○	○	・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解できている。 ・選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解できている。	

						・現代の諸課題について自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方を活用することを通して、行為者自身の人間としての在り方生き方について探求することが、よりよく生きていく上で重要であることについて理解できている。 ・人間としての在り方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。 ・倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現できている。	
1 学 期 期 末	第 1 編 公 共 の 扉 第 ／ 2 編 よ り よ い 社	民主社会の倫理	○	○	○	・各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解できている。 ・人間の尊厳と平等, 個人の尊重, 自由・権利と責任・義務など, 公共的な空間における基本的原理について理解させる。 ・公共的な空間における基本的原理について, 思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して, 個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し, 表現できている。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度

	会 の 形 成 に 参 加 す る 私 た ち	民主国家における基本 原理	○	○	○	・各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等，協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが，公共的な空間を作る上で必要であることについて理解できている。 ・個人の尊重，民主主義，法の支配など，公共的な空間における基本的原理について理解できている。 ・公共的な空間における基本的原理について，思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して，個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し，表現できている。
		日本国憲法の基本的性 格	○	○	○	・法や規範の意義及び役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に，憲法の下，適正な手続きに則り，法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し，個人や社会の紛争を調停，解決することなどを通して，権利や自由が保障，実現され，社会の秩序が形成，維持されていくことについて理解できている。 ・我が国の安全保障と防衛などに関わる現実社会の事柄や課題を基に，日本国憲法の平和主義について理解を深めることができるようにするとともに，我が国の防衛に関する基本的な事柄にも触れながら，変化する国際情勢の中で，我が国の安全が世界の平和の維持といかに不可分に関連しているかについて理解できている。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から，自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し，読み取り，まとめる技能を身に付けている。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し，合意形成や社会

		日本の政治機構と政治参加	○	○	○	参画を視野に入れながら，その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを，論拠をもって表現できている。 ・司法参加の意義などに関わる現実社会の事柄や課題を基に，憲法の下，適正な手続きに則り，法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し，個人や社会の紛争を調停，解決することなどを通して，権利や自由が保障，実現され，社会の秩序が形成，維持されていくことについて理解できている。 ・政治参加と公正な世論の形成，地方自治などに関わる現実社会の事柄や課題を基に，よりよい社会は，憲法の下，個人が議論に参加し，意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解できている。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から，自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し，読み取り，まとめる技能を身に付けている。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し，合意形成や社会参画を視野に入れながら，その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを，論拠をもって表現できている。	
2 学 期 中 間	第 2 編 よ り よ い 社	現代の経済社会	○	○	○	・雇用と労働問題，財政及び租税の役割，少子高齢社会における社会保障の充実・安定化，市場経済の機能と限界，金融の働きなどに関わる現実社会の事柄や課題を基に，公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること，市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したり	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度

	会の形成に参加する私たち				する役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解できている。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現できている。	
2学期末	第2編よりよい社会の形成に参加する私たち	日本経済の特質と国民生活	○	○	○ ・多様な契約及び消費者の権利と責任、職業選択、雇用と労働問題、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解できている。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現できている。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度

		国際政治の動向と課題	○	○	○	・国家主権，領土（領海，領空を含む。），我が国の安全保障と防衛，国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に，相互に対等なものとして尊重される主権国家の行動を規律し国際間の秩序をつくり出す国際法の意義と役割や領土が領空や領海を含むものであり，国民の基本的な生活を保障し資源を確保する領域であること，国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について理解できている。	
3 学 期	第 2 編 よ り よ い 社 会 の 形 成 に 参 加 す る 私 た ち ／ 第 3 編 持 続	国際政治の動向と課題 国際経済の動向と課題	○	○	○	・現実社会の諸課題に関わる諸資料から，自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し，読み取り，まとめる技能を身に付けている。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し，合意形成や社会参画を視野に入れながら，その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを，論拠をもって表現できている。 ・経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む。）などに関わる現実社会の事柄や課題を基に，世界経済がより緊密に結び付き，経済活動が世界的な規模で自由に行われていること，一国の経済政策や経済活動が他国にも影響を与えるなど，国際社会において相互依存関係が一層深まっていること，国際社会における貧困や格差が解消されていない状況やこれらの解決が地球的な課題であることについて理解できている。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から，自立した主体として活動するために	定期考查 提出課題 発問評価 授業態度

可能な社会づくりの主体となる私たち	持続可能な社会をめざして		○	○	必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現できている。 ・地域の創造，よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し，共に生きる社会を築くという観点から課題を見いだし，その課題の解決に向けて事実を基に協働して考察，構想し，妥当性や効果，実現可能性などを指標にして，論拠を基に自分の考えを説明，論述できている。 ・この科目のまとめとして位置付け，社会的な見方・考え方を総合的に働かせ，第1部で身に付けた選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理などを活用するとともに，第1部及び第2部で扱った課題などへの関心を一層高めている。 ・個人を起点として，自立，協働の観点から，多様性を尊重し，合意形成や社会参画を視野に入れながら探究している。	
-------------------	--------------	--	---	---	---	--

2025 年度 相愛高等学校 2 年 普通科 専攻選択コース シラバス

教科	理科	科目	地学基礎	単位数	2	選択等	必修
教科書	「地学基礎」(第一学習社)						
副教材等	「ネオパルノート 地学基礎」(第一学習社)						

1 学習の到達目標

- 日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、自ら課題を設定し、見通しをもって観察、実験などを行うことができる、科学的に探究する資質・能力を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的に探究しようとする態度を養う。 - 現在の地球の活動について観察、実験などを通して探究し、地球の構造や、プレートの運動と地殻変動や地震・火山などの地球の活動との関連や地球の大気と海洋の働きを理解する。 - 地球の現在に至るまでの過程について観察、実験などを通して探究し、太陽系に誕生した惑星としての地球の特徴や、現在までの地球規模の自然環境および生物の変遷を理解する。また、地球の環境と人間生活との関わりについて理解する。
--

2 担当者からのメッセージ(学習方法等)

地学基礎は、基本を覚えて、コツをつかむとわかりやすくなる科目です。地球の歴史と地球についての不思議を学んでいきましょう。復習を丁寧にしていくこと、自主的に問題集に取り組むと、より理解が深まるでしょう。
--

3 学習評価(評価基準と評価方法)

観 点	I：知識・技能(技術)	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	観察、実験などを通して地学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 地学的な事物・現象に関する観察、実験の技能を習得するとともに、それらを科学的に探究する方法を身に付けている。	地学的な事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行うとともに、事象を実証的、論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして、問題を解決し、事実にもとづいて科学的に判断したことを、言語活動を通じて表現する。	地学的な事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。
評 価 方 法	定期考査 小テスト・課題 観察や実験活動 表の作成・グラフ作成	定期考査 観察や実験活動 式の利用やグラフ作成 授業中の発言やノートやレポートなどの記述 小テスト・課題	授業中の発言や態度、ノートやレポートなどの内容 授業や単元の振り返りシート の内容

上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1学期 中間	地球のすがた	第1節 地球の概観 1.地球の形と大きさ	○			・地球の形と大きさについて、関連する歴史や、エラトステネスの測定法による地球の大きさの求め方を学習する。 I：エラトステネスによる測定をもとに、計算によって地球の大きさを求めることができる。	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度
		2.地球の形の特徴と大きさ	○		○	III：地球の形と大きさの測定の歴史について意欲的に学習しようとしている。 ・地球の形や大きさについて学習する。 I：地球楕円体、緯度1°あたりの経線の長さの測量について理解し、知識を身に付けている。 II：地形図を利用した実習を通して、地球の形について考察することができる。 III：地球の形や大きさについて意欲的に学習しようとしている。	
		3.地球の内部構造	○			・地球の層構造を学習し、表面と内部の性質の違いを理解する。 I：地球の層構造(地殻・マントル・外核・内核)と、各層の特徴を理解し、知識を身に付けている。 II：地球を構成する元素を示すグラフを判読し、地球内部の構成物質の違いについて考察することができる。 II：岩石と鉄の密度の比較を通して、地球内部の各層の密度の違いについて考察することができる。	
		4.地球内部の動き	○		○	III：地球内部の層構造や各層を構成する物質の違いに関心をもち、地球内部のなりたちを意欲的に探究しようとしている。 ・地殻や核を構成する物質の違いについて学習する。 I：地球内部の構成物質の違いによる区	

		第2節 プレーートの運動 1. プレーートの分布と運動 2. プレーートの境界 3. 地殻の変動と地質構造	○	○	分とかたさによる区分の違い、プレートについて理解し、知識を身に付けている。 ○ III：地球内部の動きに関心をもち、意欲的に学習しようとしている。 ・プレートの分布と運動について学習する。 I：プレートの分布や種類、プレートの動き、大陸移動説について理解し、知識を身に付けている。 II：ハワイと日本の距離の変化のグラフを判読し、プレートの運動について考察することができる。 ○ III：プレートの分布と運動について関心をもち、意欲的に学習しようとしている。 ・プレートの境界の特徴について学習する。 I：3種類のプレートの境界の特徴を理解し、知識を身に付けている。 II：プレートの境界で形成される大地形について、プレートの運動との関連を考察することができる。 ○ III：プレートの境界について関心をもち、意欲的に学習しようとしている。 ・断層の形式と褶曲について学習する。 I：断層の種類や褶曲について、形成される条件などの特徴を理解し、知識を身に付けている。 II：地殻変動について、プレートの運動に関連させて考察することができる。 II：地層モデルを用いた実験を通して、断層が形成される状況について考察することができる。 ○ III：断層の形式と褶曲について関心をもち、地殻の変動のようすを解明する方法を意欲的に習得しようとしている。	
1 学 期 期 末	地 球 の す が	4. 変成作用	○	○	・変成作用と変成岩について学習する。 I：広域変成作用と接触変成作用の違いを理解し、知識を身に付けている。 III：変成作用と変成岩について関心をもち、プレートの運動と関連させて、意欲	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度

た 地 球 の 活 動	5.大地形の形成	○		的に学習しようとしている。 ・大地形の形成とプレートテクトニクスについて学習する。 Ⅰ：造山帯の形成、大陸地殻の形成・成長の過程を理解し、知識を身に付けている。 Ⅱ：プレートテクトニクスという概念を理解し、地殻の変動について、プレートの運動によって説明することができる。 Ⅲ：大地形の形成とプレートテクトニクスについて関心をもち、地殻変動とプレートの運動との関係について意欲的に学習しようとしている。
	第1節 地震			・地震の発生と分布の特徴について学習する。
	1.地震の発生と分布	○		Ⅰ：地震の発生と分布の特徴について理解し、知識を身に付けている。 Ⅱ：世界の地震分布に関する資料を判読し、地震の分布の特徴を、地下のプレートと関連させて見いだすことができる。 Ⅲ：地震の発生と分布の特徴に関心をもち、地震のおこるしくみについてプレートの運動と関連させて、意欲的に探究しようとしている。
	2.地震波の伝わり方	○	○	・地震波や震源の決定方法について学習する。 Ⅰ：地震波や大森公式について理解し、知識を身に付けている。 Ⅱ：大森公式を利用して、初期微動継続時間から震源距離を求めることができる。 Ⅲ：地震波や大森公式に関心をもち、地震のおこるしくみについて意欲的に探究しようとしている。
	3. 日本付近で発生する地震①			・日本付近で発生する地震の分布と種類について学習する。
	4. 日本付近で発生する地震②	○		Ⅰ：日本付近の地震の分布と種類を理解し、知識を身に付けている。 Ⅱ：日本付近の地震分布に関する資料を用いた実習を通して、地震の分布と地下のプレートとの関連を考察することができる。
		○	○	

				○	Ⅱ：南海地震前後の室戸岬の変動を示すグラフから、地震のおこるしくみ、地震の種類について、地下のプレートと関連させて考察することができる。 ○ Ⅲ：日本付近で発生する地震の分布と種類に関心をもち、地震のおこるしくみについて意欲的に探究しようとしている。 ・世界および日本の火山の分布について学習する。	
		第2節 火山活動				
		1.火山の分布		○	Ⅱ：世界の火山分布と日本の火山分布の資料から、マグマの発生する場所について、地下のプレートと関連させて考察することができる。 ○ Ⅲ：世界および日本の火山の分布に関心をもち、火山活動について意欲的に学習しようとしている。 ・火山の形成について学習する。	
		2.火山の形成とマグマ		○	Ⅰ：火山の形成過程について、地下のプレートと関連させて理解し、知識を身に付けている。 ○ Ⅲ：火山の形成に関心をもち、火山活動について意欲的に学習しようとしている。 ・火山噴出物と火山の噴火について学習する。	
		3.火山の噴火		○	Ⅰ：噴火のしくみ、火山噴出物の種類、噴火の様式とマグマの性質の関係について理解し、知識を身に付けている。 ○ Ⅱ：肉眼および双眼実体顕微鏡による火山灰の観察から、もととなったマグマの性質を考察することができる。 ○ Ⅲ：火山噴出物と火山の噴火に関心をもち、火山活動について意欲的に学習しようとしている。 ・火山の形について学習する。	
		4.火山の地形		○	Ⅰ：火山の形の特徴とマグマの性質との関係を理解し、知識を身に付けている。 ○ Ⅱ：マグマの性質と噴火の様式や火山の形を示す表から、実際の火山について、その形とマグマの性質の関連を考察することができる。 ○ Ⅲ：火山の形に関心をもち、火山活動に	

						ついて意欲的に探究しようとしている。	
2 学 期 中 間	地 球 の 活 動 大 気 と 海 洋	5.火成岩の形成	○			・火成岩の産状と組織、火山岩と深成岩の違いについて学習する。 Ⅰ：火成岩は、産状によって鉱物の形や組織が異なることを理解し、知識を身に付けている。 Ⅱ：火成岩の組織の観察から、鉱物の形の特徴を見いだすことができ、火山岩や深成岩に分類できる。 Ⅲ：火成岩の産状、火山岩と深成岩の違いに関心をもち、火成岩のなりたちを意欲的に学習しようとしている。	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度
		6.火成岩の種類	○	○	○	・火成岩のおもな造岩鉱物の特徴を学習し、火成岩の分類について理解する。 Ⅰ：火成岩のおもな造岩鉱物、火成岩の分類、偏光顕微鏡による造岩鉱物の特徴を理解し、知識を身に付けている。 Ⅱ：火成岩の組織と、岩石中に含まれる造岩鉱物の量をもとにして、岩石名を判断することができる。 Ⅲ：火成岩のおもな造岩鉱物の特徴、火成岩の分類に関心をもち、火成岩のなりたちを意欲的に学習しようとしている。	
		第1節 地球のエネルギー収支	○		○	・大気の組成と圧力、大気圏の構造について学習する。 Ⅰ：大気の組成と圧力、大気圏の構造について理解し、知識を身に付けている。 Ⅱ：高度別の気温のデータから、グラフを作成し、大気圏が高度による気温の変化にもとづいて区分されていることを確認することができる。 Ⅲ：大気の組成、大気の圧力、大気圏の構造、オゾン層に関心をもち、各種の気象情報を積極的に日常生活に利用しようとしている。	
		1.大気の構成と特徴① 2.大気の構成と特徴②	○	○	○	・大気中の水の変化について学習し、対流圏でおこる現象を理解する。 Ⅰ：大気中の水の変化と、大気に含まれる水蒸気量と温度の関係を理解し、知識を身に付けている。	
		3.対流圏における水の変化	○				

			○	○	II：飽和水蒸気圧と温度との関係を示すグラフから、相対湿度を計算によって求めることができる。 ○ III：大気中の水の変化、雲の発生、降水のしくみについて関心をもち、天気の移り変わりのしくみを意欲的に学習しようとしている。 ・太陽放射と地球放射について理解する。	
	4.太陽放射と地球放射		○		I：太陽放射、太陽定数、地球放射を理解し、知識を身に付けている。	
			○	○	II：太陽放射と地球放射の波長とエネルギーのグラフから、太陽放射と地球放射の違いを確認できる。	
				○	○ III：太陽放射と地球放射に関心をもち、太陽エネルギーの働きについて意欲的に学習しようとしている。 ・大気エネルギー収支を理解し、大気の温室効果について考察する。	
	5.地球を出入りするエネルギー		○		I：大気エネルギー収支、温室効果、放射冷却を理解し、知識を身に付けている。	
			○	○	II：大気エネルギー収支の図において、地球のエネルギー収支の平衡を数値で確認することができる。	
				○	○ III：大気エネルギー収支に関心をもち、温室効果のはたらきについて意欲的に学習しようとしている。 ・緯度ごとのエネルギー収支を学習し、地球における南北の熱の輸送について理解する。	
	第2節 大気と海水の運動					
	1.エネルギー収支の緯度分布		○		I：緯度ごとのエネルギー収支、地球における南北の熱の輸送を理解し、知識を身に付けている。	
				○	II：緯度ごとのエネルギー収支を示すグラフを作成し、グラフから地球の南北の熱の輸送について考察することができる。	
				○	○ III：緯度ごとのエネルギー収支に関心をもち、大気の大循環について意欲的に学習しようとしている。 ・風が吹くしくみについて理解する。	
	2.風					

		3.大気の大循環① 4.大気の大循環② 5.海洋の構造	○	○	○ I：風が吹くしくみ、海陸風や季節風の違いを理解し、知識を身に付けている。 ○ III：風が吹くしくみに関心をもち、海陸風や季節風について意欲的に学習しようとしている。 ・地球規模の大気の大循環について学習する。 I：大気の大循環および、各地域での大気の動きを理解し、知識を身に付けている。 ○ III：大気の大循環に関心をもち、各地域での大気の動きについて意欲的に学習しようとしている。 ・海水の組成と温度について学習し、海洋の層構造を理解する。 I：海水の組成と温度から、海洋の層構造を理解し、知識を身に付けている。 ○ II：海面水温の分布に関する資料から、分布の特徴を見いだすことができる。 ○ III：海水の組成と温度、海洋の層構造について関心をもち、海水の役割について意欲的に学習しようとしている。	
2 学 期 期 末	大 気 と 海 洋 宇 宙 と 地 球	6.海洋の大循環 7.エルニーニョ現象とラニーニャ現象	○	○	・海洋表層の循環と深層に及ぶ循環について学習する。 I：海流、深層水の大循環モデルを理解し、知識を身に付けている。 II：塩水を用いた再現実験を通して、深層に及ぶ循環のしくみについて考察することができる。 ○ III：海洋表層の循環、深層に及ぶ循環について関心をもち、海水の役割について意欲的に学習しようとしている。 ・エルニーニョ現象とラニーニャ現象について理解する。 I：エルニーニョ現象やラニーニャ現象について理解し、知識を身に付けている。 II：エルニーニョ現象やラニーニャ現象	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度

		第1節 宇宙と太陽の誕生			が発生したときに、日本の気候に与える影響について考察することができる。
		1.宇宙の探究	○		○ III：エルニーニョ現象、ラニーニャ現象について関心をもち、海水と大気の相互作用と人間生活との関わりについて意欲的に学習しようとしている。 ・宇宙の探究の歴史について学習する。 I：宇宙の探究の歴史について理解し、知識を身に付けている。
		2.宇宙の始まり①			○ III：宇宙の探究の歴史に関心をもち、宇宙の構造やその誕生過程について意欲的に探究しようとしている。 ・宇宙の始まり、銀河系の構造について学習する。
		3.宇宙の始まり②	○		I：宇宙の始まり、銀河系の構造について理解し、知識を身に付けている。
			○	○	II：星団の観察を通して、星団の位置を確認し、恒星や銀河について理解を深めることができる。
		4.太陽の誕生			○ III：ビッグバン、元素の誕生や宇宙の晴れ上がり、恒星・銀河に関心をもち、宇宙の始まりについて意欲的に探究しようとしている。 ・太陽の誕生過程やエネルギー源について学習する。 I：太陽の誕生過程やエネルギー源、現在の太陽について理解し、知識を身に付けている。
		5.太陽の活動	○		○ III：太陽系の中心に位置し、地球から最も近い距離にある恒星である太陽に関心をもち、地球上にさまざまな影響を与える太陽のエネルギーについて意欲的に学習しようとしている。 ・太陽の表面や外層における活動について学習する。 I：太陽の表面や外層における活動について理解し、知識を身に付けている。
			○	○	II：太陽の黒点の観察を通して、太陽の活動について理解を深めることができる。
					○ III：太陽系の中心に位置し、地球から最も近い距離にある恒星である太陽に関

		第2節 太陽系と地球の誕生 1.太陽系の構造 2.太陽系の誕生① 3.太陽系の誕生② 4.太陽系の惑星 5.生命の惑星・地球	○	○	心をもち、地球上にさまざまに影響を与える太陽の活動を意欲的に学習しようとしている。 ・太陽系の構造と誕生過程について学習する。 I：太陽系の構造と誕生過程、地球型惑星と木星型惑星の違いを理解し、知識を身に付けている。 II：太陽系の形成時の位置や質量などの違いによって、地球型惑星と木星型惑星の内部構造が違うことを考察できる。 ○ III：太陽系を構成する天体やその誕生過程に関心をもち、太陽系の成り立ちについて意欲的に学習しようとしている。 ・太陽系の小天体の特徴について学習する。 I：太陽系の小惑星の特徴を理解し、知識を身に付けている。 II：木星の衛星の観察を通して、衛星が木星の周りを公転していることを確認できる。 ○ III：太陽系の小天体に関心をもち、その起源や形成過程について意欲的に学習しようとしている。 ・太陽系の惑星の特徴について学習し、その違いの要因を理解する。 I：地球型惑星と木星型惑星の特徴を理解し、知識を身に付けている。 II：それぞれの惑星の環境の違いから、その違いの要因について考察することができる。 ○ III：太陽系の惑星に関心をもち、惑星の環境を変化させる要因について意欲的に学習しようとしている。 ・地球に生命が存在する理由について学習する。 ・原始地球の誕生過程や原始地球の進化について理解する。 II：生命が誕生する条件、原始地球の誕生過程や原始地球の進化から地球に生命が存在する理由について理解し、知識を身に付けている。	
--	--	--	---	---	---	--

					○	Ⅲ：地球に生命が存在する理由に関心をもち、原始地球の誕生過程や進化について意欲的に学習しようとしている。	
3 学 期	生 物 の 変 遷 と 地 球 環 境 地 球 の 環 境	第1節 地層と化石 1.地層の形成 2.地層の重なりと広がり 3.堆積岩 4.化石と地質時代① 5.化石と地質時代②	○	○	○	・風化と河川の働きについて学習する。 Ⅰ：風化のしくみや河川の働きから、地層の形成について理解し、知識を身に付けている。 ○ Ⅲ：風化と河川の働きに関心をもち、地層の形成過程について意欲的に探究しようとしている。 ・整合と不整合、地層の対比、堆積構造について学習する。 Ⅰ：整合と不整合、地層の対比、堆積構造について理解し、知識を身に付けている。 ○ Ⅲ 地層の重なりや堆積構造などから、過去の変動のようすや堆積環境を調べる方法を意欲的に習得しようとしている。 ・堆積岩の形成、堆積岩の種類について学習する。 Ⅰ：堆積岩の形成、堆積岩の種類を理解し、知識を身に付けている。 ○ Ⅱ：堆積岩の観察を通して、堆積物から堆積岩の種類を判別することができる。 ○ Ⅲ：堆積岩の形成に関心をもち、堆積環境を調べる方法を意欲的に習得しようとしている。 ・さまざまな化石のでき方、示相化石と示準化石、相対年代と数値年代について学習する。 Ⅰ：さまざまな化石のでき方、示相化石と示準化石、相対年代と数値年代の違いについて理解し、知識を身に付けている。 ○ Ⅲ：さまざまな化石のでき方、示相化石と示準化石について関心をもち、地質時代のできごとを解明する方法を意欲的に習得しようとしている。 ・地質時代の区分について学習する。 Ⅰ：地質時代の区分について理解し、知	定期考査 小テスト 課題 実験活動 授業態度

			○	○	識を身に付けている。 Ⅱ：化石による地質時代の区分を行う実験を通して、生物の変遷と地質時代の区分の関係を確認することができる。 ○ Ⅲ：地質時代の区分について関心を持ち、地質時代のできごとを解明する方法を意欲的に習得しようとしている。 ・先カンブリア時代から新生代第四紀までの地球と生物の変遷について学習する。	
		第2節 地球と生物の変遷				
		1.先カンブリア時代①				
		2.先カンブリア時代②	○			
		3.古生代①				
		4.古生代②				
		5.中生代		○		
		6.新生代①				
		7.新生代②		○		
			○	○		
		第1節 地球環境の科学				
		1.気候変動	○			
		2 地球温暖化による変化		○	○	
			○			
		3. オゾン層の変化	○	○		
						Ⅱ：地球の酸素濃度や二酸化炭素濃度のグラフから、当時の環境や、生物の進化・絶滅について考察することができる。 Ⅱ：海水面の変化を示すグラフを判読し、氷期・間氷期の繰り返しと、海水面の下降・上昇の変化との関係を確認することができる。 Ⅱ 地質時代カレンダーの作成を通して、地学的なタイムスケールを身に付けることができる。 ○ Ⅲ：地質時代における生物界の移り変わりのようすに関心を持ち、地球の生い立ちを意欲的に探究しようとしている。 ・気候変動、地球温暖化について学習する。 Ⅰ：気候変動や地球温暖化の原因、地域による影響の違いを理解し、知識を身に付けている。 Ⅱ：世界の平均気温のデータから作成したグラフなど、地球温暖化に関する資料を判読し、地球温暖化の原因や、影響を考察することができる。 ○ Ⅲ：地球の気候変動と環境への影響や人間活動との関わりに関心を持ち、意欲的に学習しようとしている。 ・オゾン層の変化について学習する。 Ⅱ：オゾン層の変化から、オゾン層と人間活動の関わりについて理解し、知識を身に付けている。

		第6章 地球の環境 第2節 日本の自然環境 1. 自然の恩恵 2. 季節の変化 3. 気象災害① 4. 気象災害② 5. 地震災害 6. 地震による被害の軽減 7. 火山災害と防災	○	○	○ III：オゾン層に関心をもち、オゾン層の変化について意欲的に学習しようとしている。 ・自然エネルギーの利用や日本の資源について学習する。 I：自然エネルギーや日本の資源について理解し、知識を身に付けている。 ○ III：自然の恩恵について関心をもち、資源としての利用方法を意欲的に学習しようとしている。 ・日本付近の気団や日本の天気の特徴について学習する。 I：日本付近の気団や四季の天気の移り変わりを理解し、知識を身に付けている。 ○ II：衛星画像と天気図から、日本の特徴的な天気を判読することができる。 ○ III：気団に関心をもち、四季の天気の移り変わりを意欲的に学習しようとしている。 ・日本の気象災害や土砂災害とその対策について学習する。 I：日本の気象災害や土砂災害について理解し、その対策などの知識を身に付けている。 ○ II：気象観測のデータをもとにして、身近な地域での気象災害を予測することができる。 ○ III：日本の気象災害や土砂災害について関心をもち、それらの対策について意欲的に学習しようとしている。 ・日本の地震災害とその対策について学習する。 I：地震や津波による被害から、その対策について理解し、知識を身に付けている。 ○ III：地震や津波による被害について関心をもち、その対策について意欲的に学習しようとしている。 ・日本の火山災害とその対策について学習する。	
--	--	---	---	---	---	--

			○	○	I：火山災害とその対策について理解し、知識を身に付けている。 II：火山噴火の際に発生する災害について、ハザードマップから判読することができる。 ○ III：火山の災害について関心をもち、災害の種類やその防災について意欲的に学習しようとしている。	
--	--	--	---	---	--	--

2025 年度 相愛高等学校 2 年 普通科 専攻選択コース シラバス

教科	公民	科目	公共	単位数	2	選択等	必修
教科書	公共（実教出版）						
副教材等	サクシード政経／公共（啓隆社）、授業プリント						

1 学習の到達目標

1. 考察・選択・判断のための手掛かりとなる概念・理論を理解し、諸資料から必要な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。
2. 現実社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。
3. よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

中学校の社会科で学習した基本的な知識をもとに、現代社会の諸課題について考える授業です。基本的な用語の暗記にとどまらず、理解、考察まで学びを深めるように心がけましょう。新聞やニュース等に触れる習慣をつけておきましょう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	倫理、現代の政治、経済、社会、国際関係、また持続可能な社会などにかかわる基本的な事項や課題について体系的、総合的に理解し、その知識を身につけているか。	倫理、現代の政治、経済、社会、国際関係、また持続可能な社会などにかかわる基本的な問題、人間にかかわる諸問題を考察し、それらの本質や特質、さらには望ましい解決のあり方について広い視野に立って多面的、多角的に考察しているか、また社会の変化やさまざまな立場、考え方があることを理解した上で公正に判断しているか、課題についての考察や判断の過程や結果をさまざまな方法を駆使して適切に表現しているか。	倫理、現代の政治、経済、社会、国際関係、また持続可能な社会などにかかわる基本的な問題や課題にかかわる事柄に関心をもち、意欲的に探求しようとしているか、また社会事象を総合的に理解し考察しようとする態度を身につけているか、さらに国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進をはかるために参加、協力する態度を身につけているか。

評価方法	・学習状況 ・定期考査 ・発問への対応	・学習状況 ・定期考査 ・発問への対応	・学習状況 ・提出物等 ・発問への対応
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1学期 中間	第1編 公共の扉	社会を作る私たち	○	○	○	・自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解できている。 ・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解できている。 ・自分自身が、自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になることが、自らのキャリア形成とともによりよい社会の形成に結び付くことについて理解できている。 ・社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現できている。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度

		人間としてよく生きる	○	○	○	・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解できている。 ・選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解できている。 ・人間としての在り方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。 ・社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現できている。	
		他者とともに生きる	○	○	○	・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解できている。 ・選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解できている。	

						・現代の諸課題について自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方を活用することを通して、行為者自身の人間としての在り方生き方について探求することが、よりよく生きていく上で重要であることについて理解できている。 ・人間としての在り方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。 ・倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現できている。	
1 学 期 期 末	第 1 編 公 共 の 扉 第 ／ 2 編 よ り よ い 社	民主社会の倫理	○	○	○	・各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解できている。 ・人間の尊厳と平等, 個人の尊重, 自由・権利と責任・義務など, 公共的な空間における基本的原理について理解させる。 ・公共的な空間における基本的原理について, 思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して, 個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し, 表現できている。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度

	会 の 形 成 に 参 加 す る 私 た ち	民主国家における基本 原理	○	○	○	・各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等，協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが，公共的な空間を作る上で必要であることについて理解できている。 ・個人の尊重，民主主義，法の支配など，公共的な空間における基本的原理について理解できている。 ・公共的な空間における基本的原理について，思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して，個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し，表現できている。
		日本国憲法の基本的性 格	○	○	○	・法や規範の意義及び役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に，憲法の下，適正な手続きに則り，法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し，個人や社会の紛争を調停，解決することなどを通して，権利や自由が保障，実現され，社会の秩序が形成，維持されていくことについて理解できている。 ・我が国の安全保障と防衛などに関わる現実社会の事柄や課題を基に，日本国憲法の平和主義について理解を深めることができるようにするとともに，我が国の防衛に関する基本的な事柄にも触れながら，変化する国際情勢の中で，我が国の安全が世界の平和の維持といかに不可分に関連しているかについて理解できている。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から，自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し，読み取り，まとめる技能を身に付けている。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し，合意形成や社会

		日本の政治機構と政治参加	○	○	○	参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現できている。 ・司法参加の意義などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解できている。 ・政治参加と公正な世論の形成、地方自治などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解できている。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現できている。	
2 学 期 中 間	第 2 編 よ り よ い 社	現代の経済社会	○	○	○	・雇用と労働問題、財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、市場経済の機能と限界、金融の働きなどに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したり	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度

	会の形成に参加する私たち				する役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解できている。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現できている。	
2学期末	第2編よりよい社会の形成に参加する私たち	日本経済の特質と国民生活	○	○	○ ・多様な契約及び消費者の権利と責任、職業選択、雇用と労働問題、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解できている。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現できている。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度

		国際政治の動向と課題	○	○	○	・国家主権，領土（領海，領空を含む。），我が国の安全保障と防衛，国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に，相互に対等なものとして尊重される主権国家の行動を規律し国際間の秩序をつくり出す国際法の意義と役割や領土が領空や領海を含むものであり，国民の基本的な生活を保障し資源を確保する領域であること，国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について理解できている。	
3 学 期	第 2 編 よ り よ い 社 会 の 形 成 に 参 加 す る 私 た ち ／ 第 3 編 持 続	国際政治の動向と課題 国際経済の動向と課題	○	○	○	・現実社会の諸課題に関わる諸資料から，自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し，読み取り，まとめる技能を身に付けている。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し，合意形成や社会参画を視野に入れながら，その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを，論拠をもって表現できている。 ・経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む。）などに関わる現実社会の事柄や課題を基に，世界経済がより緊密に結び付き，経済活動が世界的な規模で自由に行われていること，一国の経済政策や経済活動が他国にも影響を与えるなど，国際社会において相互依存関係が一層深まっていること，国際社会における貧困や格差が解消されていない状況やこれらの解決が地球的な課題であることについて理解できている。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から，自立した主体として活動するために	定期考查 提出課題 発問評価 授業態度

可能な社会づくりの主体となる私たち	持続可能な社会をめざして		○	○	必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現できている。 ・地域の創造，よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し，共に生きる社会を築くという観点から課題を見いだし，その課題の解決に向けて事実を基に協働して考察，構想し，妥当性や効果，実現可能性などを指標にして，論拠を基に自分の考えを説明，論述できている。 ・この科目のまとめとして位置付け，社会的な見方・考え方を総合的に働かせ，第1部で身に付けた選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理などを活用するとともに，第1部及び第2部で扱った課題などへの関心を一層高めている。 ・個人を起点として，自立，協働の観点から，多様性を尊重し，合意形成や社会参画を視野に入れながら探究している。	
--------------------------	---------------------	--	---	---	---	--

2025 年度 相愛高等学校 2 年 音楽科 シラバス

教科	公民	科目	公共	単位数	2	選択等	必修
教科書	公共（実教出版）						
副教材等	サクシード政経／公共（啓隆社）、授業プリント						

1 学習の到達目標

1. 考察・選択・判断のための手掛かりとなる概念・理論を理解し、諸資料から必要な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。 2. 現実社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 3. よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。
--

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

中学校の社会科で学習した基本的な知識をもとに、現代社会の諸課題について考える授業です。基本的な用語の暗記にとどまらず、理解、考察まで学びを深めるように心がけましょう。新聞やニュース等に触れる習慣をつけておきましょう。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	倫理、現代の政治、経済、社会、国際関係、また持続可能な社会などにかかわる基本的な事項や課題について体系的、総合的に理解し、その知識を身につけているか。	倫理、現代の政治、経済、社会、国際関係、また持続可能な社会などにかかわる基本的な問題、人間にかかわる諸問題を考察し、それらの本質や特質、さらには望ましい解決のあり方について広い視野に立って多面的、多角的に考察しているか、また社会の変化やさまざまな立場、考え方があることを理解した上で公正に判断しているか、課題についての考察や判断の過程や結果をさまざまな方法を駆使して適切に表現しているか。	倫理、現代の政治、経済、社会、国際関係、また持続可能な社会などにかかわる基本的な問題や課題にかかわる事柄に関心をもち、意欲的に探求しようとしているか、また社会事象を総合的に理解し考察しようとする態度を身につけているか、さらに国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進をはかるために参加、協力する態度を身につけているか。

評価方法	・学習状況 ・定期考査 ・発問への対応	・学習状況 ・定期考査 ・発問への対応	・学習状況 ・提出物等 ・発問への対応
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1学期 中間	第1編 公共の扉	社会を作る私たち	○	○	○	・自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解できている。 ・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解できている。 ・自分自身が、自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になることが、自らのキャリア形成とともによりよい社会の形成に結び付くことについて理解できている。 ・社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現できている。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度

		人間としてよく生きる	○	○	○	・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解できている。 ・選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解できている。 ・人間としての在り方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。 ・社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現できている。	
		他者とともに生きる	○	○	○	・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解できている。 ・選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解できている。	

						・現代の諸課題について自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方を活用することを通して、行為者自身の人間としての在り方生き方について探求することが、よりよく生きていく上で重要であることについて理解できている。 ・人間としての在り方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。 ・倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現できている。	
1 学 期 期 末	第 1 編 公 共 の 扉 第 ／ 2 編 よ り よ い 社	民主社会の倫理	○	○	○	・各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解できている。 ・人間の尊厳と平等, 個人の尊重, 自由・権利と責任・義務など, 公共的な空間における基本的原理について理解させる。 ・公共的な空間における基本的原理について, 思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して, 個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し, 表現できている。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度

	会 の 形 成 に 参 加 す る 私 た ち	民主国家における基本 原理	○	○	○	・各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等，協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが，公共的な空間を作る上で必要であることについて理解できている。 ・個人の尊重，民主主義，法の支配など，公共的な空間における基本的原理について理解できている。 ・公共的な空間における基本的原理について，思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して，個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し，表現できている。	
		日本国憲法の基本的性格	○	○	○	・法や規範の意義及び役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に，憲法の下，適正な手続きに則り，法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し，個人や社会の紛争を調停，解決することなどを通して，権利や自由が保障，実現され，社会の秩序が形成，維持されていくことについて理解できている。 ・我が国の安全保障と防衛などに関わる現実社会の事柄や課題を基に，日本国憲法の平和主義について理解を深めることができるようにするとともに，我が国の防衛に関する基本的な事柄にも触れながら，変化する国際情勢の中で，我が国の安全が世界の平和の維持といかに不可分に関連しているかについて理解できている。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から，自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し，読み取り，まとめる技能を身に付けている。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し，合意形成や社会	

		日本の政治機構と政治参加	○	○	○	参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現できている。 ・司法参加の意義などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解できている。 ・政治参加と公正な世論の形成、地方自治などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解できている。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現できている。	
2 学 期 中 間	第 2 編 よ り	現代の経済社会	○	○	○	・雇用と労働問題, 財政及び租税の役割, 少子高齢社会における社会保障の充実・安定化, 市場経済の機能と限界, 金融の働きなどに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度

	よい社会の形成に参加する私たち					うことを通して資源の効率的な配分が図られること，市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解できている。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から，自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し，読み取り，まとめる技能を身に付けている。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し，合意形成や社会参画を視野に入れながら，その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを，論拠をもって表現できている。	
2学期期末	第2編よりよい社会の形成に参加する私たち	日本経済の特質と国民生活	○	○	○	・多様な契約及び消費者の権利と責任，職業選択，雇用と労働問題，少子高齢社会における社会保障の充実・安定化などに関わる現実社会の事柄や課題を基に，公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること，市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解できている。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から，自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し，読み取り，まとめる技能を身に付けている。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し，合意形成や社会参画を視野に入れながら，その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察し	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度

		国際政治の動向と課題	○	○	○	たり構想したりしたことを，論拠をもって表現できている。 ・国家主権，領土（領海，領空を含む。），我が国の安全保障と防衛，国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に，相互に対等なものとして尊重される主権国家の行動を規律し国際間の秩序をつくり出す国際法の意義と役割や領土が領空や領海を含むものであり，国民の基本的な生活を保障し資源を確保する領域であること，国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について理解できている。	
3 学 期	第 2 編 より よい 社会 の 形成 に 参加 する 私たち ／ 第 3	国際政治の動向と課題 国際経済の動向と課題	○	○	○	・現実社会の諸課題に関わる諸資料から，自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し，読み取り，まとめる技能を身に付けている。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し，合意形成や社会参画を視野に入れながら，その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを，論拠をもって表現できている。 ・経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む。）などに関わる現実社会の事柄や課題を基に，世界経済がより緊密に結び付き，経済活動が世界的な規模で自由に行われていること，一国の経済政策や経済活動が他国にも影響を与えるなど，国際社会において相互依存関係が一層深まっていること，国際社会における貧困や格差が解消されていない状況やこれらの解決が地球的な課題である	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度

編 持 続 可 能 な 社 会 づ く り の 主 体 と な る 私 た ち	持続可能な社会をめざして		○	○	ことについて理解できている。 ・ 現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 ・ 自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現できている。 ・ 地域の創造，よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し，共に生きる社会を築くという観点から課題を見だし，その課題の解決に向けて事実を基に協働して考察，構想し，妥当性や効果，実現可能性などを指標にして，論拠を基に自分の考えを説明，論述できている。 ・ この科目のまとめとして位置付け，社会的な見方・考え方を総合的に働かせ，第1部で身に付けた選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理などを活用するとともに，第1部及び第2部で扱った課題などへの関心を一層高めている。 ・ 個人を起点として，自立，協働の観点から，多様性を尊重し，合意形成や社会参画を視野に入れながら探究している。	
--	---------------------	--	---	---	--	--

2025 年度 相愛高等学校 2 年 普通科 特進コース シラバス

教科	地理歴史	科目	日本史探究	単位数	3	選択等	文系選択
教科書	詳説日本史（山川出版社）						
副教材等	新詳日本史（浜島書店）、プリント						

1 学習の到達目標

我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連づけて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に生きる人としての自覚と資質を養う。

2 担当者からのメッセージ（学習方法等）

歴史は暗記科目ではありません。理解しようという姿勢で授業にのぞめば、日本史がどんどん好きになって自然に知識は定着します。毎週一回の復習テストに合格することで全国模試の成績も上がり、難関大学に挑戦できるようになります。

3 学習評価（評価基準と評価方法）

観 点	I：知識・技能（技術）	II：思考・判断・表現	III：主体的に学習に取り組む 態度
観 点 の 趣 旨	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
評 価 方 法	定期考査 宿題テスト・小テスト 提出物 授業態度	定期考査 授業中の発問に対する回答 授業態度 提出物	定期考査 授業中の発問に対する姿勢 授業態度 提出物

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、各学期に通信票で提示、学年末に 5 段階の評価にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 年間指導計画

※表中の観点 I：知識・技能 II：思考・判断・表現 III：主体的に学習に取り組む態度

※原則として一つの単元・題材ですべての観点について評価することになるが、学習内容の各項目において特に重点的に評価を行う観点について○をつけている。

学期	単元名	学習内容	主に評価する観点			単元（題材）の評価基準	評価方法
			I	II	III		
1 学期 中間	第1章	日本文化のあけぼの 1 文化の始まり 2 農耕社会の成立	○	○	○	日本列島における旧石器文化・縄文文化の成立と変容を、自然環境の変化や大陸との影響に着目して理解している。水稻耕作の開始・金属器の伝来が弥生文化の社会に与えた影響を理解し、弥生土器などの出土品から得られる情報を収集して読み取る技能を身につけている。 黒曜石などの考古資料をもとに、集落・風習・食生活の変化などを踏まえて旧石器文化・縄文文化の社会について考察し、表現している。小国の形成から邪馬台国などの小国の連合について、環濠集落や武器の出現、「魏志」倭人伝などの文献資料にもとづき、国内外の情勢を踏まえて多角的に考察した結果を、根拠を示して表現している。 黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成について考察することを通じて、旧石器文化や縄文文化の特色を明らかにしようとしている。日本列島における農耕社会の特色とともに、国家の形成につながるような社会構造の変化について考察することを通じて、弥生文化の特色を明らかにしようとしている。	定期考査 宿題テスト・小テスト 授業中の発問に対する姿勢 授業態度 提出物
	第2章	古墳とヤマト政権 1 古墳文化の展開 2 飛鳥の朝廷	○	○	○	国家の形成と古墳文化について、中国大陸・朝鮮半島との関係に着目して、小国の形成過程や古墳の特色を理解している。推古天皇・厩戸王・蘇我馬子による政権運営や飛鳥文化の特色について、中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して理解している。 中国の歴史書の記事、日本列島内外の金	

					石文、小国の王墓の副葬品などをもとに、中国大陸・朝鮮半島との交渉がもつ意味や、小国の形成過程について多面的・多角的に考察し、表現している。仏教の受容や遣隋使の派遣などの大陸との交流について、資料をもとに考察した結果を、根拠を示して表現している。 中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して、小国の形成について考察することを通じ、古墳文化の展開とのつながりを見出そうとしている。中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して、推古朝の政治や文化の展開についての課題を主体的に追究しようとしている。	
1 学 期 末	第 3 章	律令国家の形成 1 律令国家への道 2 平城京の時代 3 律令国家の文化 4 律令国家の変容	○	○	○ 隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響に着目して、東アジア情勢の変容と政治の関係、律令体制の成立過程などを理解している。平城京における大宝律令・養老律令による律令体制の整備について、遣唐使の派遣や地方社会との関わりなどに着目して理解している。隋・唐など中国王朝との関係と文化への影響などに着目して、律令体制の形成と密接に関連する仏教文化の特色を理解している。東アジアとの関係の変化や社会の変化と文化との関係などに着目して、平安遷都前後の諸政策や平安初期の文化の変容を理解している。 天智朝・天武朝・持統朝の政治動向に着目して、律令体制整備の過程について考察し、表現している。文献資料をもとに、藤原氏を中核とする政治抗争の進展と墾田永年私財法にみられる土地制度の変容を関連づけて考察し、根拠を示して表現している。盛唐文化の受容を踏まえ、国史などの編纂や仏教美術の展開、仏教の興隆による鎮護国家の思想の誕生などについて考察し、表現している。 蝦夷や東アジア世界との関係の変化を踏まえて、中央における藤原北家の台	定期考查 宿題テスト・小テスト 授業中の発問に対する姿勢 授業態度 提出物

					頭、地方における土地支配体制の動揺について考察し、根拠を示して表現している。 隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響などに着目して、律令体制の成立過程とのつながりを明らかにしようとしている。平城京の造営と奈良時代の政治の動向に着目して、律令体制の展開に関する課題を主体的に追究しようとしている。隋・唐などの中国王朝から導入された文化を考察し、政治や社会の動きとのつながりを見出そうとしている。東アジアとの関係の変化や社会の変化を考察することを通じて、文化とのつながりを主体的に追究しようとしている。	
第4章	貴族政治の展開 1 摂関政治 2 国風文化 3 地方政治の展開と武士	○	○	○	藤原北家が権力を掌握していく過程を資料から読み取り、律令体制の変容の観点から摂関政治を理解している。大陸からの文物の定着を前提として、平安時代にはより日本の風土にあった文化が形成されたことを理解している。地方の諸勢力の成長と影響などに着目して、律令制度の実態や地方における開発、治安の維持、荘園の発達などについて、その特色や変容を理解している。 奈良時代の政治や平安初期の政治改革とも比較しながら、摂関政治の特色について考察し、根拠を示して表現している。国際関係の変化や遣唐使の廃止などを踏まえ、浄土教の出現による浄土の信仰の変容、かな文学の成立による国文学の発達などに着目して、貴族の生活・文化の特色を考察し、表現している。文献資料を活用して、国司の支配の変容と公領の変質、荘園の発達を踏まえて地方支配の状況を考察し、根拠を示して表現している。 唐の衰退と東アジア情勢の変化が日本社会に与えた影響を考察することを通	定期考查 宿題テスト・小テスト 授業中の発問に対する姿勢 授業態度 提出物

					じて、摂関政治期の社会の特色を明らかにしようとしている。平安時代の政治の在り方と文化との関係を考察することを通じて、そのつながりを見出そうとしている。国司の在り方や徴税方式の変化、武士の出現など、地方の豪族や武力をもった勢力の動向が政治・社会に与えた影響を明らかにしようとしている。	
2 学 期 中 間	第 5 章	院政と武士の躍進 1 院政の始まり 2 院政と平氏政権	○	○	○ 貴族政治や土地制度の変容などをもとに、諸資料から得られる情報を適切かつ効果的に調べてまとめ、古代から中世の国家・社会の変容を理解している。平氏政権の台頭とその背景、宋との交易などについて、諸資料から様々な情報を読み取り、武士の政治進出について理解している。 武士が台頭する契機や、この時期の土地制度の仕組みなどを考察し、古代から中世への時代の転換について根拠を示して表現している。武家政権の権力基盤となる武士の土地所有に至る変化を考察し、歴史における土地の支配や所有がもつ意味について多面的・多角的に考察し、表現している。 中世社会の特色について多面的・多角的に考察することを通じて、時代を通観する問いを表現し、追究しようとしている。古代との比較などを通して、中世では同じ時期に政治的な力をもつ勢力が複数存在していたことなど、中世の特色を探究しようとしている。	
	第 6 章	武家政権の成立 1 鎌倉幕府の成立 2 武士の社会 3 モンゴル襲来と幕府の衰退 4 鎌倉文化	○	○	○ 諸資料から情報を読み取り、源平争乱から鎌倉幕府の成立過程、幕府と朝廷の二元的支配構造、封建制度の成立などについて理解している。承久の乱が幕府と朝廷との関係に与えた影響について、諸資料から適切に情報を読み取り、理解している。宋・元などユーラシアとの交流に着目して、モンゴル襲来の国際的な背景	

					や国内政治への影響について理解している。公武関係の変化やユーラシアとの交流などに着目し、鎌倉時代の宗教や文化の特徴について、諸資料から情報を収集して読み取る技能を身につけている。幕府と朝廷の二元的支配構造の特色について、諸資料から得られた情報をもとに、根拠を明確にして表現している。武家と公家の関係の変化が土地の支配に及ぼした影響を考察し、根拠を明確にして表現している。鎌倉時代の生産の発達と商品の流通、東アジア情勢や国内での貨幣経済の発達とその意義について、多面的・多角的に考察し、表現している。宋・元との交流の窓口や貿易の担い手などを視野に入れて、ユーラシアとの交流を多面的・多角的に考察し、表現している。 鎌倉幕府の成立過程や封建制度の形成に関する課題を主体的に追究し、前の時代とのつながりを見出そうとしている。公武関係の変化による武家政権の展開に着目し、鎌倉時代を通じた武家の支配の特質について主体的に追究しようとしている。宋・元などユーラシアとの交流と経済や文化への影響について、主体的に追究しようとしている。鎌倉時代の宗教や文化にみられる平安時代からの特徴の継承や差異について、主体的に追究しようとしている。		
2 学 期 期 末	第 7 章	武家社会の成長 1 室町幕府の成立 2 幕府の衰退と庶民の台頭 3 室町文化 4 戦国大名の登場	○	○	○	鎌倉幕府滅亡後の政治権力の推移と武家の関係、日明貿易の展開と琉球王国の成立などについて、諸資料から情報を収集して理解している。諸産業や流通、地域経済が成長したことに着目し、諸資料から情報を読み取り、庶民が台頭して村などの自治的な単位が成立したことを理解している。経済の進展や各地の都市や村の発達、東アジアとの交流などに着目して、室町時代における多様な文化の	定期考査 宿題テスト・ 小テスト 授業中の発問に対する 姿勢 授業態度 提出物

					形成や融合について理解している。守護大名と戦国大名の権力の相違点などについて諸資料から情報を読み取り、戦国時代の大名による領国経営の特徴を理解している。 南北朝の動乱などにみられる地域の政治・経済の基盤をめぐる対立や、東アジアの国際情勢の変化とその影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。自治的な村の単位や一揆の組織が成立した要因と背景について、地理的な条件や流通など経済活動との関わりを多面的・多角的に考察し、表現している。室町時代の文化の特徴と、当時の政治や経済の動向との関係を多面的・多角的に考察し、根拠を明らかにして表現している。戦国大名による富国強兵策に着目して領国統治の特色を諸資料から考察し、堺や博多など都市の発展にみられる戦国時代の社会の多様性を表現している。武家政権の変容や東アジアの国際情勢の変化などに着目し、諸資料を活用して前後の時代とのつながりを見出そうとしている。室町時代に成立した村の自治的な運営が現代社会における自治とどのように異なるかなど、自身との関わりにおいて課題を主体的に追究しようとしている。室町時代の宗教や文化の特徴について、鎌倉時代との比較を通じて類似点や差異を見出そうとしている。15世紀から16世紀にかけて争乱が多発した理由など、戦国時代を中心とする歴史の展開に関わる課題を主体的に追究しようとしている。	
--	--	--	--	--	---	--

	第 8 章	近世の幕開け 1 織豊政権 2 桃山文化	○	○	○	村落や都市の支配の変化、アジア各地やヨーロッパ諸国との交流に関する諸資料から情報を読み取り、織豊政権の特色や貿易・対外関係について理解している。桃山文化が幅広い国際性をもちつつ、生活文化の中にとけ込んでいったことについて、諸資料から情報を読み取り、理解している。 織豊政権の諸政策の目的や、ヨーロッパ諸国の進出がアジアに与えた影響などについて多面的・多角的に考察し、表現している。豊臣政権による朝鮮出兵やヨーロッパ勢力との接触による南蛮文化の形成について、多面的・多角的に考察し、表現している。時代の転換に着目して、中世から近世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現しようとしている。 桃山文化の特色について、中世文化の特色との比較を通じて、その類似と差異を見出そうとしている。	
3 学 期	第 9 章	幕藩体制の成立と展開 1 幕藩体制の成立 2 幕藩社会の構造 3 幕政の安定 4 経済の発展 5 元禄文化	○	○	○	織豊政権との類似と相違、アジアの国際情勢の変化などに着目して、諸資料をもとに江戸幕府の法や制度の確立や対外政策の推移について理解している。幕藩体制下の支配体制や封建的身分秩序の形成に関する諸資料から適切に情報を読み取り、江戸時代の社会の構造を理解している。諸資料から情報を適切に読み取り、文治政治への転換から元禄時代・正徳期に至る政治の推移について理解している。産業の発達、交通の整備や貨幣・金融制度の確立による商品経済・流通の発達、三都に関わる諸資料から情報を読み取り、技術の向上と開発の進展について理解している。都市の発達と文化の担い手との関係などに着目して、17世紀の文化の特徴などについて、諸資料から情報を読み取る技能を身につけている。	定期考査 宿題テスト・ 小テスト 授業中の発問に対する姿勢 授業態度 提出物

					織豊政権と幕府の支配の構造の相違点や、江戸幕府による貿易統制の意義について多面的・多角的に考察し、表現している。新たな支配制度のもとにおける人々の生活の具体相について、根拠を示して表現している。戦乱のない時代が創出されたことの意義を踏まえ、人々の生活や意識がどのように変化したのかを多面的・多角的に考察し、表現している。陸上・水上における交通や流通の発達と、農業・工業・商業などの発達との関連を多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現している。近世前期における幕府の統治政策や藩財政の推移と文化との関係について、多面的・多角的に考察し、表現している。 幕藩体制が確立する過程における様々な画期について考察し、主体的に追究しようとしている。織豊政権下における社会の仕組みと幕藩体制下とを比較・考察し、そのつながりを見出そうとしている。幕藩体制が安定していく中で、江戸幕府の諸政策がもたらした人々の暮らしへの影響について、主体的に追究しようとしている。近世前期における交通・流通の発達や産業の発達などの様相について、その推移や展開を明らかにしようとしている。幕藩体制が安定していく中での経済の動向と上方の豪商との関係性を踏まえ、17世紀の文化の特色を明らかにしようとしている。	
--	--	--	--	--	--	--

第 10 章	幕藩体制の動揺 1 幕政の改革 2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代 への道 4 化政文化			幕府・諸藩の経済的窮乏、百姓一揆・打ちこわしの頻発などに関する諸資料から情報を読み取り、享保の改革や田沼時代の諸政策の意義について理解している。幕藩体制下の社会の変容に着目して、宝暦・天明期における新たな学問の確立、各地に設立された教育機関の展開を理解している。列強の接近にともなう事件や幕政改革に関する諸資料から情報を読み取り、幕府権力が衰退する一方で工場制手工業など近代の萌芽がみられ、雄藩が出現する過程を理解している。 商品作物の栽培や貨幣経済の浸透により、米作を基盤とする幕藩体制が動揺する過程を踏まえ、飢饉や一揆の発生が幕藩体制に与えた影響を考察し、表現している。幕藩体制の動揺と文化の展開との関連性について、諸資料から読み取れる情報をもとに多面的・多角的に考察し、表現している。国際情勢の変化と影響などに着目して、幕府政治の動揺と諸藩の動向について多面的・多角的に考察し、根拠を明らかにして表現している。近世の前半と後半を比較し、文化への影響力をもつ地域や担い手の変化をもたらした原因について多面的・多角的に考察し、表現している。 幕藩体制下の社会・経済の仕組みの変化や、幕府・諸藩の政策の変化について課題を見出し、主体的に追究しようとしている。政治・経済と文化の関係に着目して、宝暦・天明期における文化の展開について課題を見出し、主体的に追究しようとしている。飢饉や一揆への対応、外交政策の転換などについて、幕府や諸藩の課題を見出し、主体的に追究しようとしている。	
--------------	--	--	--	--	--